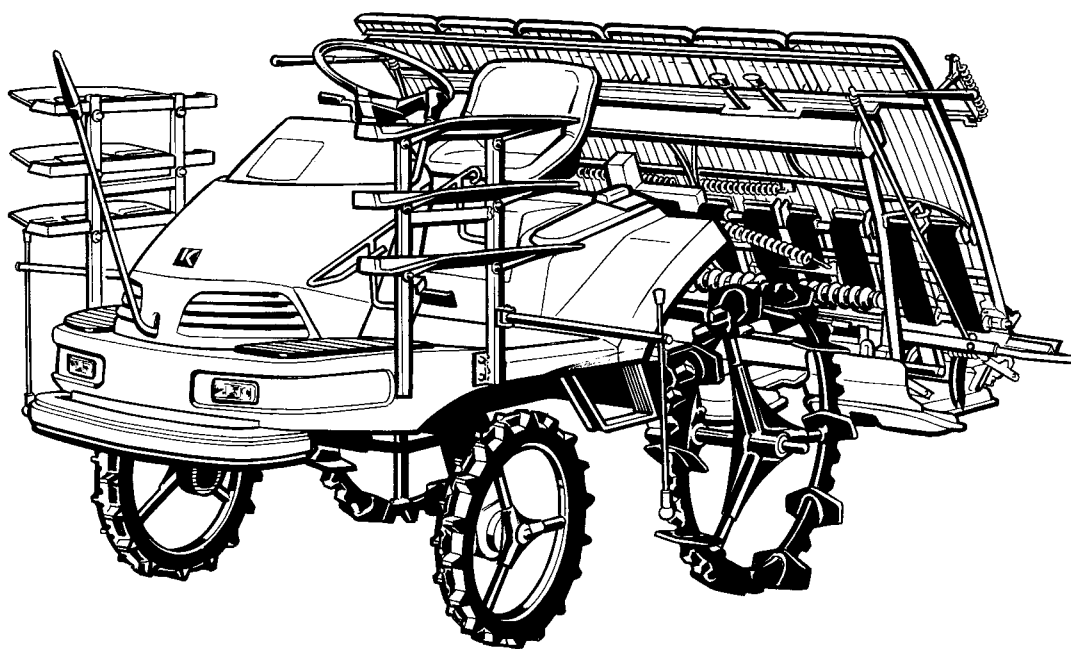
クボタ 乗用 田植機

取扱説明書

RAINBOW ACTIVE SPA 4 5 PRO SPA 6

P-2420

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

苗が少なくなると点滅

マーカ出し忘れで点滅

マーカのセット方向

施肥作業中に肥料が少なくなると点滅

前照灯

エンジン回転低速

植付けクラッチ **“切”** で点滅

あぜぎわクラッチを切ったとき点滅

燃料

肥料づまり条表示

エンジン回転高速

専門用語の説明

SPシフトレバー・・・・・・・・**“高速，低速”** 2段階の副変速レバー

SPスーパーシフトレバー・・・無段変速レバー

FCシフトレバー・・・・・・・・広範囲な速度が軽い操作力で選択できる新無段変速レバー

副変速レバー（速度調節用レバー）
- SPA4・・・・・・・・・ SPシフトレバー，高低速レバー
- SPA5, 6-S仕様以外・・・ SPスーパーシフトレバー
- S仕様・・・・・・・・・ FCシフトレバー

植付けクラッチ・・・・・・・**“入”** で植付部へ動力の伝達がつながるしくみ

マルチポンパ・・・・・・・・植付け部の昇降と植付クラッチの **“入”** **“切”** が指先で行えるレバー

バックアップ・・・・・・・・主変速レバーを **“後進”** の位置に入れると植付部が自動的に上昇するしくみ

ラインマーカ・・・・・・・・植付け作業中に隣接条間を合わすための目標となる線を引くための部分

SPマーカレバー・・・・・・・ハンドル手元にあるラインマーカを出すためのレバー，A仕様では植付けクラッチと連動

フィットセンサー・・・・・・植付け作業中のほ場条件による植付部の感度を調節するレバーやダイヤル

マイコンソフトクルーズ・・・エンジン負荷に合わせてマイコンにより速度を変化させるしくみ

マイコンソフトスタート・・・発進時は最低速度で設定速度まで自動的に増速するしくみ

ワンショット減速・・・・・・植付クラッチ**"切"**と同時に，最低速まで自動的に減速するしくみ

SPモンロ・・・・・・・・・・・マイコンのはたらきで植付け部をつねに水平に保つ装置

SPオート・・・・・・・・・・・エンジン回転数・車速に対応し，マイコンにより植付け部の昇降をコントロールする装置

フロート・・・・・・・・・・ほ場表面に浮き，整地するための部分

ナエキーパ・・・・・・・・・苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止するための押出し金具

クリーナ・・・・・・・・・・爪の間の苗詰まりを防止するための金具

しゅう動板ガード・・・・・・植付け部のしゅう動板があぜなどに当たり変形するのを防止するためのパイプ

安全クラッチ・・・・・・・・植付け爪に障害物が詰まったとき，植付け部のギアの破損を防止するために植付け部への動力を断つ装置

シートカバー・・・・・・・・雨・風・日光から田植機を守る本機カバー

主変速レバー・・・・・・・・**"後進"** **"植付"** **"移動"**に変速するためのレバー，SPAはパネルの左側

主クラッチペダル・・・・・・左側のペダル，いっぱい踏込むと動力が断たれる

ボンネット・・・・・・・・・車体前のエンジンを覆っている部分

連結金具・・・・・・・・・・ブレーキペダルの左に取付いている黄色の金具。移動走行などのとき左右のペダルを連結するためのもの

アクセルレバー・・・・・・・パネル右側にある，黒いにぎりのレバー，手前に引くとエンジン回転数があがる

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が秀れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，わからないことがあったときには取り出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
また，記載事項以外についても，運転される皆様ご自身，安全の確保には細心の注意を払ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠**警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠**注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明はSPA6を基本とし，SPA6と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

条数	型　式	基 本 仕 様
4条	SPA4	ー, L, M, ML
5条	SPA5	ー, M, D, DM, SM, SMW, ASM, AESM
6条	SPA6	ー, M, D, DM, SM, ASM, ASMW, AESM, DMC2, SMC2, AESMC2, DMG, SMG, ASMG, AESMG, DMCY, SMCY, ASMCY, AESMCY, DMCYP, SMCYP, ASMCYP, AESMCYP

上記以外の仕様があります。

T：後輪空気入りタイヤ
　SPA4M
　SPA5･6：－，Mを除く全機種
U：ウエイト仕様
　SPA5：全機種
　SPA6：－，Mを除く全機種
V：株間13･16･18cm
　SPA4：全機種

［表示内容］
M：ＳＰモンロ
D：インテグラルパワステ
S：ＦＣシフト
　ワンショット減速
　インテグラルパワステ
A：ＳＰオート
　マルチポンパ
　バックアップ
E：マイコン車速制御
　（マイコンソフトクルーズ
　マイコンソフトスタート
　ワンショット減速）
C：条間33cm
P：ポット苗植え
G：大径車輪φ900
W：疎植植え
Y：回転式予備苗台付
L：両ラグ車輪付φ800

乗用田植機を安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全に作業するために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と守るべき警告・注意事項を解説していますので熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置の機能をまず理解し，誤操作しないようにしてください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

次に乗用田植機の安全運転のための基本操作を体得しましょう

5．**乗用田植機の運転：**

(1)安全に機体を前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

(2)機体を駐車させエンジン運転しながら，毎作業前に点検すべき内容を理解し必ず実施してください。

(3)乗用田植機をほ場へ安全に移動走行させるため，安全装置の取付けや各装置の収納固定，トラックへの安全な積み・降ろしと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

自動装置で乗用田植機の性能を最大に発揮させましょう

6．**自動装置の使いかた：**各種自動装置の機能と扱いかたを習得してください。

では実際にほ場で田植作業を始めて見ましょう

7．**上手な田植作業のしかた：**作業前の諸装置のセット，作物とほ場条件に応じた各部の調整，正しく・安全な田植作業を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

8．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，田植のシーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

乗用田植機がもしもの不調のときは

9．**乗用田植機の不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で▲警告・▲注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

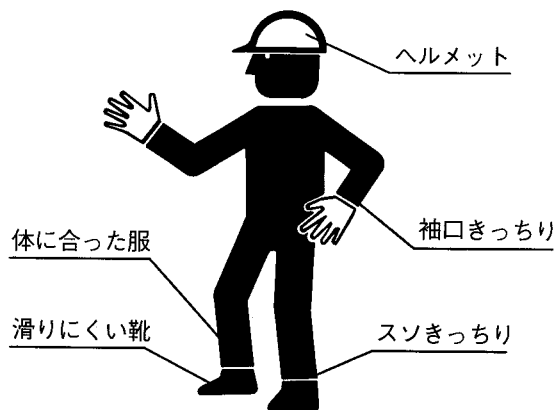
1．安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください。

■安全に指示順序

(1)本書および本機の警告，注意ラベルをよく読み理解してください。
(2)警告，注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。また，破損，紛失したときは注文して再度貼付けてください。
(3)正しい運転，作業方法を覚えてください。
(4)製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり，機能や寿命低下の原因になります。
(5)本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
(6)ほかの人に機械を貸すときは，取扱方法や安全のポイントをよく説明し，この取扱説明書をよく読むように指導してください。

M-6215

■作業に合った服装および健康状態

(1)作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
たぶついた服装は，回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は，すべらないものを使用してください。
(2)飲酒，過労，病気，妊娠中の作業は危険ですのでしないでください。

P-3010

P-3009

安全に作業するために

■子供が近づくのは危険

点検・整備中および田植え作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。

P-2995

■使用前の準備・点検

(1)燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は，エンジンを止めて行ってください。
(2)火気厳禁。
(3)平たんな場所で駐車ブレーキをかけて行ってください。
(4)植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧昇降ロックをするとともに，台などで支えをして落下を防止してください。
(5)使用前の点検は必ず行ってください。特にブレーキペダル・主クラッチペダルの点検は忘れないでください。
思わぬ事故につながります。

P-2991

P-2992

■エンジンの始動

(1)エンジンの始動は，運転席に座り，主変速レバーと植付けクラッチレバーが“中立”になっているか，レバーを動かして確認してください。
(2)機械の周囲の人・物に十分注意し，主クラッチペダルをロックしてから始動してください。
(3)屋内で始動するときは，窓・扉を開け，外気が十分入るようにしてください。

P-2994

F-8842

安全に作業するために

■走行運転

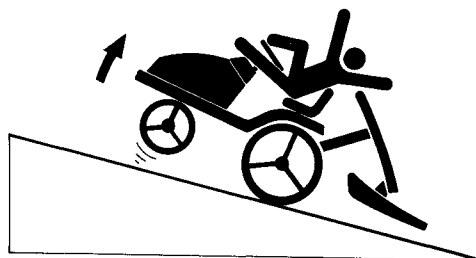
(1)この機械は一般道路は走れません。
(2)一般道路はトラックなどで運搬してください。
(3)発進前に，必ず，左右のブレーキペダルの連結と前輪ペダル（SPA4のみ）・デフロックペダル（SPA5，6）の解除，および植付け部が持上げられているかを確認してください。
(4)機械の周囲の人・物に注意して，ゆっくり発進してください。
(5)初めて運転される方は，操作になれるまで低速で運転してください。
(6)道のりが遠くても，その他どのような場合でも，絶対に運転者以外の人を乗せないでください。
(7)予備苗のせ台の上などに物を乗せないで，荷物はめんどうでも，別にトラックなどで運搬するようにしてください。
(8)主変速レバーを**"植付"**または**"移動"**に入れて発進する場合は，植付けクラッチレバーの**"中立"**を確認する。
(9)急発進・急停止・急旋回しないこと。
(10)主クラッチペダルは静かにはなすようにしてください。
(11)カーブ・曲り角ではスピードを落とし，ブレーキは早めにかけるようにしてください。
(12)わき見・手ばなし運転はしないこと。気のゆるみが大事故につながります。
(13)油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止をしてください。
(14)隣接マーカ・マスコットを折りたたみ，ラインマーカをロックし，苗のせ台を機体中央で止めるようにしてください。
(15)周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。

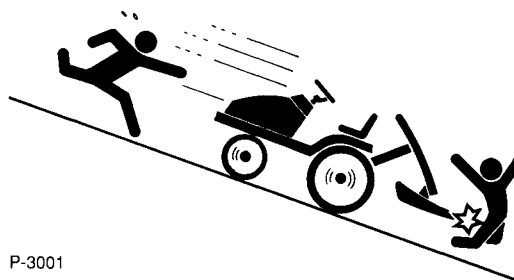
P-2996

P-2997

P-2998

■坂道走行

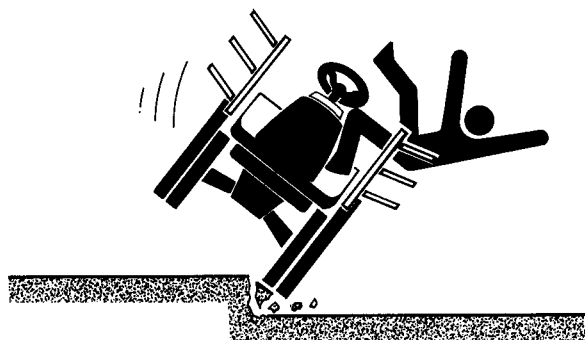
(1)坂の手前で一旦停止して，主変速レバーを**“植付”**に入れ換えてから，坂道の登り降りをしてください。
(2)左右のブレーキペダルの連結を確認し，下るときは必ずエンジンブレーキでおりてください。
(3)急発進は禁物。
(4)坂が急で，前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は，バックで登るようにしてください。
(5)坂の途中で主変速レバーを**“中立”**にしないでください。
(6)坂の途中で危険回避などのために機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込み，その後に主クラッチペダルを踏込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏込まないこと。またこのとき以外に主クラッチペダルは踏まないでください。
(7)坂道では，特別なときのほか駐車しないようにしてください。
(8)駐車する場合は，駐車ブレーキをかけて，石や木片などで下側の両輪に車止めをしてください。主クラッチペダルはロックしないこと。
(9)駐車中は，主変速レバーを**“植付”**または**“後進”**に入れておいてください。

P-3000

P-2999

P-3001

安全に作業するために

■農道，ほ場の移動

P-3002

(1)主変速レバー**"植付"**で，植付け部を持上げて，ゆっくり走行してください。
(2)路肩くずれに注意。
(3)草などでおおわていて路肩がわからないときや危ないと思われる所では，機械から降りて確認するようにしてください。
このとき必ずエンジンを止めて行ってください。
(4)雨あがりのとき，狭い農道では，速度を落として慎重に走行するようにしてください。
(5)対向車をさけるときは，無理に端いっぱいに寄らず，一旦停止して対向車をやりすごしてください。
(6)左右のブレーキペダルを連結してください。
(7)油圧昇降ロックをし，植付け部の落下を防止してください。
(8)隣接マーカ・マスコットを折りたたみ，ラインマーカをロックしてください。
(9)周囲の障害物に接触しないよう，ゆっくりと運転してください。

■ほ場

(1)機械をあぜ・溝に直角に向けて止め，主変速レバーを**“植付”**，副変速レバーを**“低速”**にして，植付部を下げ，静かに発進してください。後輪があぜに上がると同時に，植付部を上げてください。

(2)農道が狭い場合は，ほ場に出入口の傾斜をつくり，溝は渡り橋をつくってください。

(3)ほ場の出入り，土手などの急斜面の登り降り，溝越えのときには，必ずアユミ板を使うか，ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって，バックで登ってください。

(4)アユミ板は，機械の重量に耐える強度(金属製)で，段差に対して4倍以上の長さのもの，また，横サンスベリ止めのついたものを使用してください。

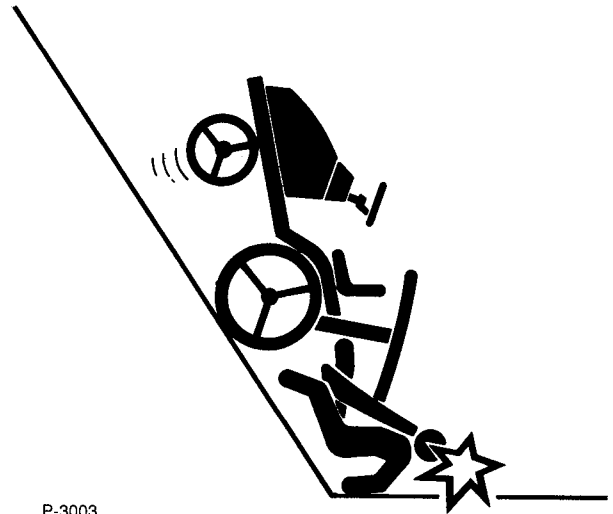
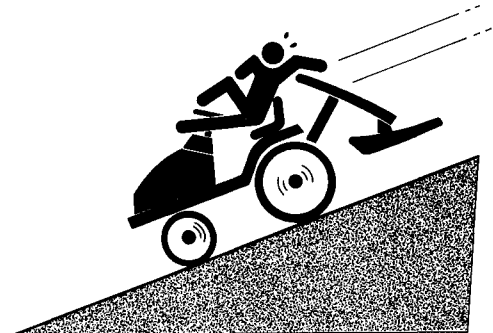
(5)アユミ板を登り始める前に，必ず左右のブレーキペダルの連結と前輪ペダル（SPA4のみ）・デフロックペダル（SPA5，6）を**“踏む”**ことを忘れないでください。

(6)あぜ・溝に対して機械を直角にとめ，左右の2枚のアユミ板が機械の両輪に合い，平行になっているかを確認してください。

(7)ハンドルを真っ直に直し，真っ直に登ってください。

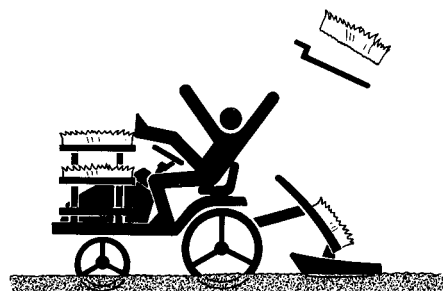
(8)急傾斜面の移動で斜面を下るときは，主変速レバーを**“植付”**，副変速レバーを**“低速”**で，前輪ペダルを踏んで前輪を左右ロックして，**“中立”**にしないでください。

(9)途中で主変速レバーを**“中立”**にしないでください。

(10)途中で危険回避などのために本機を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込み，その後に主クラッチペダルを踏込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏込まないこと。またこのとき以外に主クラッチペダルは踏まないでください。

P-3003

P-2999

安全に作業するために

■ほ場での作業

(1)苗を補給するときは，エンジン回転を低速にし，主クラッチペダルをロックし，主変速レバーと植付けクラッチレバーを**“中立”**にしてください。
(2)回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。
(3)補助者がいる場合は，互いに合図で確認するようにしてください。
(4)あぜ際で旋回するときは，あぜの周囲の人や物に十分注意を払ってください。
(5)作業中は，ほ場に人を入れたり，機械に人を近づけたりしないでください。
(6)ウエイト代りに，人や物を乗せないでください。
(7)夜間作業は絶対にしないでください。
(8)植付爪などに異物がかみこんだときは，エンジンを停止し，完全に止まったのを確認してから取除いてください。

P-3004

B-1506

B-1502

■機械から離れるときおよび走行，作業途中の駐車・点検

(1)駐車および点検などで運転席を降りるときは，エンジンを止め，駐車ブレーキをかけてキーを抜いてください。

(2)高温部に触れないよう注意してください。

(3)植付け部を持上げて点検するときは，油圧昇降ロックをし，植付部の落下を防止してください。

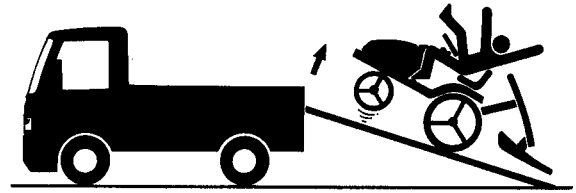
B-1502

P-3005

安全に作業するために

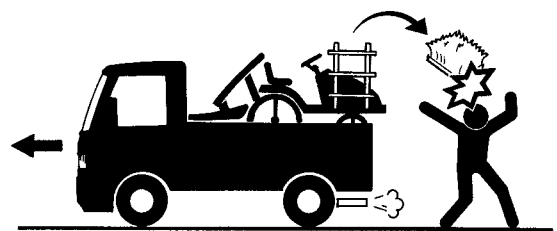
■トラックなどへの積み・降ろし

P-3006

(1)前進でアユミ板を登ると大変危険です。必ず，バックで積込み，前進で積降ろしてください。
(2)積み・降ろしを開始する前に，トラックのサイドブレーキがかかっているかを確認してください。
(3)左右のブレーキを連結してください。
(4)ブレーキを使用して適当な速度を保ってください。
(5)落輪に注意してください。
(6)前輪ペダルを使用してください。
(7)主変速レバーを **“後進”** または **“植付”**，副変速レバーを **“低速”** にしてください。
(8)途中で主変速レバーを **“中立”** にしないこと。
(9)アユミ板は，段差の４倍以上の長さのものを使ってください。
(10)誘導者を付け，周囲の安全を十分確認してください。また，機械の前には絶対に立たないでください。
(11)万一途中でエンストしたときは，即ブレーキペダルをいっぱい踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ道路まで降ろしてください。絶対に主クラッチを先に踏込まないこと。
(12)途中で危険回避などのために機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込み，その後に主クラッチペダルを踏込んでください。絶対に主クラッチペダルを先に踏込まないこと。またこのとき以外に主クラッチペダルは踏まないでください。

■トラックなどでの運搬

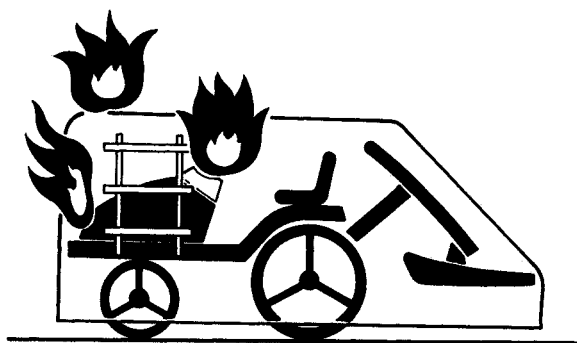
P-3007

(1)駐車ブレーキをかけてください。(主クラッチペダルはロックしないこと。)
(2)主変速レバーを **“後進”** に入れてください。
(3)ロープは前輪と後輪に掛け，確実に固定してください。
(4)苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は，必ず降ろしておいてください。

■バッテリの取扱い注意

(1)バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
(2)バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。
(3)バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。
(4)バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。
(5)充電は，機械から取外して行なってください。
(6)密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
(7)指定外のバッテリは使わないでください。
(8)バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
(9)目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
(10)目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。

F-8836

■使用後の手入れ

(1)点検・手入れ・掃除・調整は，エンジンを止めて行ってください。
取外したシートカバーなどは，必ず元のとおりに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
(2)格納するときは，平たんな場所に植付け部を下げて置いてください。
(3)左右のブレーキペダルを連結し，踏込んでロック金具をかけて駐車ブレーキをかけておいてください。
(4)シートカバーなどをかける場合は，エンジンなど加熱部分が十分冷えてからにしてください。火災の原因になります。
(5)長期格納時には，燃料タンクおよび燃料コックのポット内のガソリンを抜取ってください。
(6)長期格納時には，主クラッチペダルをロックしておいてください。
格納中にクラッチ板が錆びついて，急発進する危険があります。

P-3008

安全に作業するために

2．安全に作業するための事前点検

この田植機をいつも安全に快適に使っていただくために，運転前の事前点検を実施することが大切です。点検を怠ると，転落や火災等の原因にもなります。事故を未然に防ぐためにもぜひ実施してください。

■伝動・制動の点検

ブレーキの点検

ブレーキのききが悪かったり，片ぎきなどがあると，転落・転倒事故につながります。事前に点検調整を行ってください。(54ページ参照)

クラッチの点検

主クラッチペダルの作動が悪いと走行中，作業中，衝突等の思わぬ事故をおこし大変危険です。事前に点検調整を行ってください。
(52ページ参照)

■エンジン・燃料の点検

マフラ周辺部の清掃

マフラやエンジンの周辺部にゴミや燃料の付着・泥の堆積等があると火災の原因となります。作業前にはもちろん作業中にも点検して，きれいに取除いてください。

燃料のもれ

燃料キャップを確実に締めてください。作業中，燃料がこぼれないように，こぼれた燃料はきれいにふきとってください。タンクや燃料パイプからの燃料もれは，火災の原因となります。よく点検して，もれがあれば交換してください。

■電気系統の点検

配線コードの点検

配線コードの被覆のはがれや接続部の緩みは，ショートし，火花で火災を起こし危険です。事前に点検し交換修理を行ってください。
又配線まわりのゴミ・泥の堆積等もきれいに取除いてください。

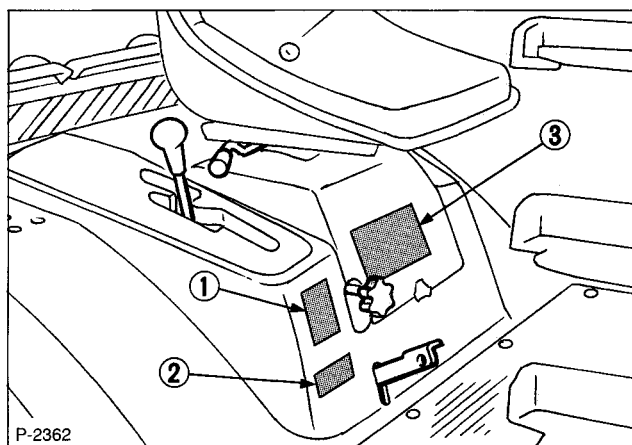
バッテリの点検

- バッテリの周辺にゴミや可燃物があると引火して火災の原因となり危険です。点検時にきれいに取除いてください。
- バッテリの充電・交換時ショートして火災にならないよう十分注意して行ってください。(53ページ参照)

3. ▲表示ラベルと貼付位置

① 品番　PA401-8936-3

▲ 注意

植付部が不意に下降して
はさまれる危険があるので
植付部を上げて移動・点検
・調整するときは、油圧昇
降を必ずロックすること。

② 品番　PA501-8924-2

機械が転倒するおそれ
があるので、デフロッ
クを踏んだままでは
絶対に旋回しない
こと。

③ 品番　PA401-8982-1

使用前
1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．屋内では排気ガスが溜まり易くガス中毒の危険があるため、換気を十分すること。

移動走行時
1．この機械は公道走行ができないため、トラックにのせて運搬のこと。
2．転倒などの危険があるため、傾斜地・路肩の軟弱な農道・路肩は走行しないこと。
3．転落や破損の危険があるため、運転者以外の人や物を乗せないこと。
4．暴走のおそれがあるので、機械を離れるときは必ずエンジンを止めブレーキを
ロックし、坂道では車止めをすること。

作業時
1．ケガをするおそれがあるので、清掃・点検・整備・給油はエンジンを必ず止め、
冷えてから行うこと。
2．ケガをする危険があるので、夜間作業は絶対にしないこと。
3．植付作業中、安全クラッチが作動(ガッガッという大きな異音)したら、
すぐに主クラッチを切り、エンジンを止めて植付爪先端の障害物を取り除くこと。

使用後
1．火災の危険があるので、シートカバーは機械が冷えてからすること。

安全に作業するために

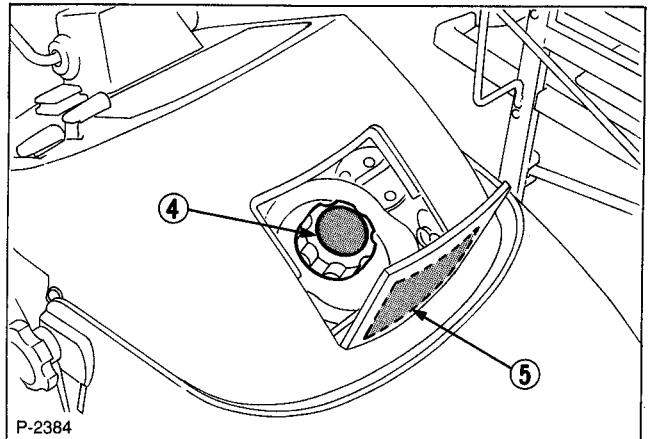
④ 品番　50080-1689-2

⑤ 品番　PA401-8925-4

A	給油箇所	油量	油の種類	交換時間
潤滑油	エンジンオイル（油量上限／油量下限）	SPA4 0.9ℓ	クボタ純オイル G10W30	・最初10時間 以後50時間毎 ・毎日点検し上限まで補給すること。 ・下限以下で使用してはならない。
		SPA5 SPA6 1.2ℓ		
	ミッションオイル（ステップ／給油口）	5.8ℓ	クボタ純オイル ※M80B 又はUDT	最初50時間 以後300時間毎

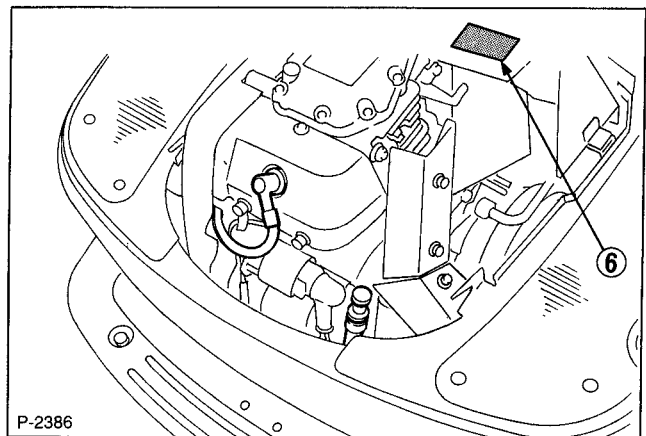
注意
ガス中毒の危険があるので、屋内・換気の悪い場所で使用しないこと。

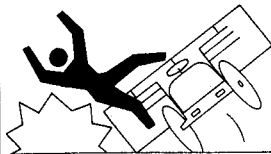
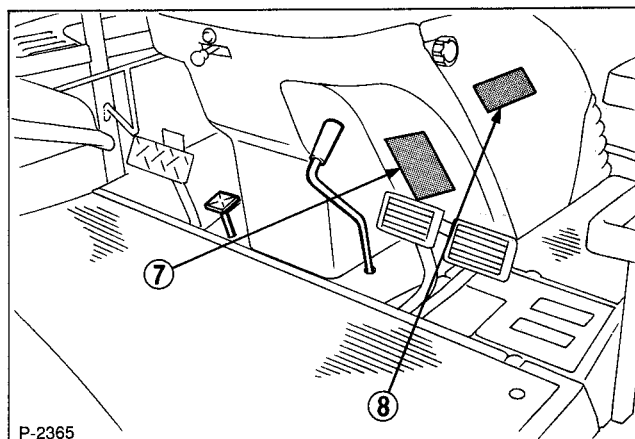
(無鉛) 無鉛ガソリンをご使用ください
通商産業省のガソリン無鉛化計画に基づく表示です。

P-2384

⑥ 品番　PD703-8982-1

注 意

1. マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。
2. 回転物に接触するとケガをするので、エンジンを必ず止めること。

P-2386

⑦ 品番　PA401-8985-1

⚠ 警告

ハンドルをとられ転倒するおそれがあるので、移動走行・ほ場への出入り・あぜ越え・トラックへの積み降ろしのときは、『連続金具』で左右のブレーキペダルを連結すること。

⑧ 品番　PC200-8911-1

⚠ 注意

中に回転物・高温部がありケガをするおそれがあるので、点検・調整などでボンネットを取外す時は、エンジンを必ず止めること。点検・調整後はボンネットを必ず取付けること。

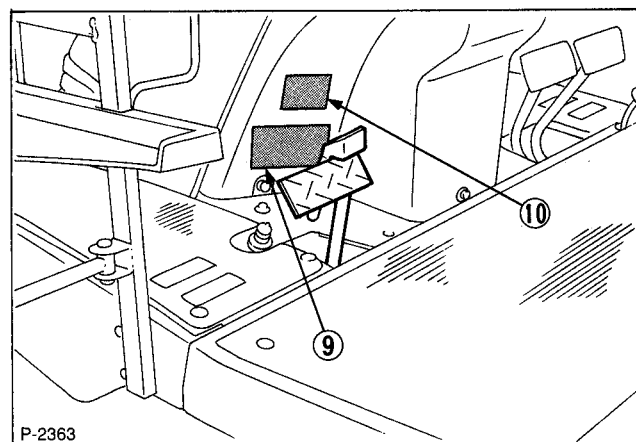
⑨ 品番　PD503-8939-1

⚠ 警告

作業時は必ず下記項目を守って下さい。守らないと機械が勝手に動きだすことがあり大変危険です。

1．エンジンを始動する時
主変速レバーと植付けクラッチレバーを「中立」にし、主クラッチペダルをロックしてからエンジンを始動する。

2．機械を離れる時及び点検の時
エンジンを止め、駐車ブレーキをかけキーを抜いておく。

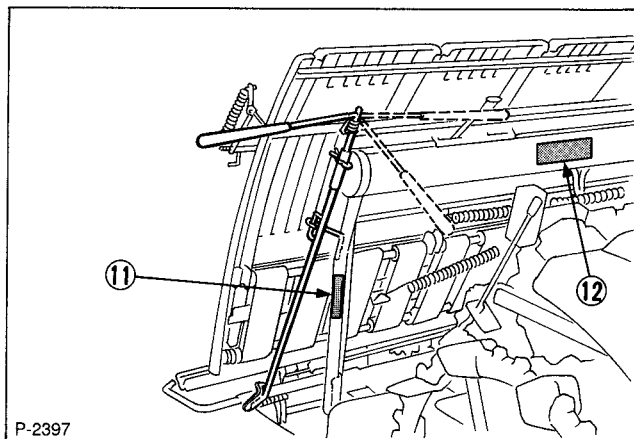
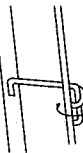
3．苗を補給する時
苗補給時は、主クラッチペダルをロックし、主変速レバーと植付けクラッチレバーを「中立」にする。

⑩ 品番　44366-8937-4

⚠ 注意

急発進し衝突するのを防ぐため必ず下記の運転手順を守ること。

① 主変速レバーと植付けクラッチレバーを「中立」にする。
② 主クラッチペダルを踏み込みロックする。
③ エンジンを始動する。
④ アクセルレバーを低速側にして、暖気運転する。
⑤ 周囲の安全を確かめる。
⑥ 作業に適した位置に変速し、クラッチペダルをゆっくり離して発進する。

安全に作業するために

⑪ 品番　PA401-8954-3

⑫ 品番　PA401-8986-1

警　告

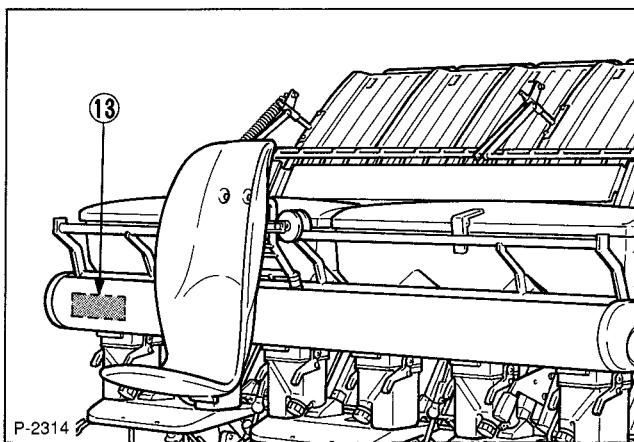
トラックなどへの積み降ろし・あぜ越え・急な坂道の走行は，転倒・暴走などの危険があるため，以下を守ること。
①登るときは主変速レバーを「後進」，下るときは「植付」にし，副変速レバーを「低速」にすること。
②左右のブレーキペダルを「連結金具」で連結すること。
③斜面の途中で主変速レバーを「中立（N）」にしたり，主クラッチペダルを踏んだりしないこと。
④段差の4倍以上の長さのあゆみ板を使用し，誘導者を付けること。
⑤デフロックを踏み，斜面に対して直角に行うこと。

⑪ ⑫

P-2397

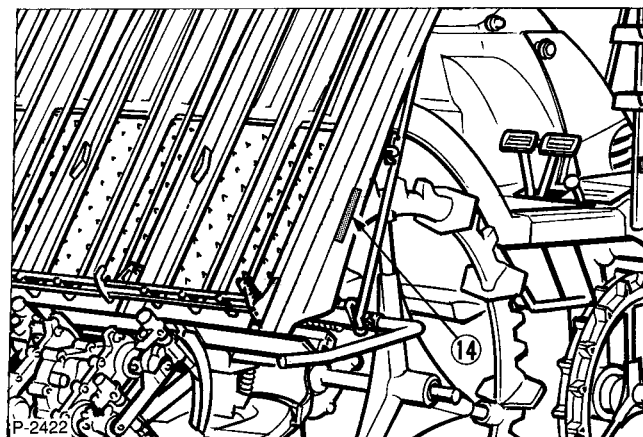
⑬ 品番　PA401-8983-1

注　意

駆動部に接触すると手を傷つけるおそれがあるため，施肥機の点検・肥料の排出・苗の取り出しのときは必ずエンジンを止めること。

P-2314

⑭ 品番　PA401-8943-1

▲ 警　告

植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換・調整・清掃、苗取り出し口の異物の除去、残り苗の取り出しなどを行うときは、エンジンを必ず止めること。

4．▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。

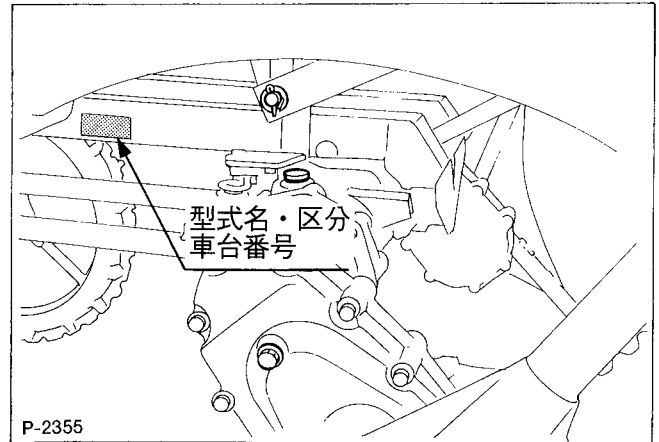
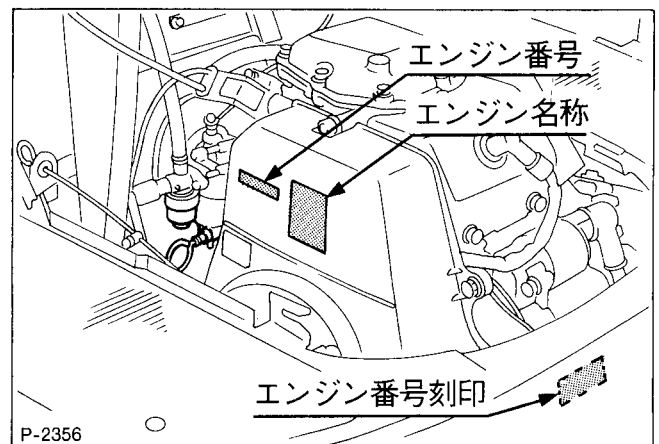
サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してあります。
詳しくは保証書をご覧ください。
なお，ご使用中の故障やご不審な点及びサービスに関するご用命は，お買いあげいただいた販売店·JA農協·弊社支店又は㈱クボタアグリに，それぞれ **“ご相談窓口”** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
＊ご相談の際には
(1)型式名・区分と車台番号
(2)エンジン名称とエンジン番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は販売店に純正部品表を用意しておりますので，そちらでご相談ください。

型　式　名	型式検査(国検) 合格番号
クボタ SPA5	93005
クボタ SPA6	93006

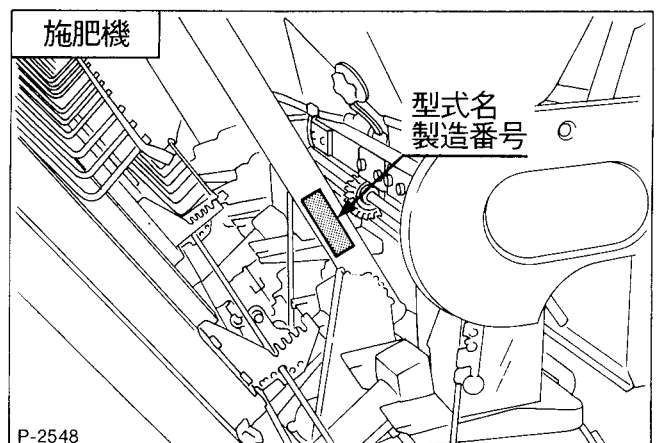
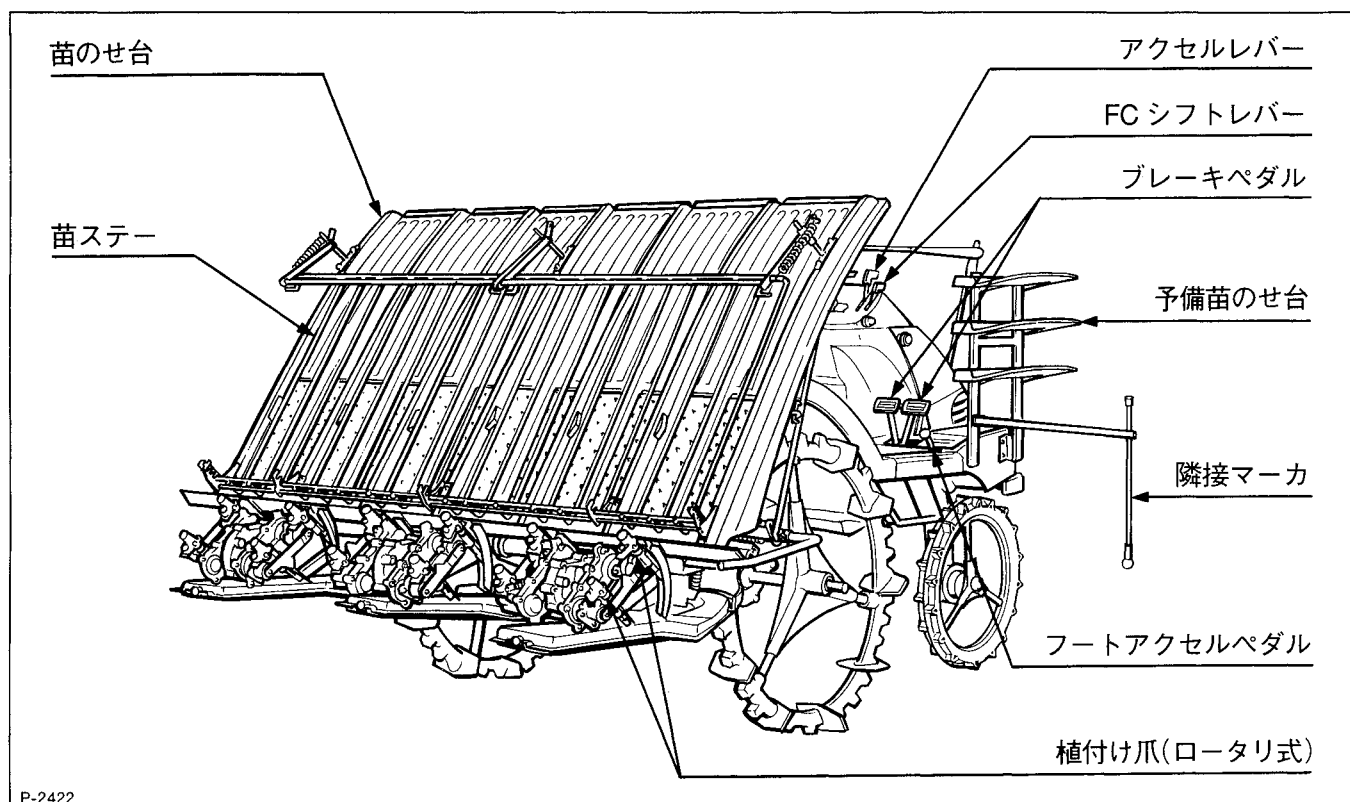
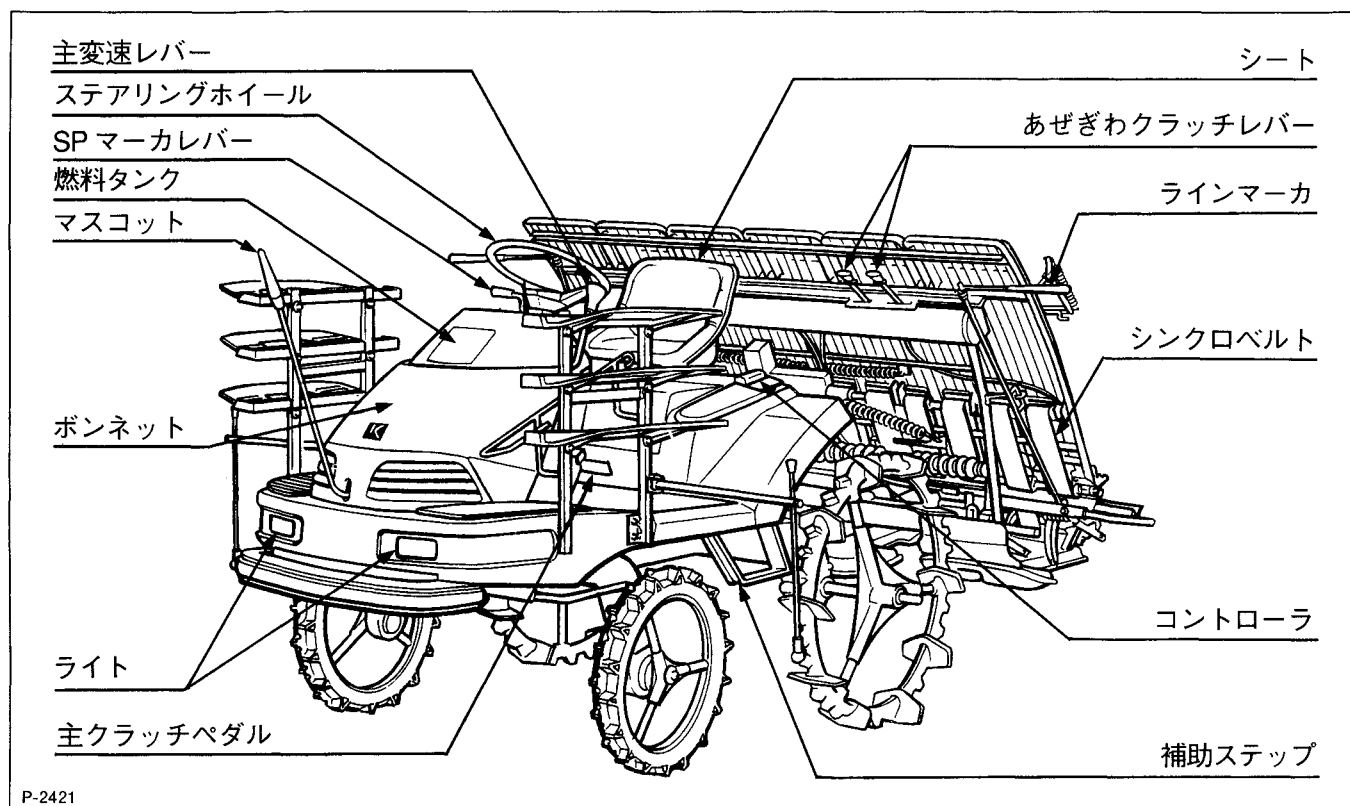
検査成績は巻末をご覧ください。

◆安全鑑定適合番号

クボタSPA4……………………………18109

農業機械の種類	田植機(土付き苗用)
型　式	クボタ
区　分	
条　数	
製造番号	
製造会社	株式会社クボタ

ボンネットをあけて確認してください。
(52ページ参照)

諸装置の説明

各部の名称

苗のせ台
苗ステー
アクセルレバー
FC シフトレバー
ブレーキペダル
予備苗のせ台
隣接マーカ
フートアクセルペダル
植付け爪(ロータリ式)
P-2422

スイッチおよび運転装置

【SPA 5･6】

5 パネル

■フィットセンサダイヤル【A仕様】

■マルチポンパレバー【A仕様】

6 主変速レバー

4 警報スイッチ

2 ライトスイッチ

3 チョーク

9 主クラッチペダル

6 けん制レバー

■車速制御スイッチ【AESM仕様】
自動減速スイッチ【SM・ASM仕様】

■コントローラ【M・A仕様】

アクセルレバー 8

FCシフトレバー【S仕様】 7

SPマーカレバー■

メインスイッチ 1

燃料コック■

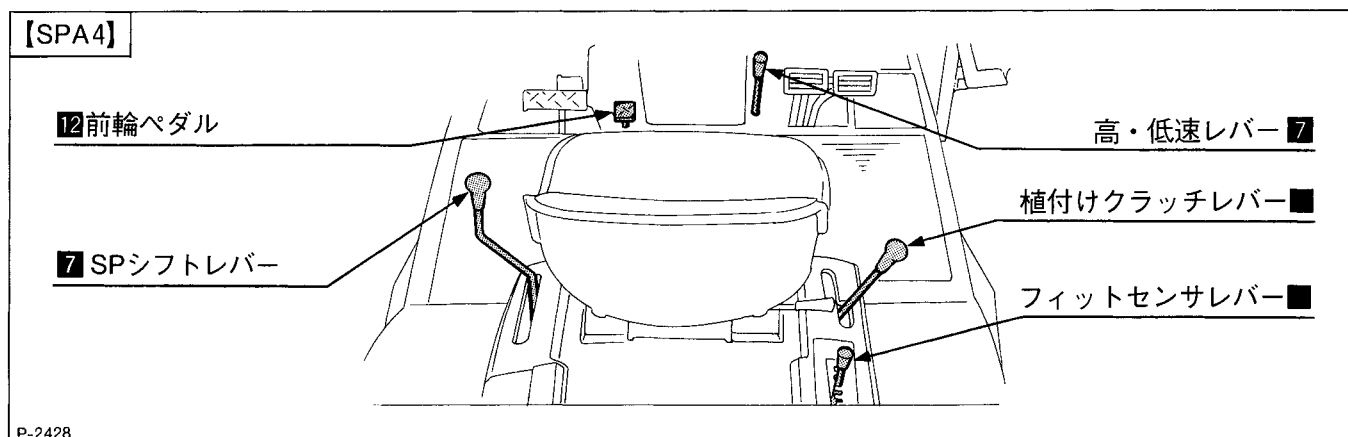
ブレーキペダル 10

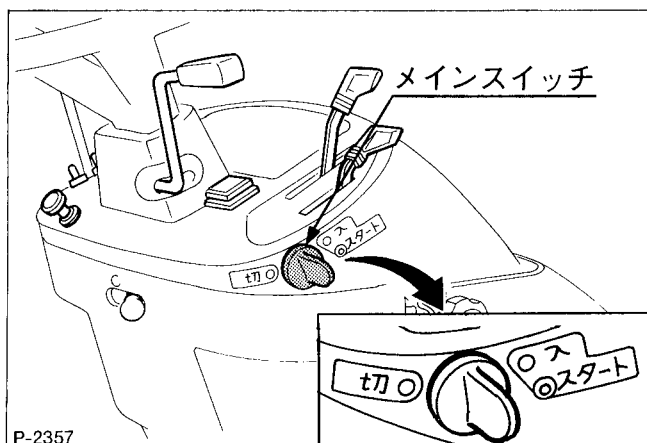
フートアクセルペダル 8
【SPA 5･6】

植付けクラッチレバー■

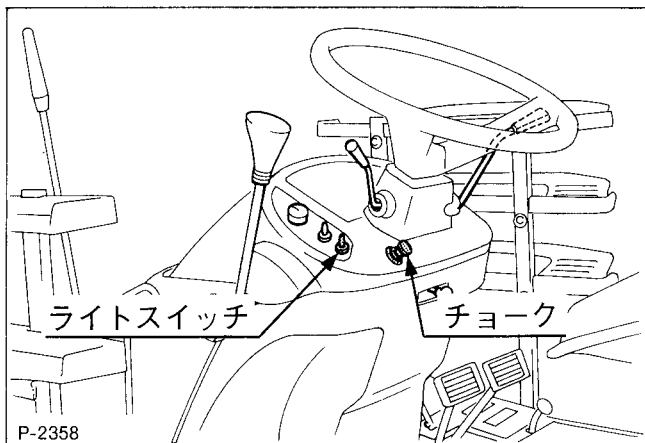
後輪デフロックペダル 13

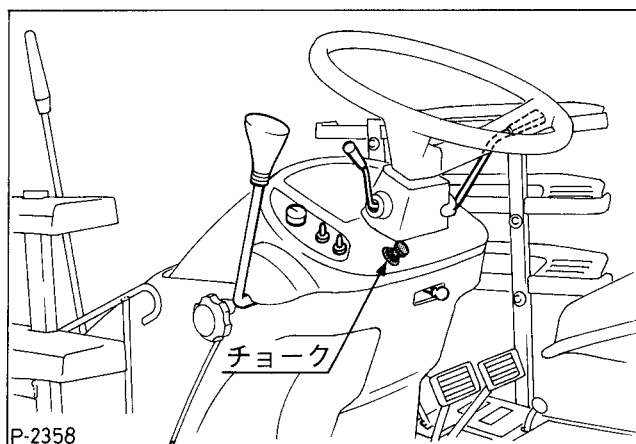
P-2424

【SPA4】
12前輪ペダル
7 SPシフトレバー
高・低速レバー 7
植付けクラッチレバー■
フィットセンサレバー■
P-2428

1メインスイッチ

"切 ……………エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
"入" …………エンジン回転中の位置。
"スタート" …クラッチペダルをいっぱい踏込んで，エンジンを始動する位置。手を離せば自動的に"ON"に戻ります。(クラッチペダルを踏まないと始動しません)

※メインスイッチの位置を確認して完全に"入""切"の位置に入れてください。

2ライトスイッチ

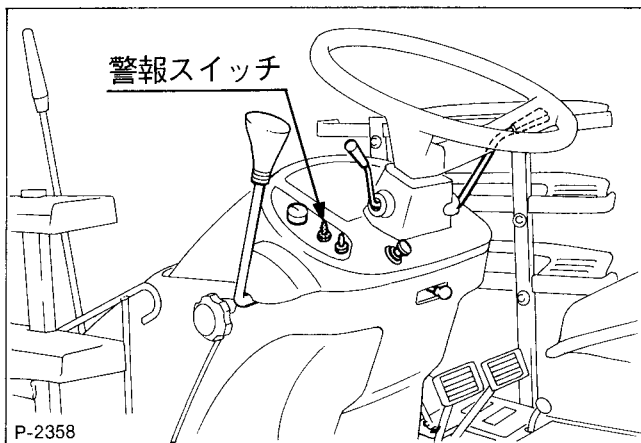
ヘッドランプを点灯するスイッチです。

3チョーク

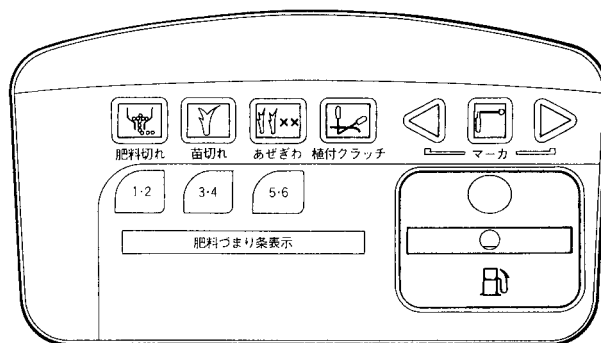
エンジンが冷えている状態で始動するときは，チョークをいっぱい引いてください。エンジン始動後は調子を見ながら徐々に押込んでください。

※始動時以外は使用しないでください。

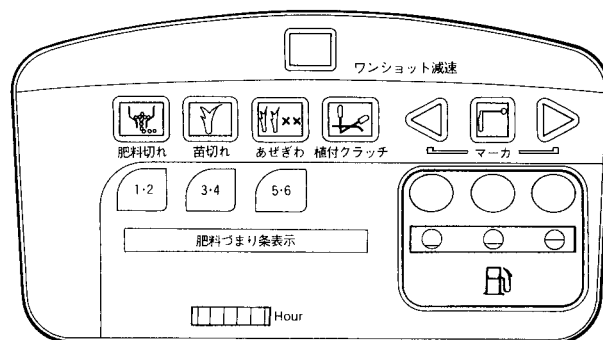
4警報スイッチ

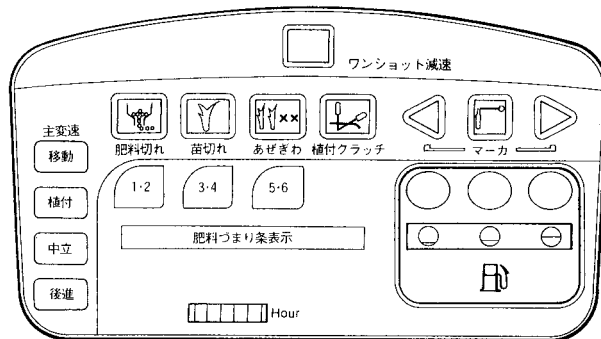
ブザー警報の"入""切"を切換えるスイッチです。
"入"…………ブザー警報を出す位置
"切"…………ブザー警報を停止させる位置

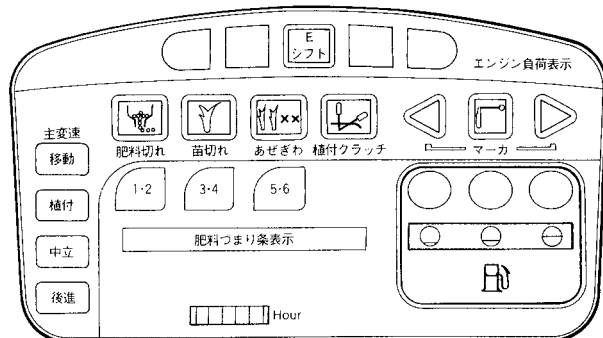
補 足

＊ "切"の位置であっても，苗モニタのみブザー警報は作動します。

5 パネル

パネルにはランプ点滅（あるいは点灯）とブザーによる各作業の注意を与えるモニタが装備されています。

P-2410改

【SM仕様】

P-2410改

【ASM仕様】

P-2410改

【AESM仕様】

P-2410

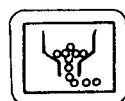
重 要

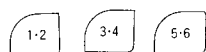
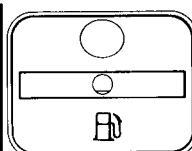
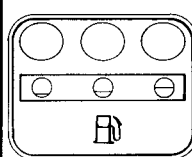
＊パネル表示部の透明カバーの材質はアクリル樹脂です。カバー表面を軽油，カーシャンプ原液，アルコール類（メチル，エチル）で拭かないようご注意ください。
表面が部分的に白化して，パネル内部が見えにくくなる場合があります。

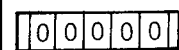
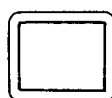
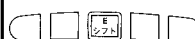
苗モニタ
苗残りが少なくなったとき，警告点滅します。

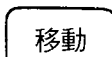
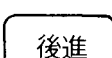
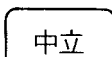
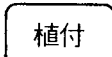
植付けクラッチモニタ
植付けクラッチが **“切”** の状態で警告点滅します。植付けクラッチの入れ忘れ防止に便利です。

マーカモニタ
左右どちらかのマーカがセットされたときは，セットされた側の◁▷ランプが点灯し，マーカを出し忘れたときに □ が警告点滅します。

あぜぎわモニタ
あぜぎわクラッチを切ったときに，警告点滅します。クラッチの入れ忘れ防止に便利です。

施肥モニタ（肥料切れ）
施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに,警告点滅します。［施肥機装着【F仕様】のみ］

3·4 5·6

施肥モニタ（肥料詰まり条表示)
施肥作業中に肥料が詰まったときに，その条をランプで警告点滅します。
［施肥機装着【F仕様】のみ］

燃料モニタ
燃料の残量が約２ℓになるとランプが点灯します。

燃料モニタ【S仕様】
燃料の残量が４ℓ，３ℓ，２ℓの３段階で，各々に対応するランプが点灯します。

0 0 0 0 0

アワーメータ【S仕様】
0.1時間ごとにエンジン稼働時間を積算表示します。

ワンショット減速モニタ
【SM,ASM仕様】
自動減速スイッチを **“入”** の状態で，植付けクラッチ **“切”** になるとランプが点灯します。

エンジン負荷表示モニタ
【AESM仕様】
ソフトクルーズ機能を働かせると，負荷の大きさに応じて，パネルのランプが点灯します。

移動
植付
中立
後進

主変速レバー位置モニタ【A仕様】
主変速レバー位置の **“移動”**，**“植付”**，**“中立”**，**“後進”** の各々に対応するランプが点灯します。

◆使用方法

(1)施肥(肥料詰まり条表示)，燃料，主変速レバー位置モニタはメインスイッチを入れると作動します。苗，植付けクラッチ，マーカ，あぜぎわ，施肥(肥料切れ)モニタはメインスイッチを入れ，植付けクラッチ **“入”** → **“切”** の中間及び **“自動”** 位置で作動し，アワーメータ，ワンショット減速，エンジン負荷表示モニタはエンジン稼働時に作動します。

(2)植付けクラッチ **“入”** → **“切”** の中間及び **“自動”** 位置では，苗，植付けクラッチ，マーカ，あぜぎわ，施肥(肥料切れ)，施肥(肥料詰まり条表示)モニタはランプの点滅と同期したブザーでも同時に知らせます。

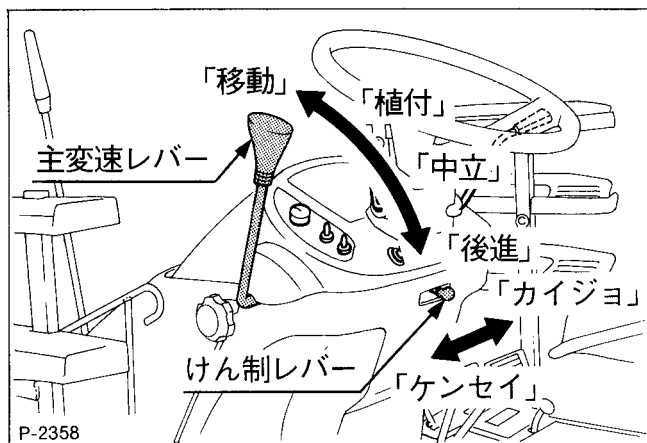
6 主変速レバー

注 意

＊あぜ越え，車への積み・降ろし途中での変速は非常に危険です。

作業に合せて変速してください。**“植付け作業時”**はけん制レバーを**“ケンセイ”**状態で使用し，移動走行など**“移動”**を使用する場合は，けん制レバーを**“カイジョ”**して使用してください。

“ケンセイ”位置では，植付け作業中**“移動”**に入らず変速が容易になります。

けん制レバーの切換えは，図に示す位置まで確実に操作してください。

7 副変速レバー

注 意

＊移動時（移動走行時）は，主変速レバーを“移動”，SPシフトレバーを1(低速)にして安全速度で走行してください。2(高速)での走行は危険です。

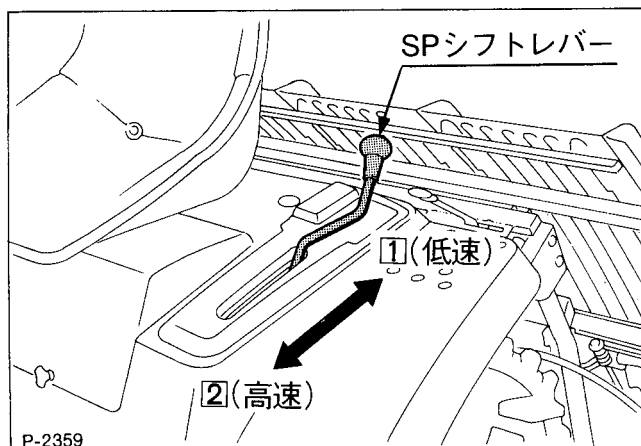
重 要

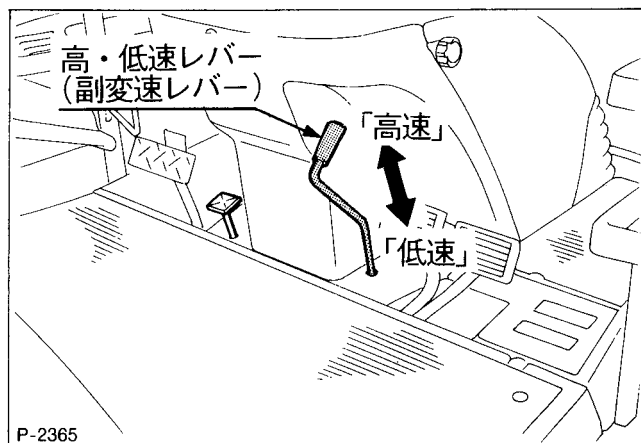
＊レバーは必ず高低いずれかの位置で使用してください。中間で保持しないでください。また，中間でクラッチペダルを踏まないでください。機械の破損につながります。

◆SPシフトレバー【SPA4】

1(低速)，2(高速)の２段階に変速できます。

また切換えはクラッチペダルを踏まなくても変速できます。（構造上，クラッチペダルを踏んで変速するとレバー変速荷重が重くなります。）

旋回時は1(低速)に減速して枕地，隣接条間が確保できるようにしてください。

◆高・低速レバー（副変速レバー）【SPA4】

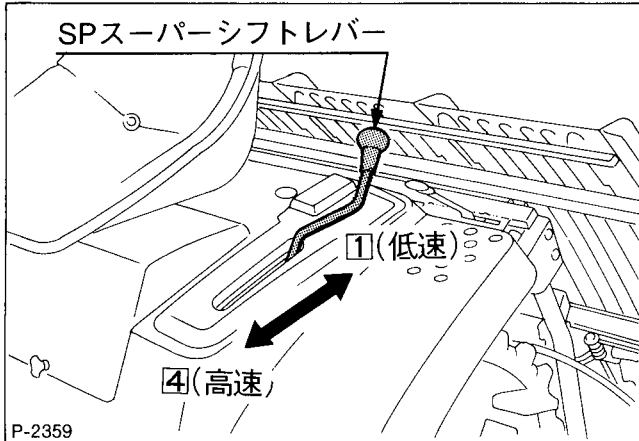
レバーを高速側で使用すると高速植付け作業ができます。SPシフトレバーとの組合せで４段階の作業速度が選択できます。ほ場条件に合せて作業速度を選んでください。

重 要

＊レバーを操作するときは，必ず主クラッチペダルを踏込んでください。

＊レバーは確実に止まる所まで操作してください。

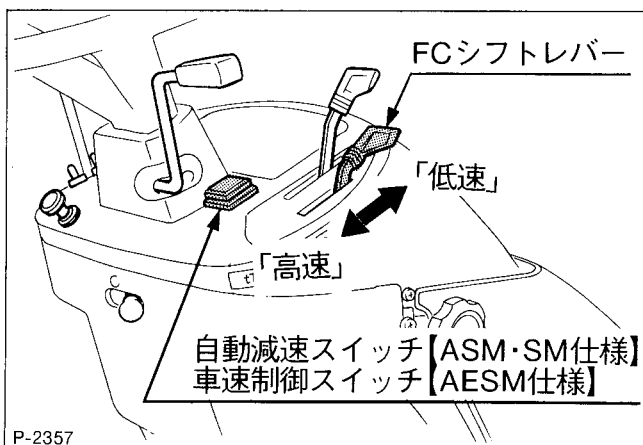
＊ほ場への出入り，あぜ越え，車への積み・降ろし時は，必ず“低速”を使用してください。

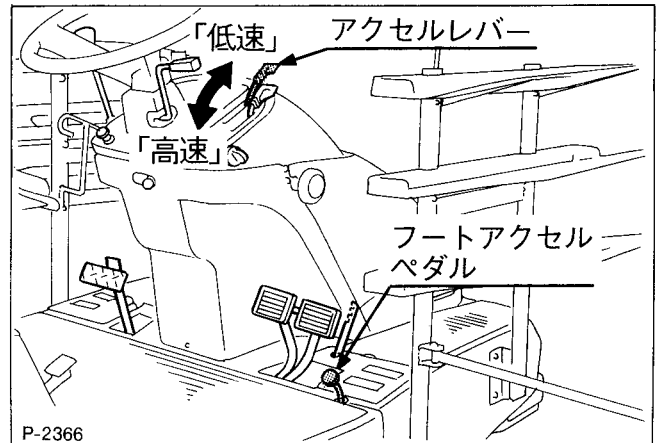
◆SPスーパーシフトレバー 【SPA5・6仕様以外】

無段変速装置です。クラッチペダルを踏まなくても，ほ場条件に合せて４段階にワンタッチで変速できます。

重 要

＊エンジンを停止して変速すると破損につながります。
＊エンジン回転やほ場の条件によって，レバー操作荷重が多少変化します。

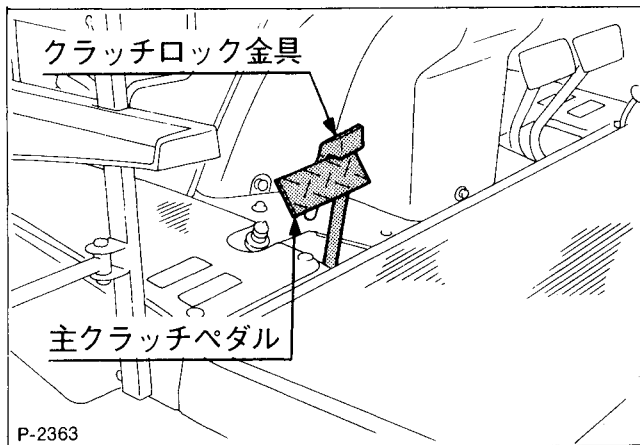
◆FCシフトレバー(自動減速付新無段変速) 【SPA5・6-S仕様】

FCシフトレバーにより，広範囲な速度が軽い操作力で無段階に変速できます。
エンジン停止時，レバーを操作しても変速されません。エンジンを始動して変速してください。

8 アクセルレバー【SPA4・5・6】，フートアクセルペダル【SPA5・6】

エンジンの回転速度を作業に合わせて選べます。またフートアクセルによっても，エンジンの回転を上げることができます。
移動走行時フートアクセルを使用すると便利です。

9 主クラッチペダル

警 告

作業時は必ず下記項目を守ってください。
守らないと機械が勝手に動きだすことがあり大変危険です。
＊エンジンを始動するときは
主変速レバーと植付けクラッチレバーを“中立”にし，主クラッチペダルをロックしてからエンジンを始動してください。
＊機械を離れるとき及び点検のときは
必ずエンジンを止め，駐車ブレーキをかけ，キーを抜いておいてください。
＊苗を補給するときは
苗補給時は，主クラッチペダルをロックし，主変速レバーと植付けクラッチレバーを“中立”にしてください。
＊クラッチをロックするときは，必ずクラッチペダルだけを踏込んで，ペダルがロックされていることを確認してください。
＊ロックを解除するときは，クラッチロック金具を踏んでください。

主クラッチペダルをいっぱいに踏込むとクラッチが切れます。主クラッチペダルは，切るときはすばやく，つなぐときはゆっくり操作してください。トラックで運搬するとき，駐車時は主クラッチペダルロックは解除してください。

10ブレーキペダル

注　意

＊移動走行，ほ場への出入り，あぜ越え，トラックへの積み・降ろし時は，必ず連結金具でブレーキを連結してください。

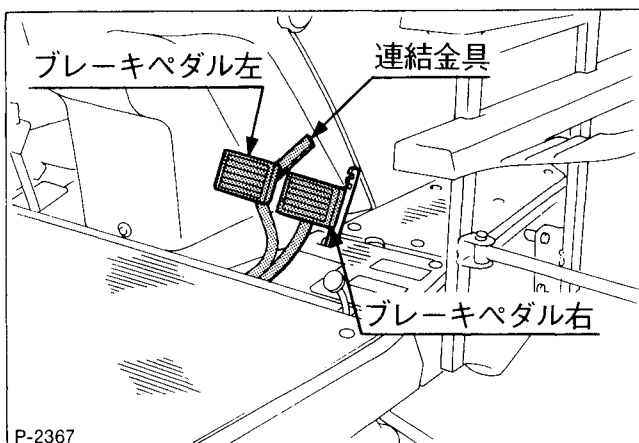
＊左右独立のまま，片ブレーキを使用するとハンドルをとられ，転倒などの事故を起こし非常に危険です。

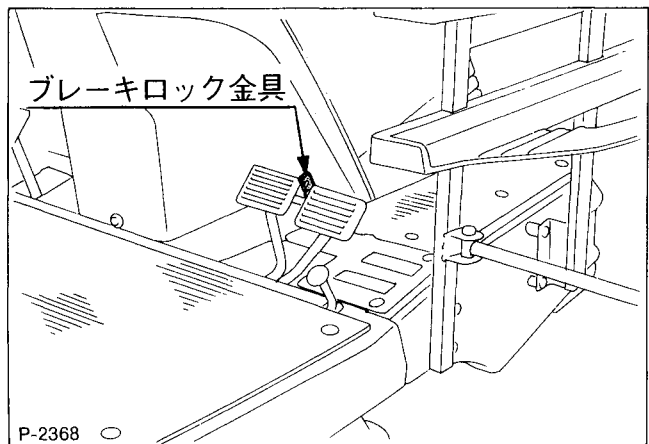
＊坂道の走行，トラックへの積み・降ろし時に適当な速度を保つ場合には，必ずブレーキを使用してください。

＊機械を離れるとき及び点検のときは必ずエンジンを止め，駐車ブレーキをかけ，キーを抜いておいてください。

ブレーキペダルは左右独立しています。作業中旋回するときは，旋回する側のペダルを踏込んでからハンドルを回してください。（操作が楽になると同時に機械の損傷を防げます）

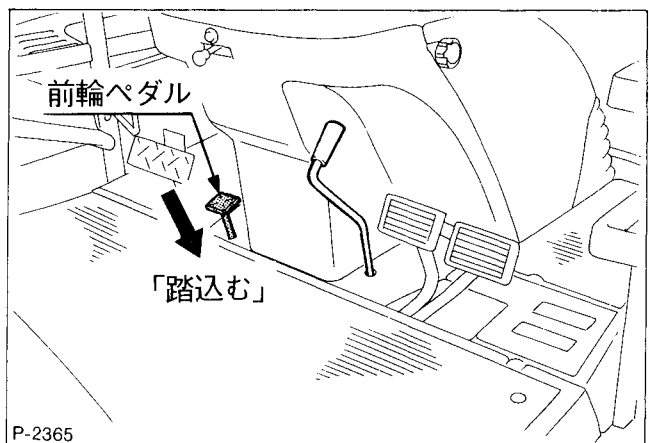
“植付け時”……連結金具を外す。

“走 行 時”……連結金具をかける。

11駐車ブレーキ

ブレーキペダルを左右連結し，ブレーキロック金具をかけると駐車ブレーキがかかります。田植機より離れる場合は，エンジンを切って主変速レバーを**“植付”**又は**“後進”**にし，駐車ブレーキを必ずかけてください。駐車ブレーキの解除はロック金具を外してください。

12前輪ペダル【SPA4】

(1)左右の前輪が同じ速度で駆動される装置です。スリップ防止に役立ちます。

(2)前輪ペダルは旋回(前進時)のとき使用しても，故障の心配はありません。

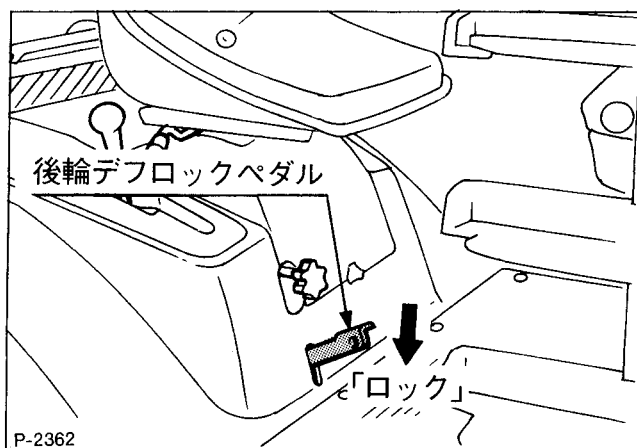
(3)旋回時スリップして旋回できないとき，前輪ペダルを使用すると旋回できます。

重　要

＊前輪ペダルはバックで旋回するときに使用すると，ハンドルが重く故障の原因になります。

13後輪デフロックペダル【SPA5・6】

注 意

＊後輪デフロックを入れたままで旋回すると非常に危険です。旋回の前に必ず外してください。無理に旋回すると故障の原因になります。

デフロックとは，左右の後輪が同じ速度で駆動される装置です。スリップ防止に役立ちます。

14パワーステアリング【SPA5・6-S仕様】

(1)パワーステアリングはエンジン運転中だけ作動します。但しエンジン回転が低速のときにハンドルを速く回すと，ハンドル操作が重くなります。

(2)ハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

(3)ハンドル操作は軽くなりますので，道路走行は慎重に行ってください。

植付装置

16マルチポンパレバー
【SPA 5・6 -A仕様】
17SPマーカレバー
28マスコット
あぜぎわクラッチレバー22
ラインマーカ■
苗取り量調節レバー20
横送り
切換えグリップ21
隣接マーカ27
P-2421

植付けクラッチレバー15
フィットセンサレバー18
【SPA 5 ・ 6 -A仕様以外】
23苗ステー
26シンクロベルト
(苗送りベルト)
19植付け深さ調節レバー
25苗おさえ棒
苗ストッパ24
P-2377
P-2422

15 植付けクラッチレバー

警 告

＊エンジンを始動するときは，植付けクラッチレバーは必ず“中立”にしてください。

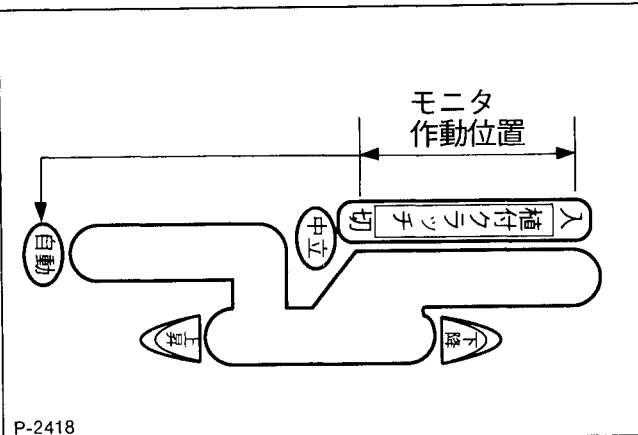
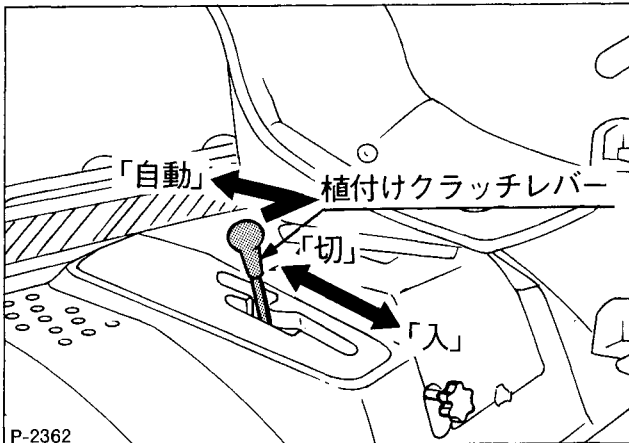
植付けクラッチの**“入”** **“切”**，植付け部の昇降，モニタ(レインボーパネル)の入切などは，このレバー1本で行うことができます。また，A仕様では，通常**“自動”**位置にセットしたままで使用します。

【A仕様】

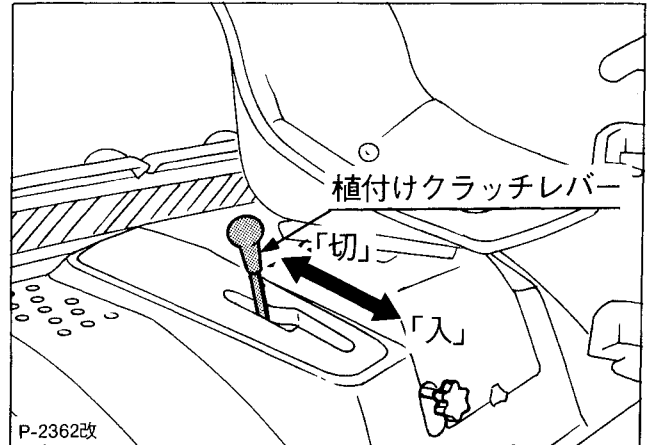
(1)マルチポンパ，バックアップ，マイコン車速制御などの自動化装置を用いて作業を行う場合は，植付けクラッチレバーは**“自動”**位置にセットしてください。

(2)**“自動”**位置以外では**【A仕様以外】**と同じ手動操作が行えます。

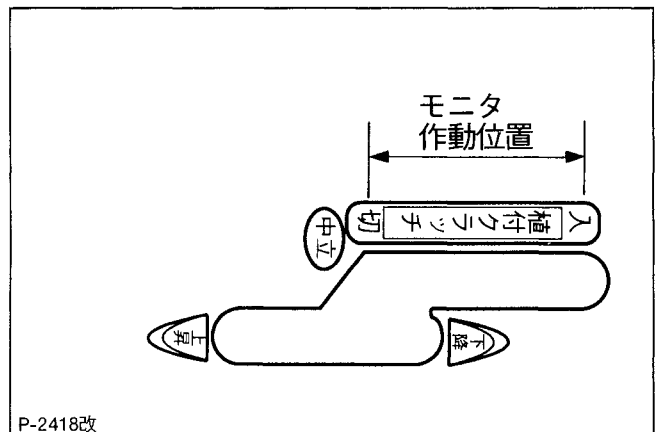
P-2362

P-2418

※植付けクラッチレバー**“入”** → **“切”**の間，又は**“自動”**位置でモニタが作動します。

【A仕様以外】

P-2362改

重 要

＊植付けクラッチレバーを“入”にするときは，植付け部が接地したのを確認してから“入”にしてください。

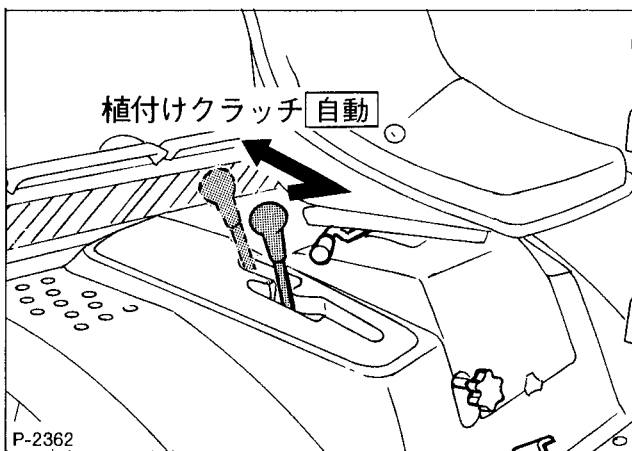
P-2418改

※植付けクラッチレバー**“入”** → **“切”**の間でモニタが作動します。

16マルチポンパレバー【SPA5・6-A仕様】

マルチポンパレバーを上に上げるごとに **"下降"**,**"上昇"** に切換わります。

❶植付けクラッチレバーを **"自動"** にします。
❷マルチポンパレバーを上に上げます。
植付け部が上がっていると→下降します。
(植付け部が下がっていると→上昇します)
❸植付け中にマルチポンパレバーを上げると,植付け爪が停止し,植付け部が上昇します。
❹植付け部が下降した状態で,マルチポンパレバーを下に下げると,植付け爪が回転します。あぜぎわなどでラインマーカを出さずに植付けを行なう場合に,使用してください。

P-2362

P-2358

17SPマーカレバー

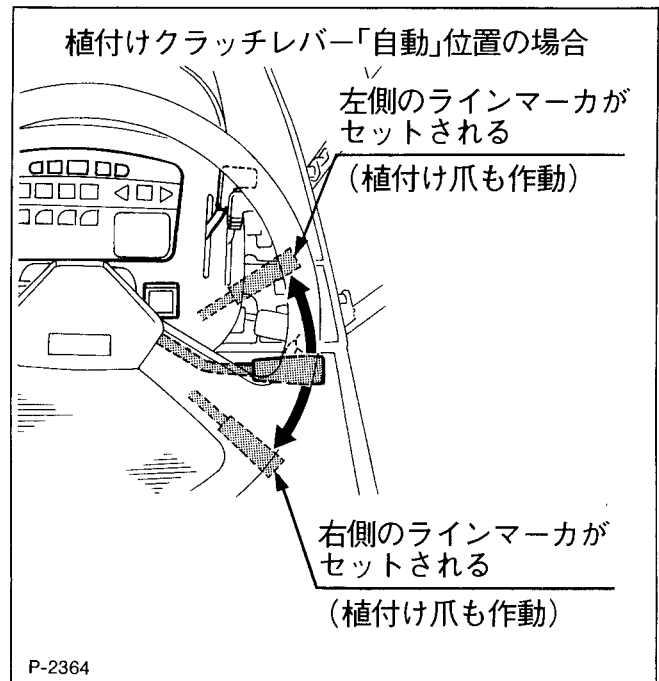
右又は左のラインマーカをセットする場合に使用します。A仕様ではラインマーカのセットと同時に植付け爪を作動させます。

【A仕様】

❶植付けクラッチレバーを **"自動"** 位置に入れ,マルチポンパレバーで植付け部を下降させます。
❷SP マーカレバーを図のように操作すると,操作した側のラインマーカがセットされると同時に,植付け爪が回転します。

重 要

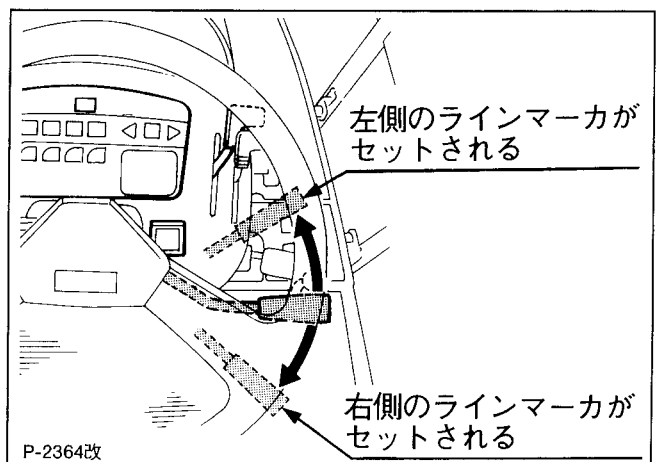
＊セットされた側のマーカモニタ◁▷が点灯し,セットを忘れた場合は[表示]が点滅しブザーで知らせます。(ブザーは約8秒後に止まります)

P-2364

【A仕様以外】

❶植付け部を下降させます。
❷SPマーカ操作レバーを図のように操作すると,操作した側のラインマーカがセットされます。

重 要

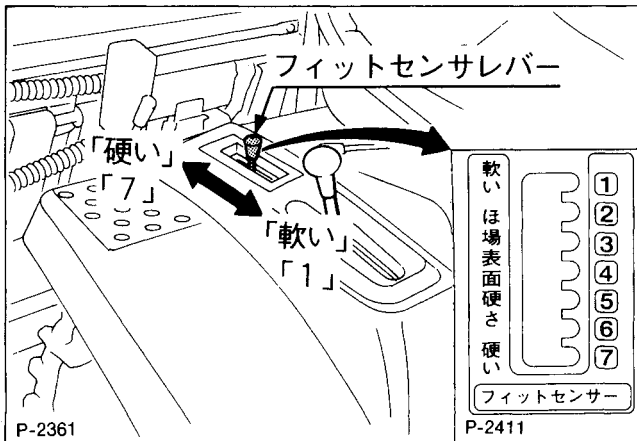
＊セットされた側のマーカモニタ◁▷が点灯し,セットを忘れた場合は[表示]が点滅しブザーで知らせます。(ブザーは約8秒後に止まります)

P-2364改

18フィットセンサレバー 【SPA5・6A仕様以外】

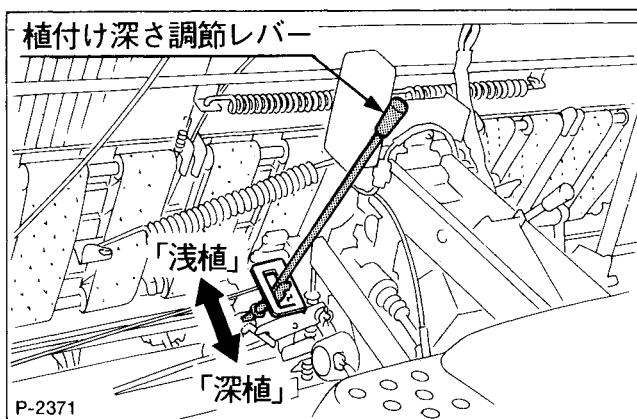
フロートによりほ場表面の整地を最良にするため，ほ場の状態に合った植付け部の上下の動きの感度を調節するレバーです。

感度調節は，下記を目安にしてください。

軟い(トロトロ)ほ場 …………… 1～3
標準ほ場 ………………………… 4
硬いほ場 ………………………… 5～6
凹凸が激しい
又は，ほ場が荒れている場合 … 7

P-2361 P-2411

19植付け深さ調節レバー

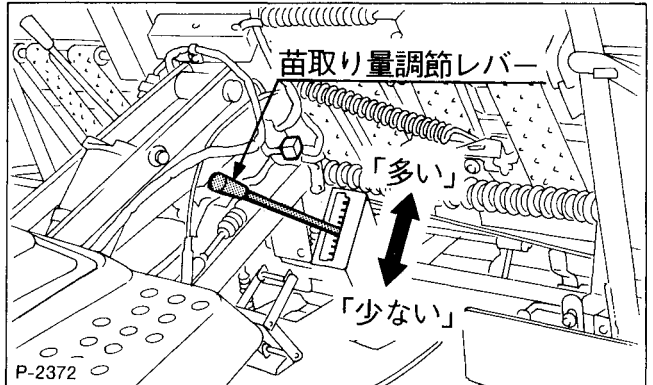
運転席からワンタッチで，ほ場に適した植付け深さが選べます。

P-2371

重　要

＊調節する場合は，植付け部を上げて行ってください。

20苗取り量調節レバー

植付け本数の調節は，苗取り量調節レバーによって，運転席からワンタッチで行うことができます。

P-2372

苗のせ台に苗が多く載っている場合に，**"少ない"** 方向に調節すると，レバー操作は重くなります。

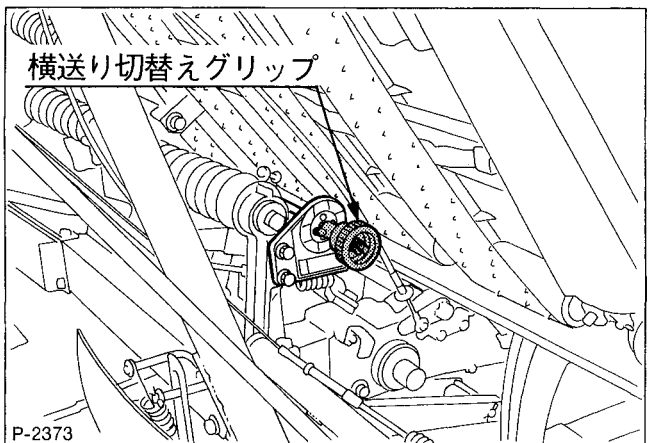
重　要

＊トラックなどでの運搬のときは，"多い" 方向にセットしてください。

21横送り切換えグリップ

グリップを回すことによって，横送り量の切換えを行うことができます。

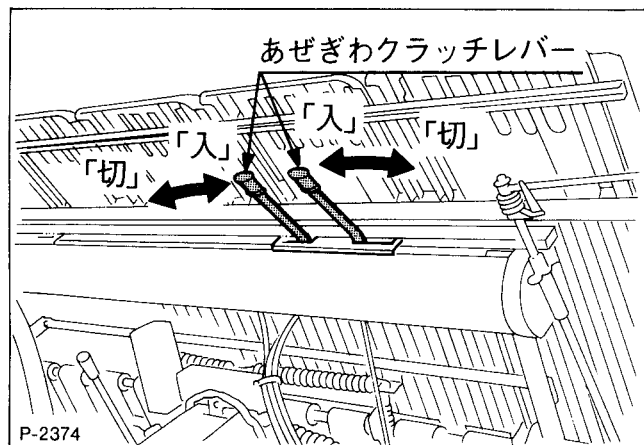
横送りを切換えるときは，**"横送り量の切換えの調節"** の項に従って行ってください。

P-2373

22あぜぎわクラッチレバー

２条ごと(５条植の場合中央は１条)の植付けを停止させるレバーで，最終行程での植付けに便利です。あぜぎわクラッチを切ると，植付け爪が止まると同時に苗送りベルトも停止し，苗をいためません。

※あぜぎわクラッチを切った状態では，あぜぎわモニタ が点滅します。
　あぜぎわクラッチの入れ忘れを防止します。

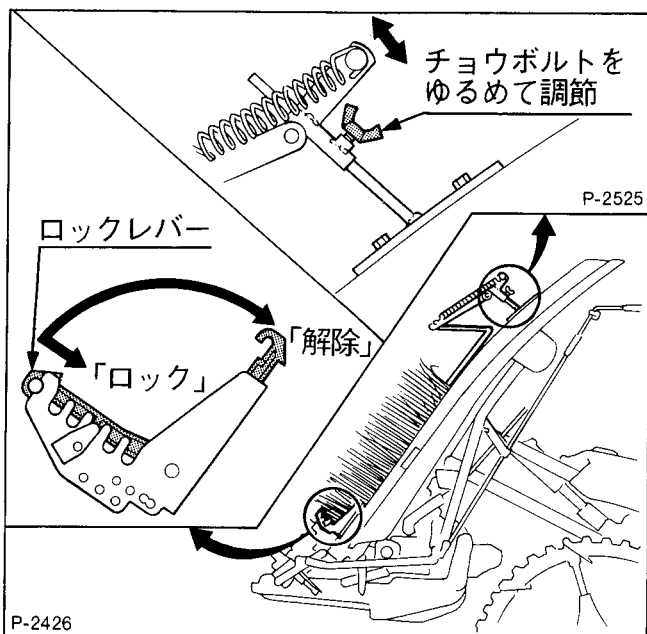
※ポット成苗を植付けるときは，64ページを参照してください。

P-2374

23苗ステー

苗床が軟弱な苗などの崩れ落ちによる欠株を防ぎます。ロックレバーを解除し，苗床の厚さに応じてラックへのセット位置を変えてください。

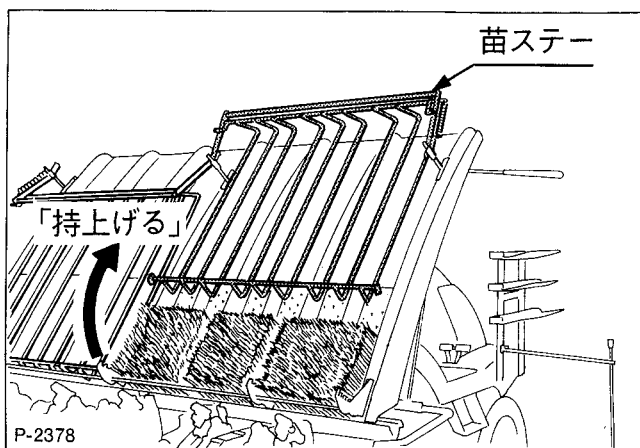
調節後は，ロックレバーを確実にロックしてください。ラックへのセット高さは，各条とも同一になるように注意してください。

また，苗床とのすき間が全長にわたり均一になるように，蝶ボルトにて上部の高さを調節してください。

P-2525
P-2426

◆苗の取出し

植付け作業の最後に残った苗を取出すときは，ロックレバーを解除し，苗ステーを持上げると簡単に苗を取出すことができます。

苗を取出した後は，必ず苗ステーを元の位置にセットし直し，ロックレバーを確実にロックしてください。

P-2378

重　要

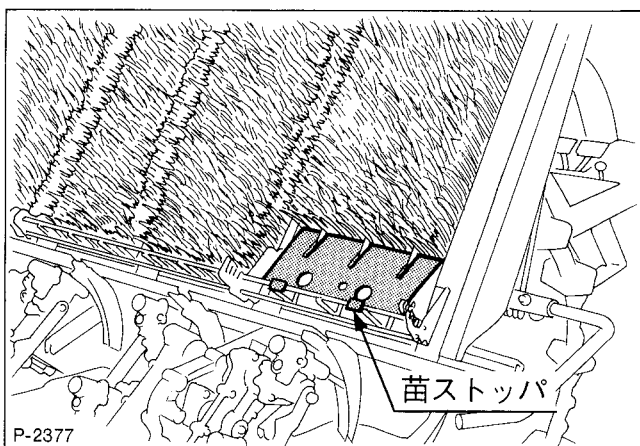
＊苗ステーを上げたまま植付け作業，移動走行又はトラックなどでの運搬は，行わないでください。急に苗ステーが下がって危険です。

＊植付け作業，移動走行又はトラックなどでの運搬のときは，ロックレバーを確実にロックしてください。

24苗ストッパ

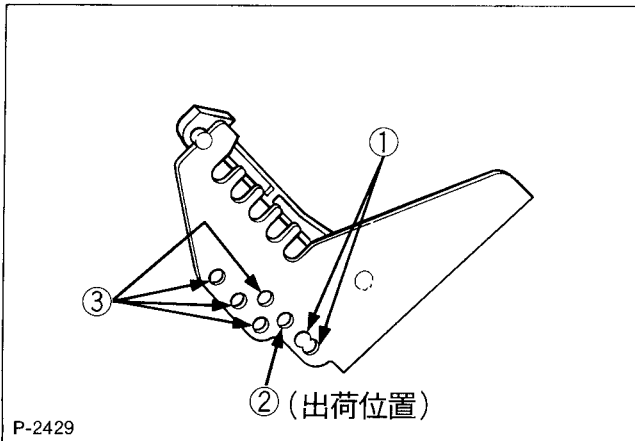
１条ごと植付けを停止したいときに，標準付属品の苗ストッパを使用します。苗を引上げて苗ストッパをセットすれば植付けしません。

あぜぎわクラッチと組合わせて使用してください。再度植付けるときは，苗ストッパを外して苗を元の位置まで戻して，しゅう動板に当たるまで押下げてください。

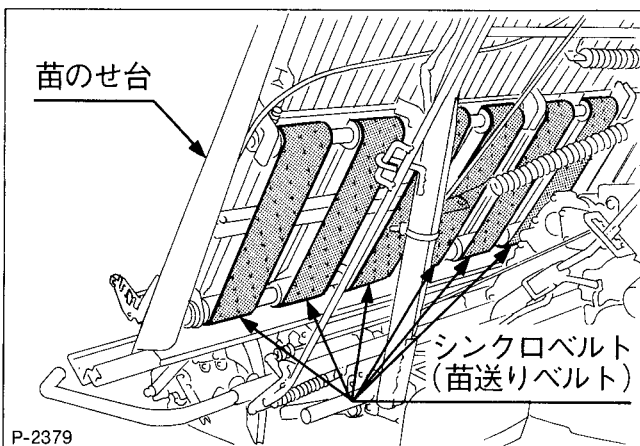
P-2377

㉕苗おさえ棒

苗の長さに応じて，また植付け姿勢が悪いときなど調節してください。通常は出荷位置(②の穴)で使用してください。

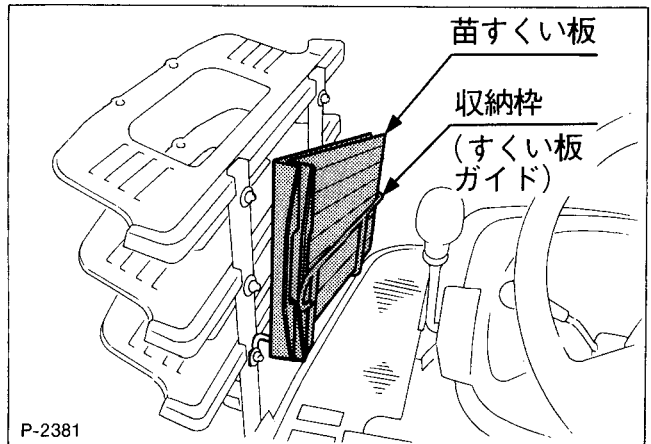
(1)苗が短かい場合，苗が後倒れになる
　場合……①の穴にさし換えてください。
(2)苗が長い場合，苗が前倒れになる
　場合……③の穴にさし換えてください。

P-2429

㉖シンクロベルト(苗送りベルト)

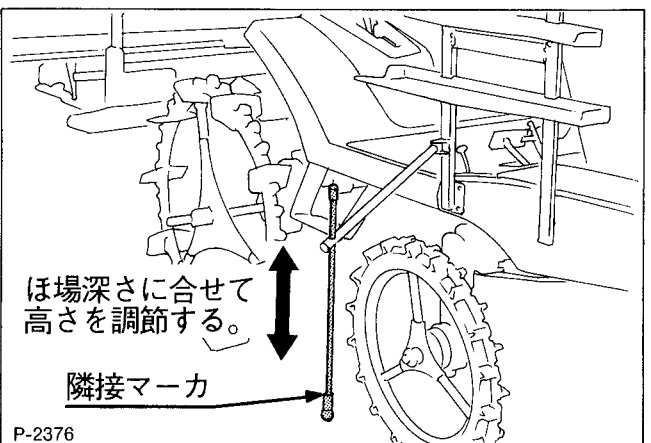
シンクロベルト(苗送りベルト)や苗のせ台とベルトのすき間などに，根や紙がからみついた場合，苗送りが十分できないで欠株を生じることがあります。根や紙は早めに取除いてください。特に根張りの悪い苗では，紙がはがれて詰まりやすいので，苗補給時に紙を取除いてください。

P-2379

■苗すくい板

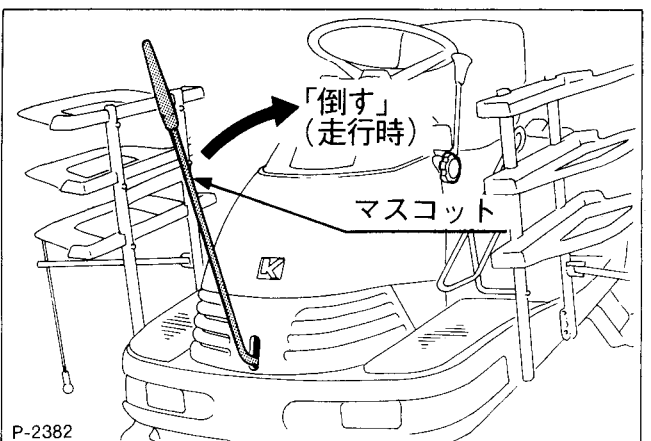
予備苗の補給が終わったら苗すくい板は，予備苗のせ台内側の収納枠に入れてください。

P-2381

㉗隣接マーカ

適正隣接条間を保つように隣接を合わせて進みます。特に，あぜぎわでの植付けやラインマーカで引かれた線が見えにくいときに，使用します。

P-2376

㉘マスコット

ラインマーカで印された線にマスコットを合せて，植付け作業を行います。運搬走行時や格納時は倒してください。

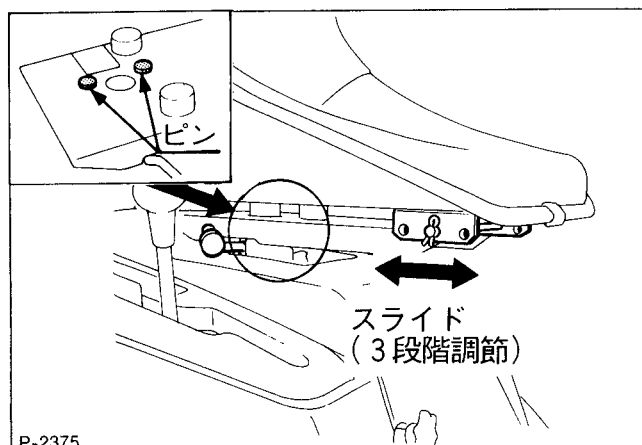
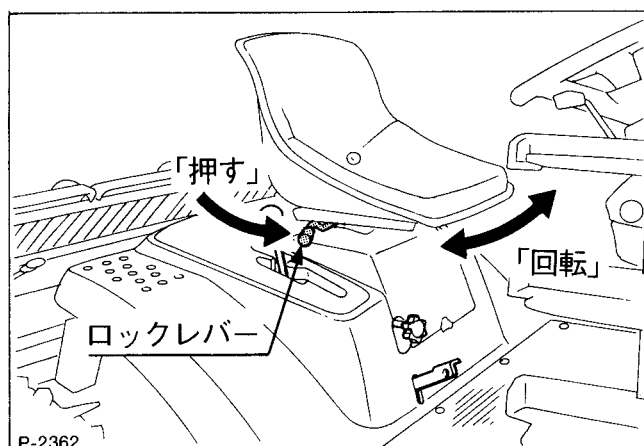
P-2382

■ロータリチェア

【SPA4-M,SPA5・6-S仕様】

注 意

＊苗補給が終わったらロックレバーを戻し，必ずロックしてください。

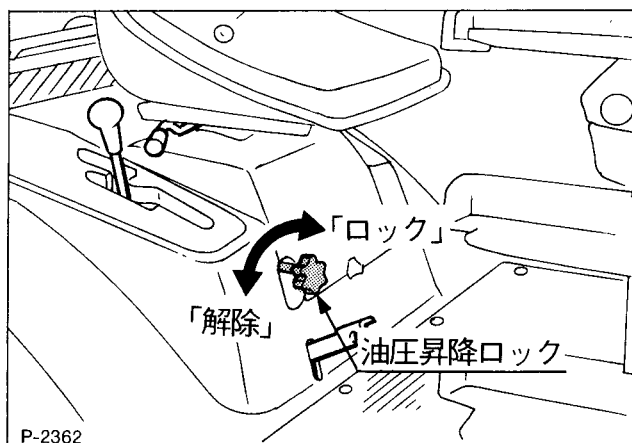
＊苗補給以外は必ず座席をロックしてください。ロックしないで走行すると危険です。

予備苗の補給が楽に行えるよう，シートが回転するようになっています。シート横のロックレバーを前方に押すと，シート回転のロックが解除されます。
シートの回転範囲を大きくしたいときには，背もたれを前に倒して２本のピンを抜いてください。但し，操作レバーの位置によっては，レバーとシートが干渉する場合があるので，注意して回転してください。
運転者の体格に合わせて前後３段階に調節することができます。

その他の装置

■油圧昇降ロック

注 意

＊植付け部を上げて走行する場合，植付け部を点検する場合は，必ず油圧ロックを確実に行なってください。

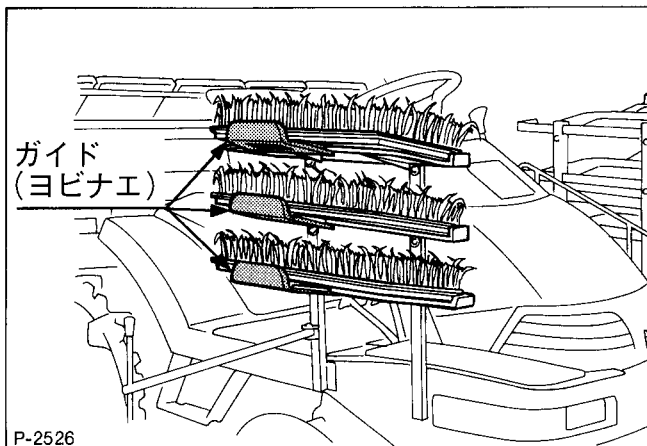
油圧回路を閉じて植付け部の落下を防止する装置です。
右いっぱいに回す……植付け部の上昇，下降がロックされる。
左いっぱいに回す……ロックが解除される。
(植付け作業時)

重 要

＊油圧ロックの“ロック”および“解除”の操作は，必ず回らなくなるまで確実にしてください。

＊油圧ロック後，植付けクラッチレバーは“中立”の位置にしてください。

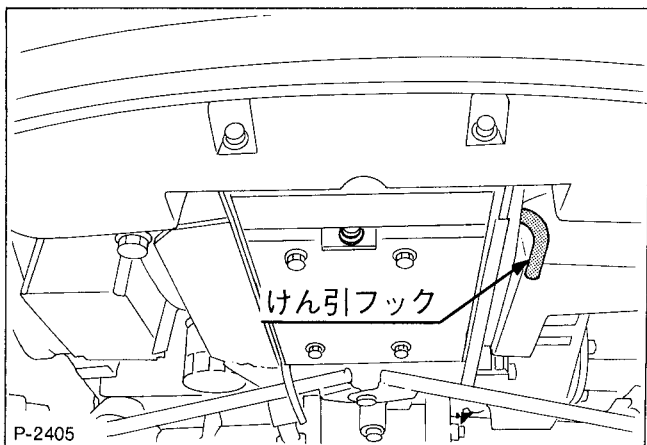
■ガイド(ヨビナエ)の使い方

予備苗台に苗箱のまま苗をのせる場合は，ガイド(ヨビナエ)をすべり止めとして予備苗台に取付けてください。苗すくい板で予備苗台にのせる場合は，ガイド(ヨビナエ)は必要ありません。

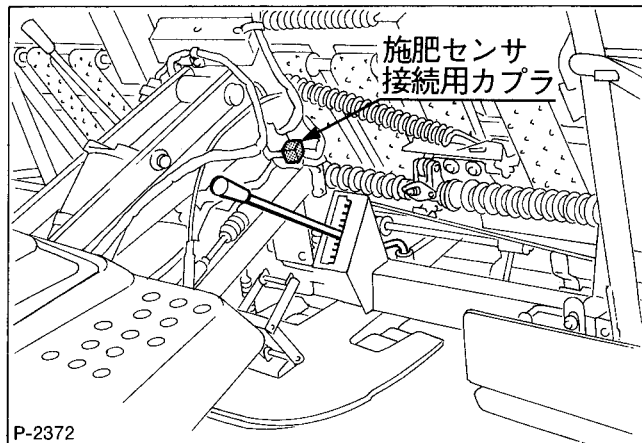
P-2526

■けん引フック

注 意

本機が深田で動かなくなり引上げるとき，このフックを使用して前方に引いてください。
＊けん引フックは，横方向へは絶対に引かないようにしてください。
▶もし怠ると…
外れやすく危険なうえ，フレームが曲がる恐れがあります。

P-2405

■施肥センサワイヤハーネスについて

施肥機を装着した場合に機能する施肥モニタをパネルに装備しています。このため，施肥機をアタッチメントなどで新たに追加装着した場合は，センサの接続用カプラを使用してください。

P-2372

運転前の点検

点検は，運転前欠かさず行ってください。

注　意

＊火気厳禁。
＊点検をするときは，必ずエンジンを停止してから行ってください。
＊点検時取外したカバー類は必ず取付けてください。

重　要

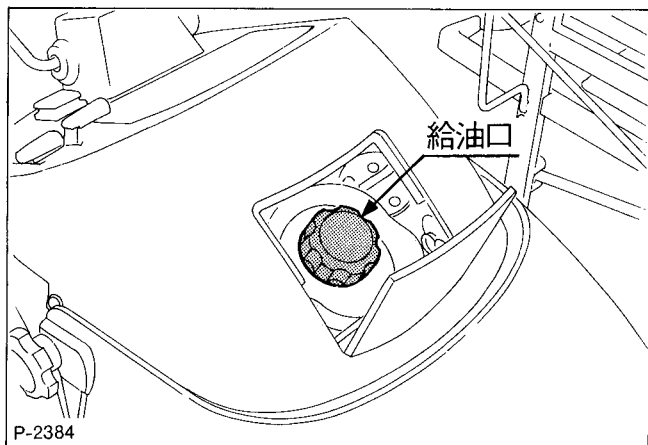
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊配線及びマフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となり危険です。
　毎日の運転前に点検し，きれいに取除いてください。

運転前の点検項目

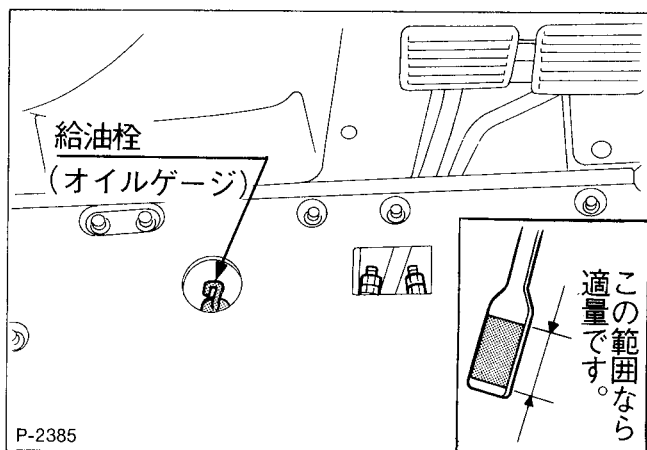
<table>
<tr><th colspan="4">〈ここを〉━━━━━━━━━━▶〈こうする〉</th></tr>
<tr><td colspan="2">燃料タンク</td><td>●作業に必要な燃料がありますか。</td><td>●補給します。(タンク容量８ ℓ)
レギュラーガソリン(無鉛ガソリン)</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジンオイル</td><td>●オイルゲージの上下刻線の間に油量がありますか。
搭載エンジン
SPA 4：GH250
SPA 5・SPA 6：GH340</td><td>●補給します。
クボタ純オイル G10W30
(ガソリン・灯油エンジン用)
SPA 4：0.9 ℓ
SPA 5・SPA 6：1.2 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ミッションオイル</td><td>前ミッション</td><td>●オイルゲージの上下刻線の間に油量がありますか。</td><td>●補給します。
クボタ純オイル　M80B又はUDT…5.8 ℓ
(ミッション油圧兼用)</td></tr>
<tr><td>後車軸ケース(SPA 5・6)</td><td>●検油栓の位置まで油量がありますか。</td><td>●補給します。
クボタ純オイル　M80B又はUDT
SPA 5：給油口(左)1.8 ℓ
SPA 6：給油口(右)1.7 ℓ
合計 3.5 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="2">各ワイヤ，
レバー支点
及びしゅう動部</td><td>●オイルが切れていませんか。</td><td>●適量注油，グリース塗布
●クボタ純オイルG10W30
●クボタスペアグリース(リチューム系)</td></tr>
<tr><td colspan="2">エアークリーナ</td><td>●中のスポンジが汚れていませんか。
【SPA 4】
●中のエレメントが汚れていませんか。
【SPA 5・6】</td><td>●スポンジは灯油か軽油で洗浄します。
(55ページ参照)</td></tr>
<tr><td colspan="2">ブレーキペダル</td><td>●左右の踏込み量が均一になっていますか。</td><td>●左右の踏込み量を調整します。
(調整・54ページ参照)</td></tr>
<tr><td colspan="2">クラッチペダル</td><td>●踏込んだとき，動力の断続が確実ですか。</td><td>●クラッチ断続を調整します。
(調整・53ページ参照)</td></tr>
<tr><td colspan="2">パネル</td><td>●エンジンを始動して各モニタが点滅，作動しますか。</td><td>●各ランプの球切れ。
配線の外れを点検します。</td></tr>
</table>

■補給

◆燃料の点検・補給

P-2384

◆ミッションオイルの補給

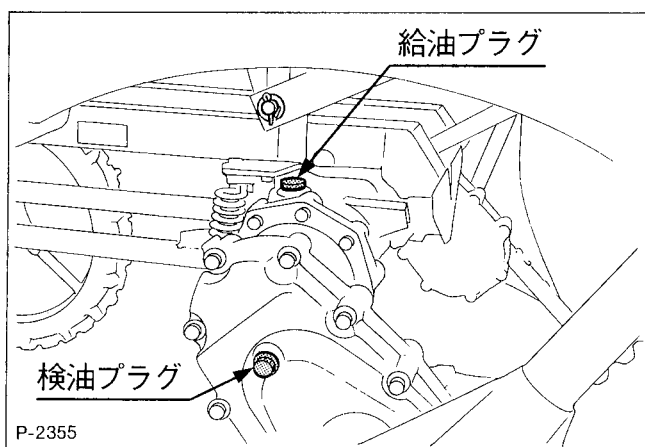
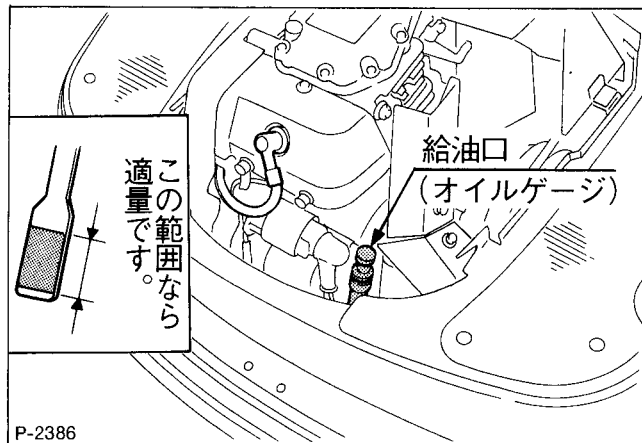
(ステップゴムをはがして補給してください)

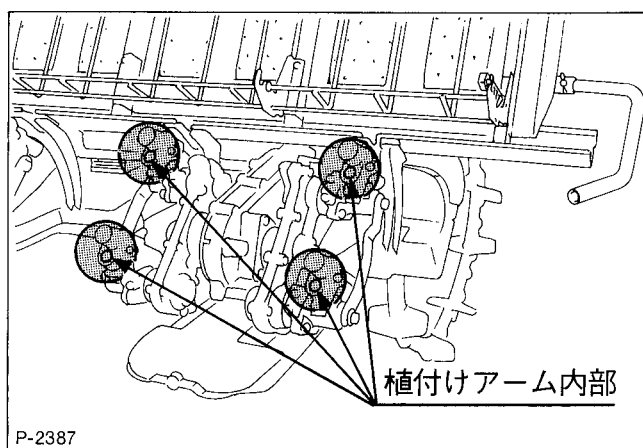
P-2385

◆後車輪ミッションオイルの点検・補給

【SPA5･6】

P-2355

◆エンジンオイルの点検・補給

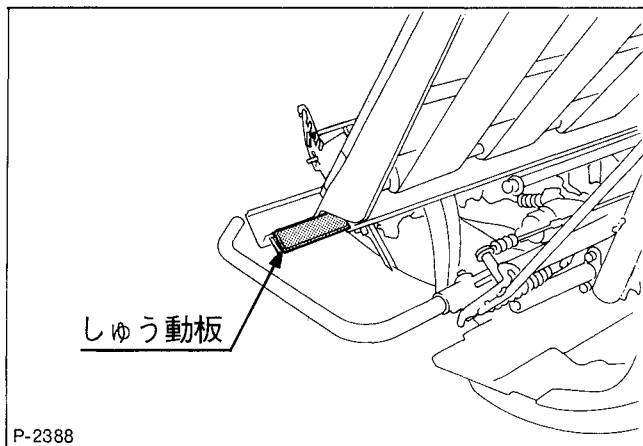
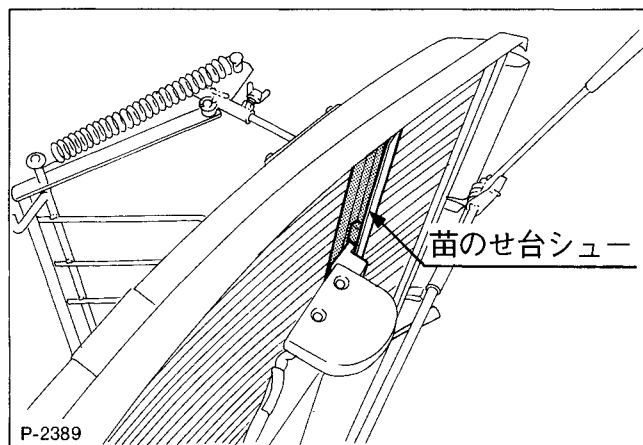
P-2386

◆植付けアームへのオイル又は日石G574グリースの補給

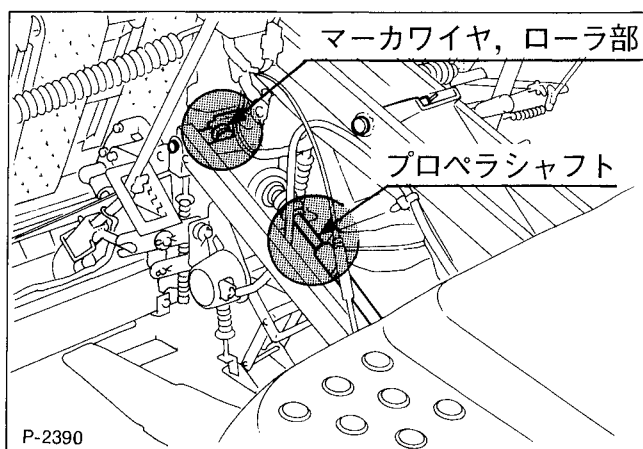
P-2387

■グリース塗布

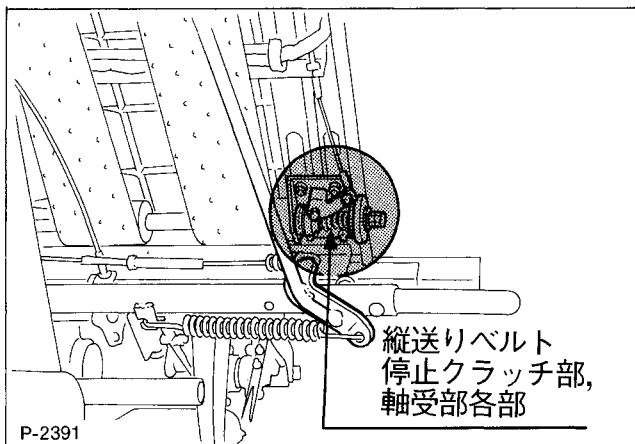
◆しゅう動板へのグリース塗布

P-2388

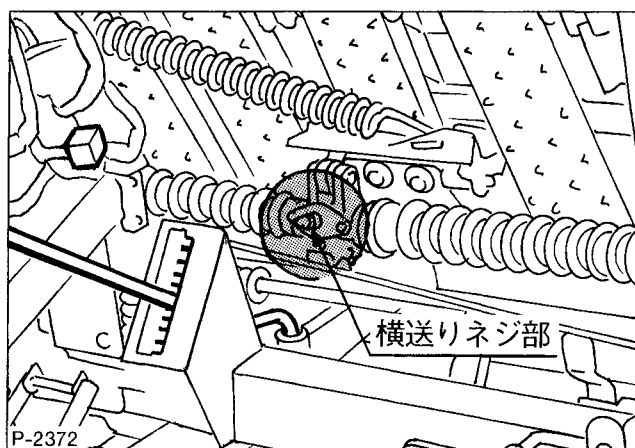
◆苗のせ台シューへのグリース塗布

P-2389

◆プロペラシャフトへのグリース塗布
◆マーカワイヤ，ローラ部へのグリース塗布

P-2390

◆縦送りベルト停止クラッチ部及び軸受部各箇所の洗浄及びグリース塗布

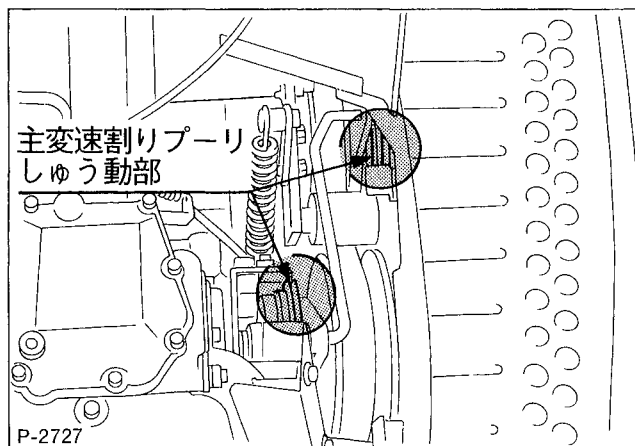
P-2391

■グリースの補給

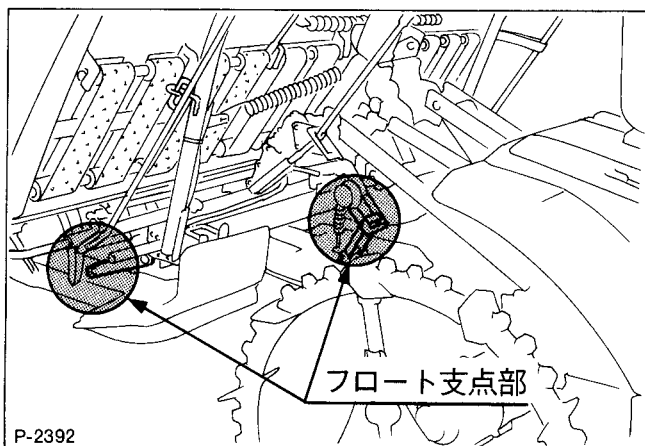
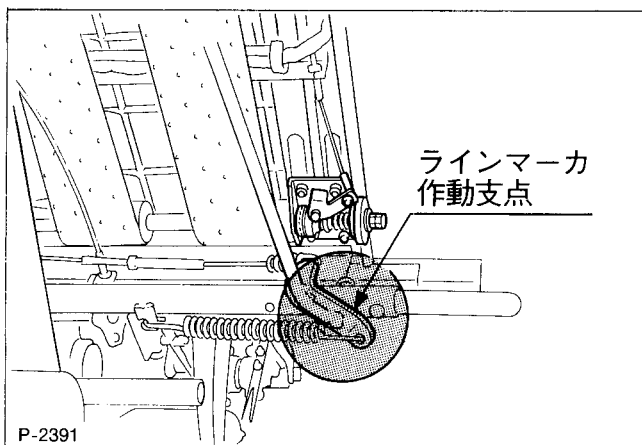
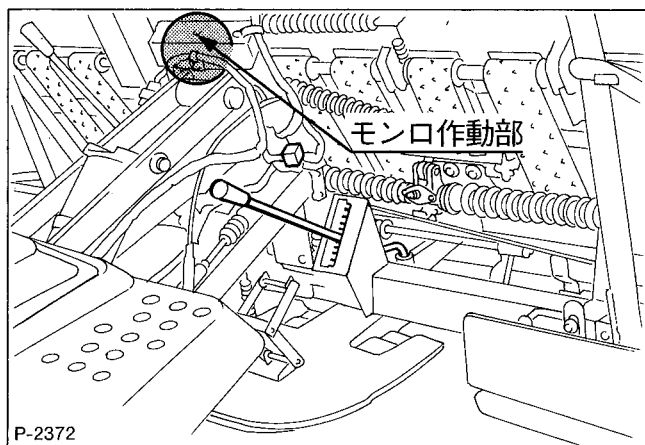
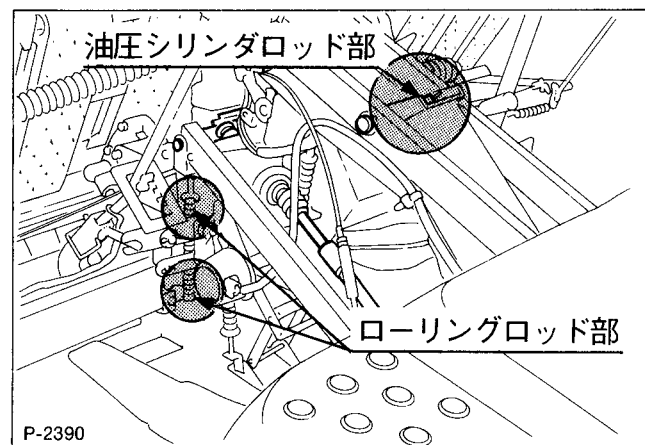
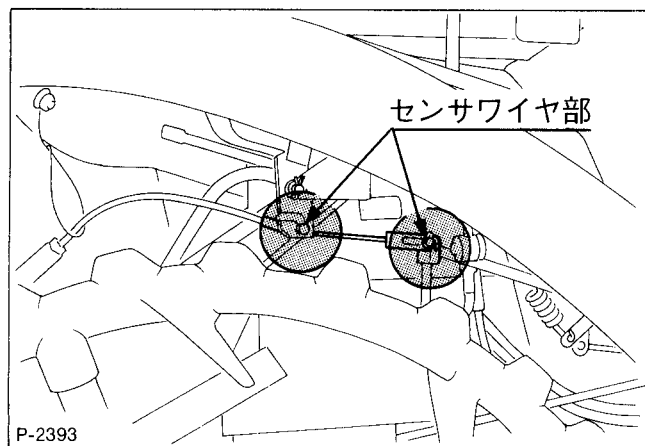
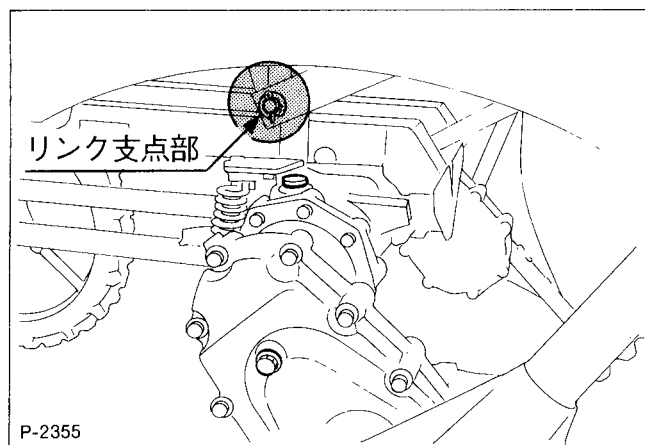
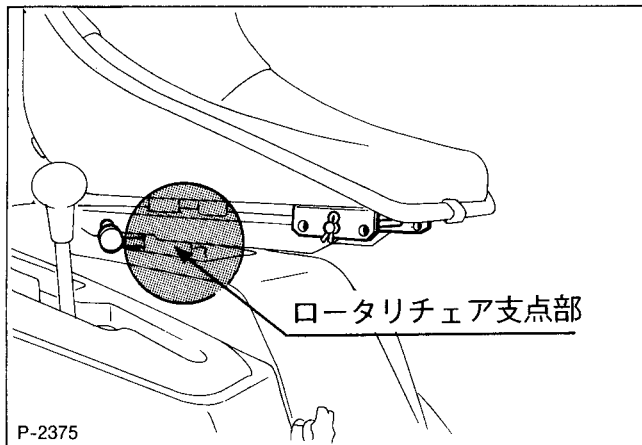
◆横送りネジ部グリース塗布

P-2372

◆主変速割りプーリカム部のグリース補給

【SPA5･6】

※エンジン側：低速側で補給
※クラッチ側：高速側で補給
（注脂時は導風カバーを取外してください。）

P-2727

■注油

◆フロート支点部

◆ラインマーカ作動支点

◆モンロの注油

◆油圧シリンダロッド部
◆ローリングロッド部

◆センサワイヤ部

◆リンク支点部

◆ロータリチェア支点部

◆その他注油箇所
- ペダル支点部，レバー支点部

■清掃および調整

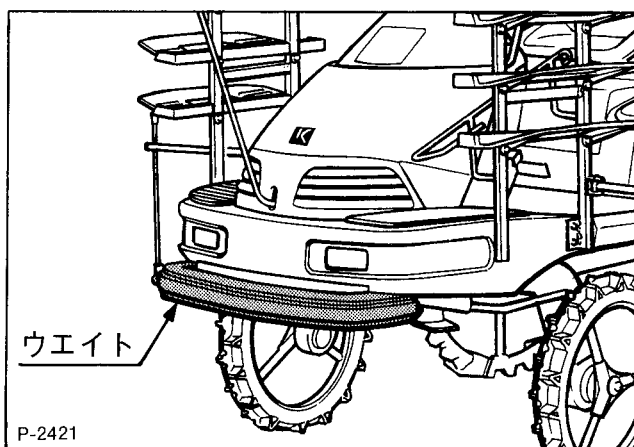
◆エアークリーナエレメントの清掃
50時間ごとの項を参照してください。

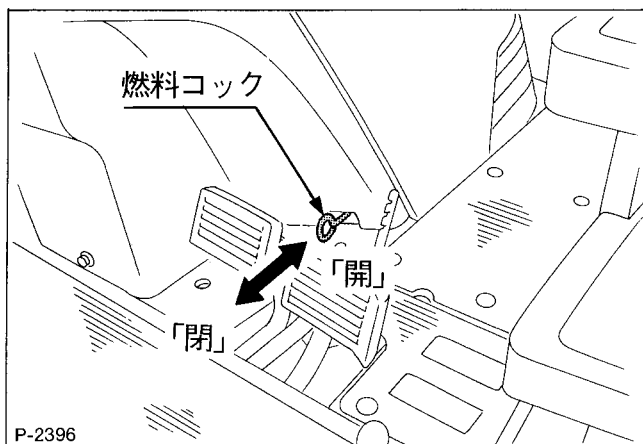
◆ブレーキペダルの調整
作業シーズン前後のメンテナンスの項を参照してください。

◆クラッチペダルの調整
作業シーズン前後のメンテナンスを参照してください。

エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページ“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みください。
＊田植機に貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる排気ガス中毒をさけるため，換気の不十分な納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は運転位置で行ってください。
＊各クラッチレバーを“切”又は“停止”変速レバーを“中立”にして始動してください。
＊機械へ前方から乗り降りするとき，ウエイトに足をのせるとスベリ危険ですので注意してください。

エンジンの始動

❶燃料コックを“開”にします。

❷主変速レバーおよび植付けクラッチレバーは必ず“中立”にします。

注 意

【A仕様】
＊メインスイッチ“入”時(エンスト再始動時も含む)，植付けクラッチレバーが“植付”“下降”“上昇”位置の場合，“中立”復帰させないと植付け部が動作しないよう安全処置をとっています。
(エンジンがかかった瞬間に植付け部が動作すると非常に危険)
＊メインスイッチ“入”時(エンスト再始動時も含む)，植付けクラッチレバーが“自動”位置の場合は，マルチポンパレバーあるいは主変速レバーを“後進”に操作しない限り，植付け部が動作しないよう安全処置をとっています。

❸メインスイッチにキーを差込みます。
❹アクセルレバーを“中程”まで引きます。
❺主クラッチペダルをいっぱい“踏込み”ます。

補 足

＊主クラッチペダルには安全スイッチがついています。ペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。

❻チョークを操作します。
エンジンが冷えているとき
→いっぱい引く。(全閉)
暖まった状態から再始動するとき
→操作しない。(全開のまま)
❼メインスイッチのキーを“スタート”位置に回します。

重 要

＊10秒以内で始動しなかつた場合は，いつたんスイッチを切つて，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

❽エンジンが始動したら，キーから手を離してください。メインスイッチは自動的に“ON”の位置に戻ります。

重 要

＊エンジン回転中は，キーを“スタート”位置にしないでください。セルモータが故障します。

❾エンジンの回転調子をみながら，チョークを徐々に“押込んで”ください。
❿そのまま5分間ぐらい暖機運転してから，作業してください。

◆暖機運転のしかた

 注　意

＊暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキをかけて，変速レバーを“Ｎ”(中立)にして行ってください。
＊暖機運転 は閉めきった室内で行わないでください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部に十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，回転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

エンジンの停止

 警　告

＊駐車ブレーキをかけ，キーを抜いてください。
＊主クラッチペダルをロックし，主変速レバーと植付けクラッチレバーを“中立”にしてください。

❶メインスイッチを**“切”**の位置にしてください。エンジンが停止します。

乗用田植機の運転

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが，田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は，厳重な検査のもとに出荷されていますが，田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は，田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる植付作業は避けましょう。
田植機の性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の扱いは次項を厳守してください。

■初期50時間のならし運転

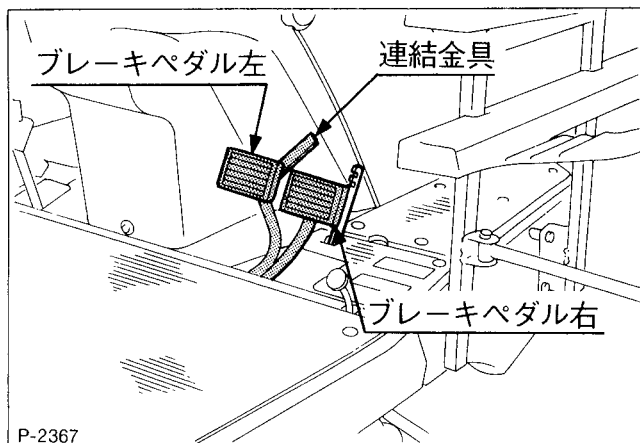
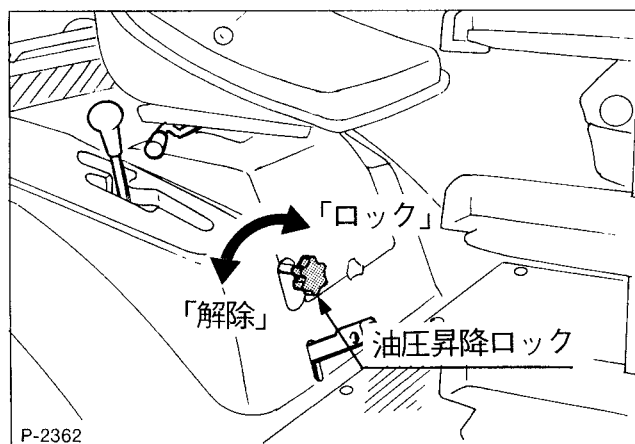
＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日，エンジンは十分暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定回転数以上にセットしないでください。
＊高速での田植作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では適切な低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換

新車時は，田植機の回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんので，ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながる恐れがあります。よって油脂・フィルタ類は10時間で交換してください。

発進

❶左右のブレーキペダルが **“連結”** されているかを確認してください。

❷エンジン回転を **“中速”** 回転に上げます。
❸植付けクラッチレバーを **“上昇”** 位置にして，植付け部を上げます。
❹油圧昇降ロックを右に回しロックします。

❺主クラッチペダルとクラッチロック金具を同時に踏込んで，変速レバーを作業に合った位置にします。
❻主クラッチペダルを徐々に離して発進します。

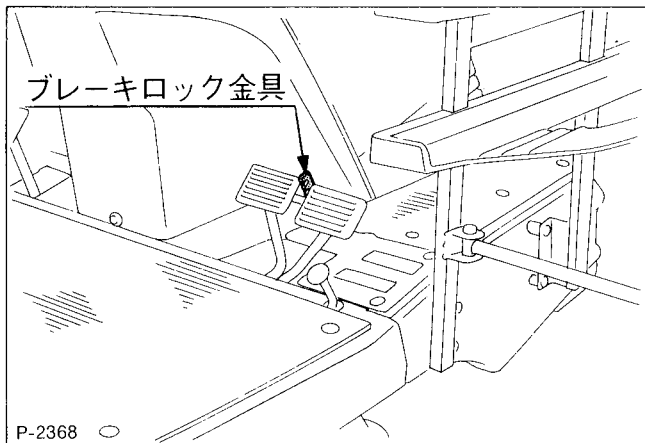
停車

❶アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を落とします。
❷主クラッチペダルとブレーキペダルを同時に踏込みます。
❸完全に停止してから主変速レバーを **“中立”** 位置にします。
❹主クラッチペダルは **“ロック”** の状態にします。

駐車

 注 意

＊坂道で駐車する場合は，車輪に必ず車止めをしてください。

❶ **“駐車ブレーキ”** をかけます。
❷エンジンを停止します。
❸燃料コックを **“閉”** にします。

移動走行前の準備

この機械は，一般道路の走行はできません。

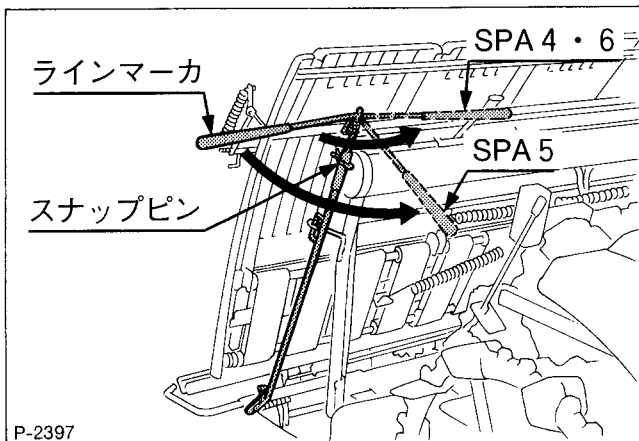
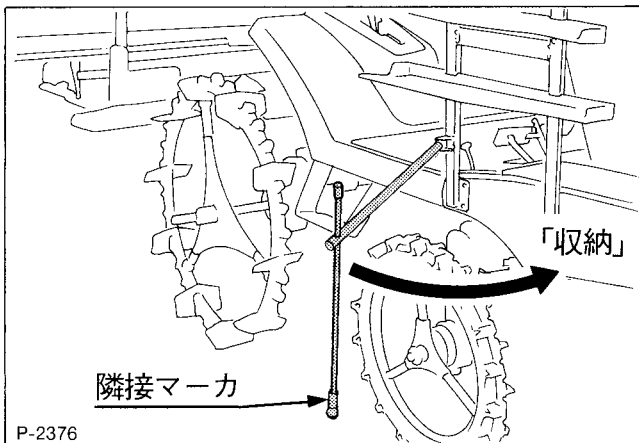
 注 意

＊必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
＊旋回するときはスピードを落としてゆっくり旋回し，片ブレーキは使用しないでください。高速での旋回は横転する危険があります。
＊運転者以外の人や物を乗せないでください。
＊傾斜地，路肩の軟弱な農道，路肩は走行しないでください。

■移動走行のしかた

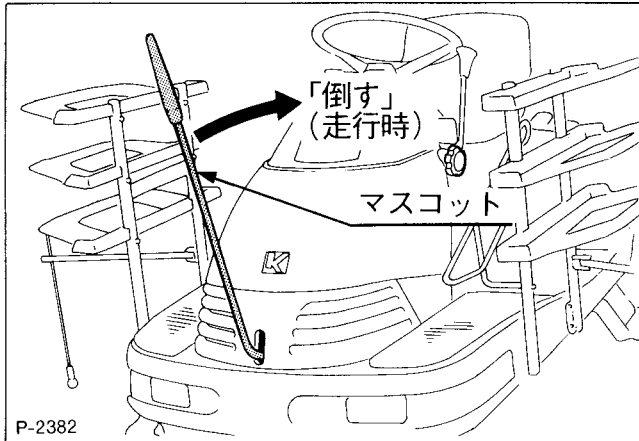
❶ラインマーカをロックします。
狭い道などでラインマーカが外に出て邪魔になるときは，ラインマーカの位置を変更してください。

 注 意

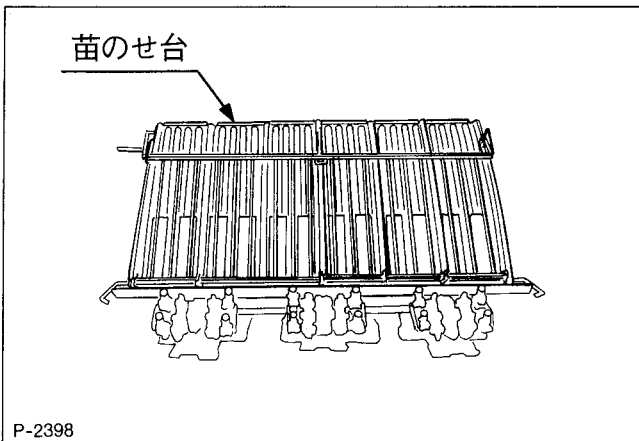
＊ ラインマーカを必ずロックしてください。
人や物にぶつけるおそれがあります。

❷隣接マーカを確実に収納します。

重 要

＊マーカは必ず前方へ収納してください。後方へ収納すると前車輪にぶつけて曲げることがあります。

❸マスコットをボンネット側へ倒します。

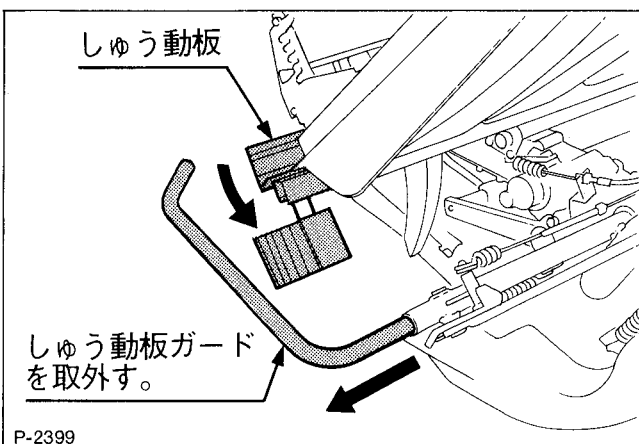
P-2382

❹植付け部をいっぱい上にあげ，油圧昇降ロックを右に回しロックします。

❺主変速レバーを **"中立"** にして植付けクラッチを入れ，苗のせ台を機体中央に移動させます。

P-2398

❻苗のせ台が中央にきたら，植付けクラッチレバーを **"中立"** の位置にセットしてください。

❼しゅう動板ガードを取外し，ボルトをゆるめて両側のしゅう動板を，下図のように曲げてください。【SPA 6】

❽SPシフトレバー，SPスーパーシフトレバー，FCシフトレバーは[1]**(低速)**に，主変速レバーは道の状態に合せて **"植付"** または **"移動"** にして走行してください。

P-2399

トラックへの積み・降ろし

 警　告

＊アユミ板は十分な強度と長さ，板幅(30cm以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，誘導者を付けてください。

＊アユミ板のフックは，荷台に段差のないように，また，ずれないように確実に掛けてください。

＊ブレーキペダルは必ず左右連結してください。

＊万一途中でエンストしたときは，即ブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ道路までおろしてください。絶対にクラッチを先に踏込まないでください。

＊予備苗のせ台に予備苗や物を積んでの積み降ろしは危険ですので必ず荷物はおろしてください。

＊積み降ろしの途中で，主変速レバーを"中立"にしないでください。

＊前輪ペダル（SPA4），デフロック（SPA5,6）を踏み，斜面に対して直角に行ってください。

重　要

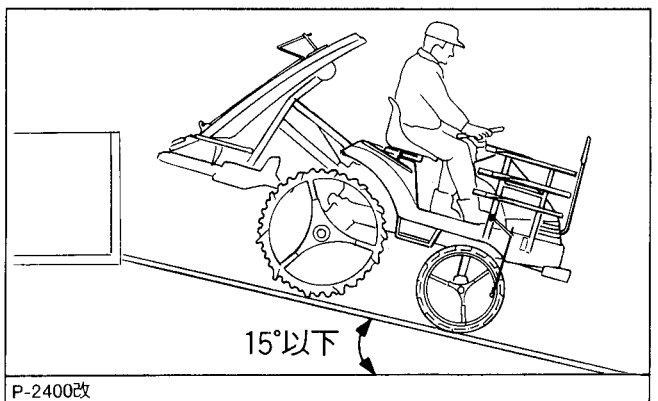
＊トラック運搬時は必ず燃料コックを"閉"にしてください。オーバフローの原因になります。

■積み・降ろしのしかた

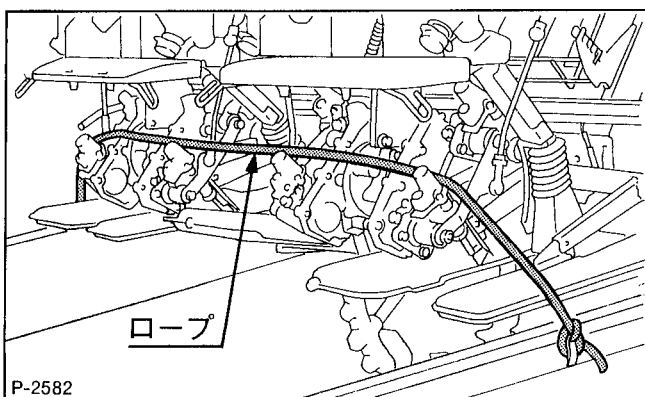
 注　意

＊平たん地を選び助手の立合誘導のもとに行ってください。また，田植機の周囲に人を近づけないでください。

＊積込むトラックの変速は"1速"又は"R"の位置に入れて，駐車ブレーキを引き，車止めを行ってください。

P-2400改

アユミ板の条件

長　さ	車の荷台の高さの4倍以上
幅	30cm以上
数　量	2枚
強　度	1枚が500kg以上の重量に耐えうる

❶植付け部をいっぱい上にあげ，油圧昇降ロックを右に回しロックします。
❷ラインマーカを確実にロックし，隣接マーカは収納します。
❸SPシフトレバー，SPスーパーシフトレバー，FCシフトレバーを1(**低速**)，高・低速レバーは **"低速"** にして，積込みは **"後進"** 位置でゆっくり行います。
❹積込みが完了したら変速レバーを **"植付"** 又は **"後進"** に入れ，駐車ブレーキをかけ，燃料コックを **"閉"** にします。
❺植付け部がバウンドしないように，軽くロープ掛けします。

❻車輪にロープをかけて固定します。
❼トラックから降ろす場合は，SPシフトレバー，SPスーパーシフトレバー，FCシフトレバーを1(**低速**)，高・低速レバーは **"低速"** にして，主変速レバーを **"植付"** の位置でゆっくりと前進で降ろしてください。

ほ場への出入り

 警　告

＊ブレーキペダルは必ず左右連結してください。
＊高低差が大きいときは。アユミ板を使用して出入りしてください。
＊予備苗など田植機に荷物を積んでの積み・降ろしは危険ですので，必ず荷物はおろして出入りしてください。

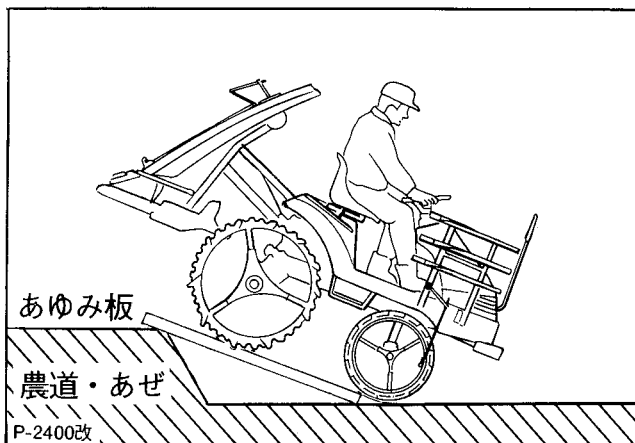
◆後輪デフロックペダルの使い方（次のようなとき使用してください）【SPA5・6】

(1)農道の登り降りやあぜ越え時，片輪がスリップして直進できないとき。
(2)ほ場の軟弱なところに入り込み，スリップして走行しにくくなったとき。
(3)トラックへの積み・降ろし時。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転をさげてください。
＊デフロックが抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。

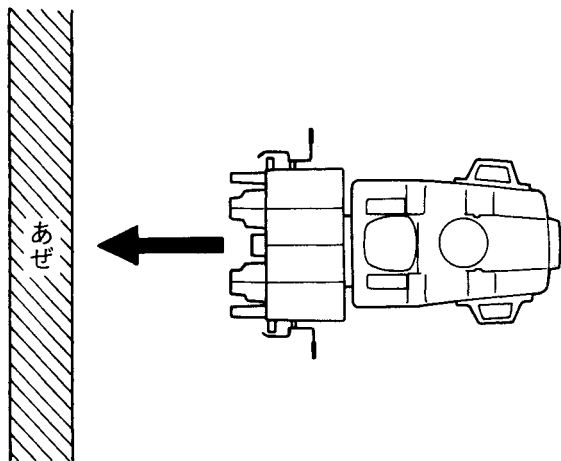
■ほ場への出入りのしかた

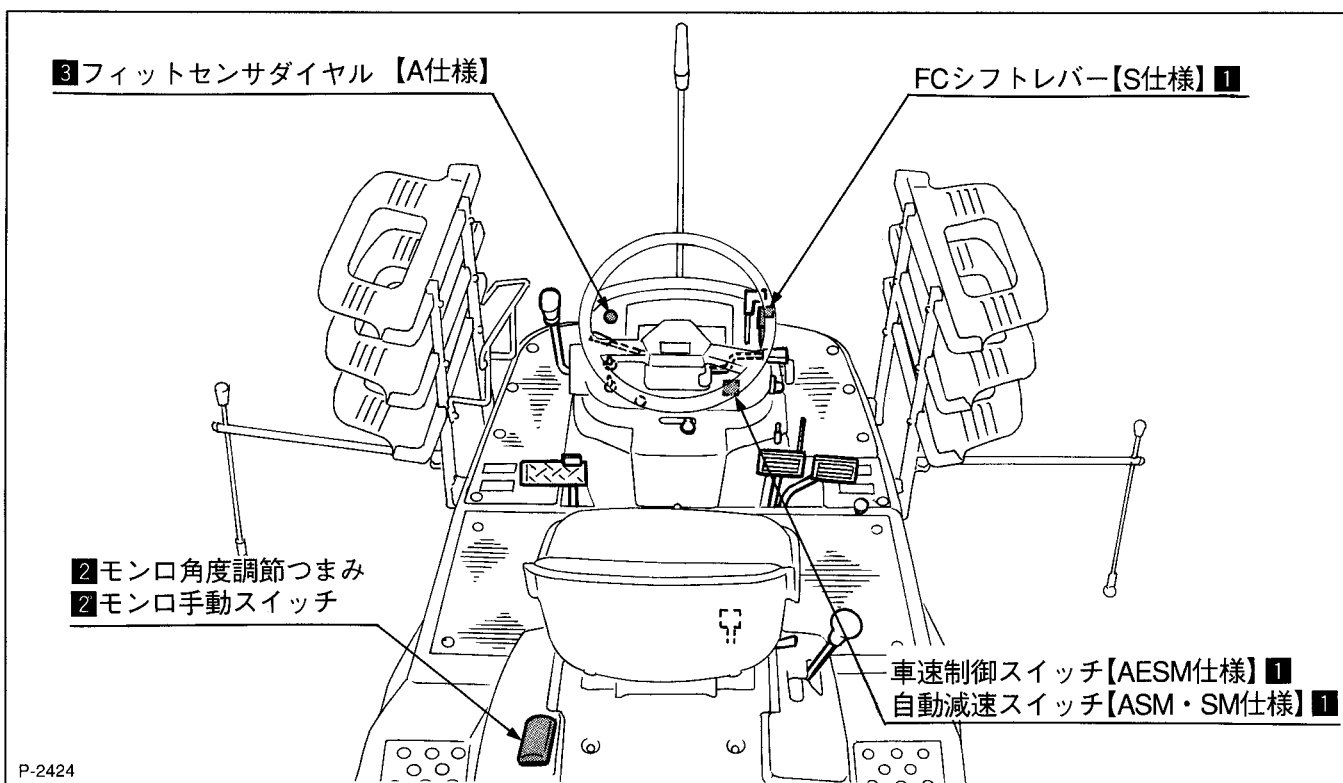
◆急斜面での移動

必ずブレーキを使用し適当な速度で移動してください。

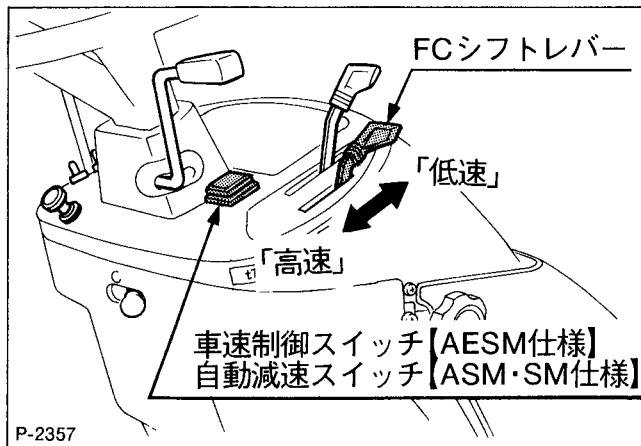
◆**あぜごえ時の注意**

(1)必ずあぜに直角に進行してください。

(2)急なあぜ，高いあぜを上るときは **"後進"** で行ってください。

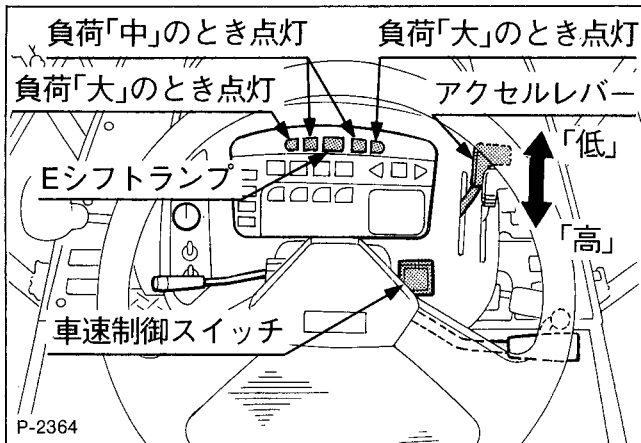
(3)できるだけアユミ板を使用しましょう。

P-1454

自動装置

3フィットセンサダイヤル【A仕様】
FCシフトレバー【S仕様】1
2モンロ角度調節つまみ
2'モンロ手動スイッチ
車速制御スイッチ【AESM仕様】1
自動減速スイッチ【ASM・SM仕様】1
P-2424

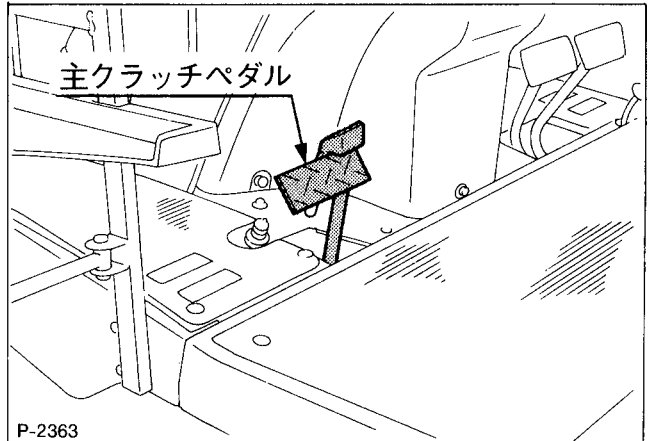
1 マイコン車速制御

◆マイコンソフトクルーズ

【SPA5・6-AESM仕様】

車速制御スイッチを **"入"** にし，マルチポンパレバーとSPマーカレバーにて植付けの状態にします。アクセルレバーを最高位置にすると，Eシフトランプが点灯し，車速制御がはたらきます。作業中に負荷がかかったときに自動的に最適速度まで減速し，負荷が軽くなると自動復帰します。

負荷の大きさに応じて，パネルのエンジン負荷表示モニタが点灯します。

◆マイコンソフトスタート

【SPA5・6-AESM仕様】

主クラッチペダルを踏込んで停止した後，主クラッチペダルを戻すと，FCシフトレバー，車速制御スイッチに関係なく，徐々にFCシフトレバーの設定速度まで増速されます。常に最低速度からのスムーズな発進ができます。

◆ワンショット減速【SPA5・6-AESM仕様】

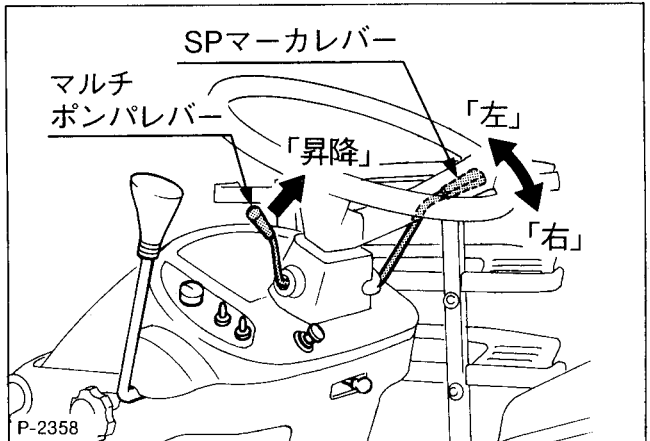
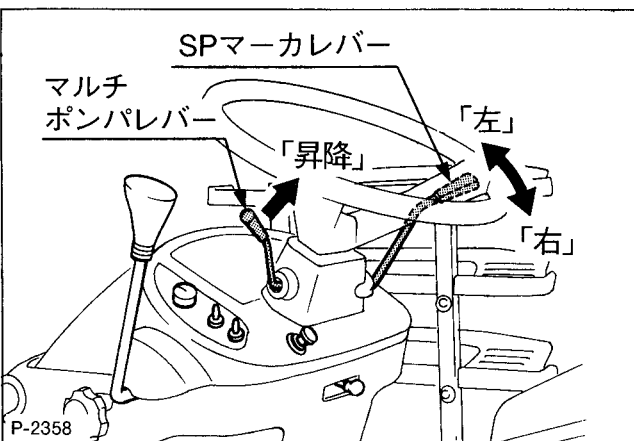
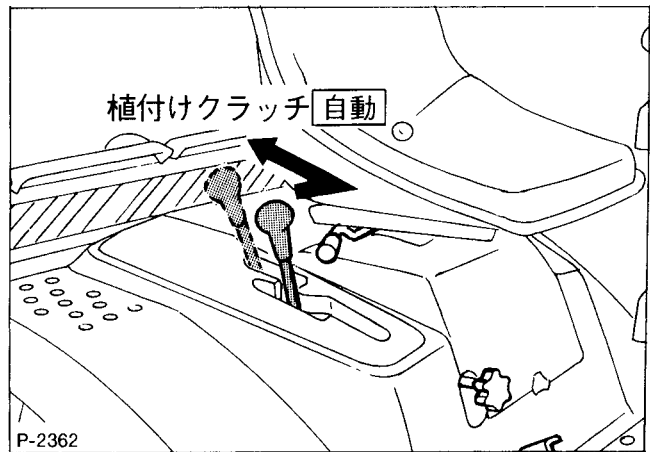
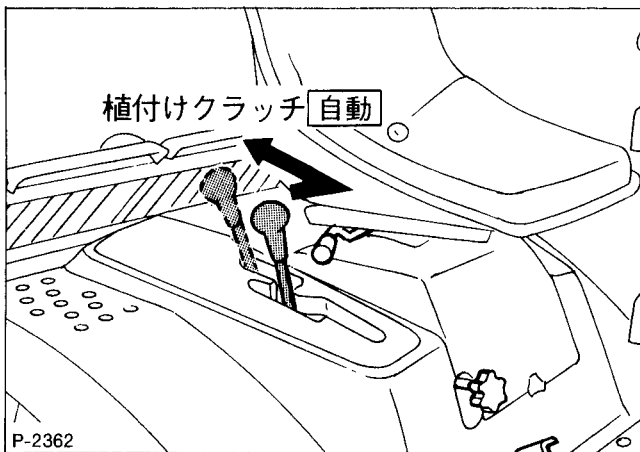
マルチポンパレバー操作に連動して自動減速がはたらきます。

❶車速制御スイッチを **"入"** にし，植付けクラッチレバーを **"自動"** にします。この状態で，

- マルチポンパレバーで植付け部を上昇させる。 ➡ FCシフトレバーに関係なく自動的に減速します。
- マルチポンパレバーで植付け部を下降させ，SPマーカレバーで植付け状態にする。 ➡ 自動的にFCシフトレバーの設定速度に戻ります。

❷移動走行など，自動減速が不要の場合は，車速制御スイッチを **"切"** にしてください。常にFCシフトレバーの設定速度になります。

P-2362

P-2358

◆ワンショット減速【SPA5・6-ASM仕様】
マルチポンパレバー操作に連動して自動減速がはたらきます。

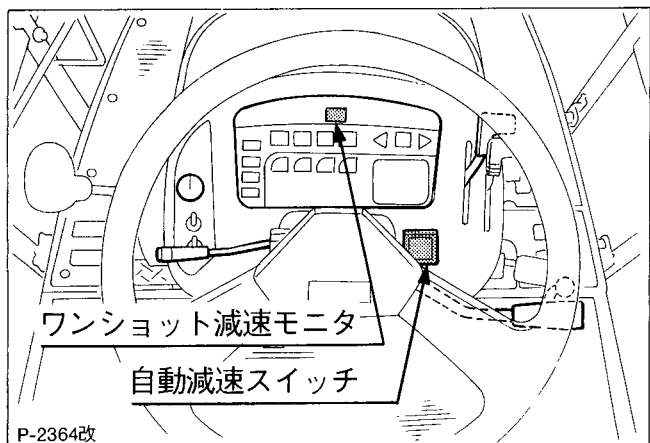
❶自動減速スイッチを **"入"** (スイッチランプ点灯)にし，植付けクラッチレバーを **"自動"** にします。この状態で，

• マルチポンパレバーで植付け部を上昇させる。	➡FCシフトレバーに関係なく自動的に減速します。同時に，**"ワンショット減速モニタ"** が点灯します。
• マルチポンパレバーで植付け部を下降させ，SPマーカレバーで植付け状態にする。	➡自動的にFCシフトレバーの設定速度に戻ります。同時に，**"ワンショット減速モニタ"** が消灯します。

❷移動走行など，自動減速が不要の場合は，自動減速スイッチを **"切"** (スイッチランプ消灯)にしてください。常にFCシフトレバーの設定速度になります。

P-2362

P-2358

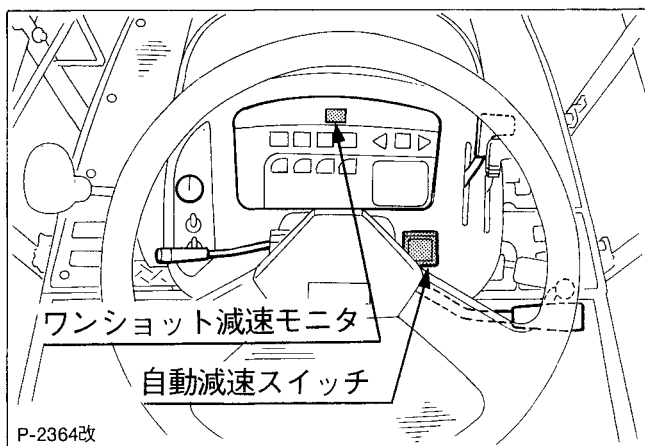
P-2364改

◆ワンショット減速【SPA5・6-SM仕様】

❶自動減速スイッチを **"入"** (スイッチランプ点灯)にしておきますと,

- 植付けクラッチを **"切"** ➡ FCシフトレバーに関係なく自動的に減速します。同時に, **"ワンショット減速モニタ"** が点灯します。
- 植付けクラッチを **"入"** ➡ 自動的にFCシフトレバーの速度に戻ります。同時に, **"ワンショット減速モニタ"** が消灯します。

❷移動走行など, 自動減速が不要の場合は, 自動減速スイッチを **"切"** (スイッチランプ消灯)にしてください。常にFCシフトレバーの設定速度になります。

P-2361

P-2364改

2 SPモンロ【SPA4・5・6-M仕様】

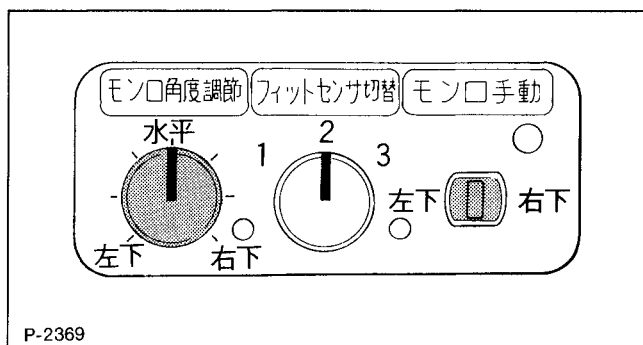
主変速レバーが **"植付"** 又は **"移動"** でかつ植付けクラッチレバーが **"植付"** **"下降"** ・ **"自動"** (A仕様のみ)のいずれかのときSPモンロは作動します。

◆モンロ角度調節つまみ

モンロ角度調節つまみは, **"水平"** 位置にセットしてください。
あぜぎわの植付けなどで植付け部を傾斜させたいときに使用してください。植付け中, 左右どちらかが浮きぎみ傾向にあるとき, このつまみで微調整ができます。

◆モンロ手動スイッチ

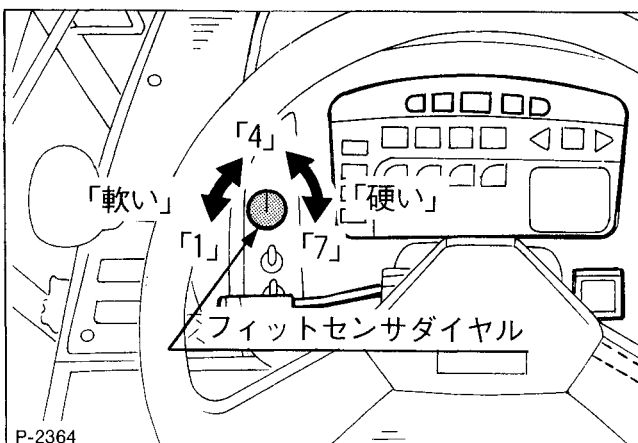
自動が正常に作動しない場合, 植付け部を水平に持ってくるときに使用してください。

P-2369

3 SPオート【SPA5・6-A仕様】

◆フィットセンサダイヤル

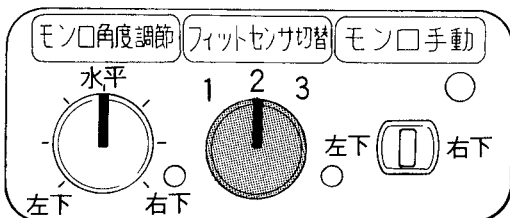
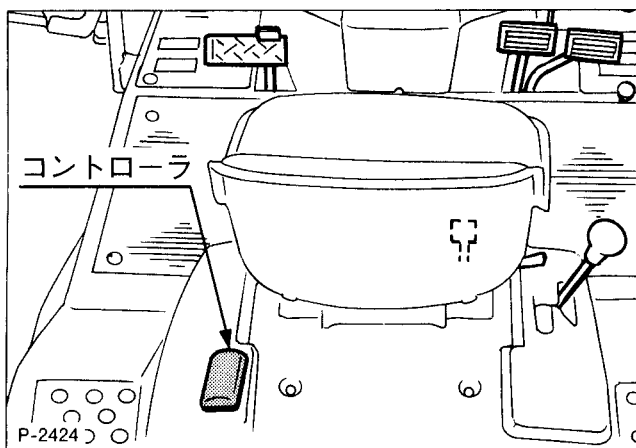
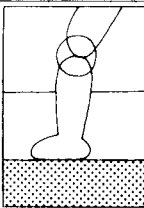
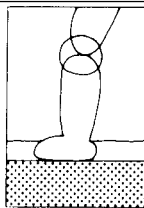
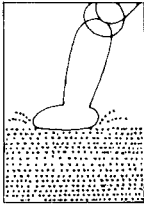
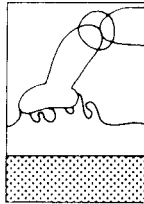
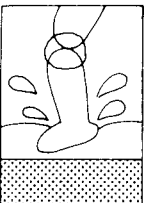
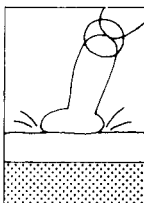
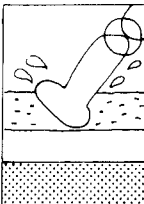
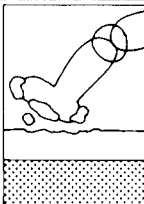
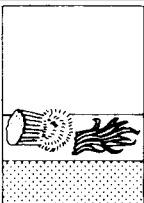
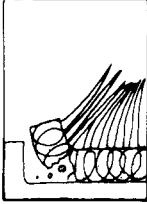
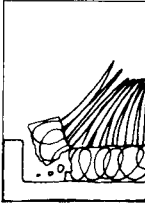
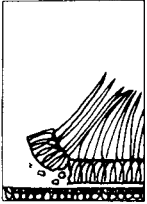
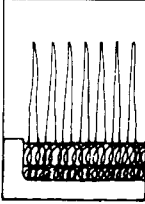
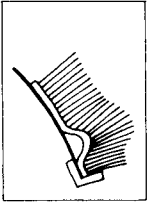
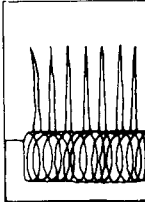
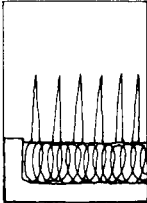
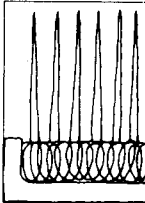
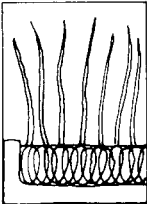
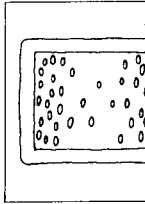
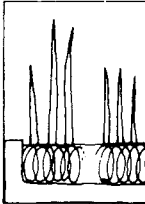
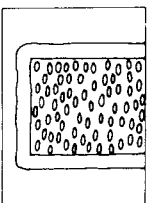
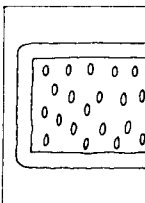
フロートによりほ場表面の整地を最良にするため, ほ場の状態に合った植付け部の上下の動きの感度を調節するダイヤルです。
感度調節は, 下記を目安にしてください。

軟い(トロトロ)ほ場………… 1～3
標準ほ場 …………………… 4
硬いほ場 …………………… 5～6
凹凸が激しい
又は, ほ場が荒れている場合 …… 7

P-2364

◆フィットセンサ切換えつまみ

このつまみはコントローラ内にあり，フィットセンサダイヤルの感度調節範囲を切換えるときに使用します。
通常は“2”の位置にセットしておきますが，

(1)フィットセンサダイヤルを1(ほ場表面硬さ：軟い)にセットしても泥押しするときは，フィットセンサ切換えつまみを“1”にセットします。この時整地が不十分であれば再度フィットセンサダイヤルで微調節してください。

(2)フィットセンサダイヤルを7(ほ場表面硬さ：硬い)にセットしても整地が不十分なときはフィットセンサ切換えつまみを“3”にセットします。この時泥押しすれば再度フィットセンサダイヤルで微調節してください。

上手な田植え作業のしかた

田植え作業ができるほ場と苗の条件

上手な植付けを行うには，ほ場の条件，苗の条件が良くなければ出荷状態でうまく使えないことがあります。次のような条件が予想される場合は事前に販売店，又はJA農協にご相談ください。

■ほ場条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）	
深　さ	①耕盤までの深さが30cm以上ある深いほ場。	②耕盤までの深さが10cm以下の浅いほ場。
土　質	①砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどの硬いほ場）。	②強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。
硬　さ	①代かき直後のほ場，又は代かき後いく日たっても固まらないトロトロの軟らかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。	②代かき後，日数がたって硬くなったほ場，又は代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるような硬いほ場）。
水　深	①水深の平均が３cmを越える水の多いほ場。	②水気がなく，車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	①裏作跡などで，刈り株・排ワラ又は雑草が十分腐らず，代かき後も表面に多量に露出しているほ場。	

P-0280

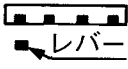
■苗条件

項　目	条　件（うまく使えないこともある状況）		
苗　床	①砂質が多く，苗床が崩れやすい苗。	②根張りが悪く，苗床が崩れやすい苗。	
	③根張りはよいが，根を切ったために苗床が崩れやすい苗。	④根の張り過ぎた，植付け爪のささりにくい苗。	
	⑤苗床厚（マット厚）が2cm以下の，薄い苗。	⑥苗床厚（マット厚）が4cm以上の，厚い苗。	
草　丈	①草丈が8cm以下の，短い苗。	②草丈が20cm以上の，長い苗。	
素　質	①軟弱徒長苗。	②播種ムラのひどい苗。	③成育ムラやハゲた部分のある苗。
播種量	①催芽もみで，1箱当り250g以上の，厚播きの苗。	②催芽もみで，1箱当り100g以下の，薄播きの苗。	

P-0280

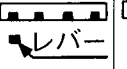
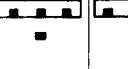
育苗方法は各地区ごとに詳しい指針，指導要領がありますので，普及所や指導機関によくご相談ください。

田植え作業前の準備

■株数の決定と調節

植付け株数は，下表を参照の上株間調節レバーを切換えて行ってください。

重 要

* この株数は車輪スリップ率10%のときのものです。
* 株数を切換えるときは，主変速レバーを“N”(中立)にして，エンジンを“低速”にして行います。また，植付けクラッチレバーは必ず“N”(中立)にしておいてください。

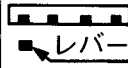
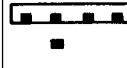
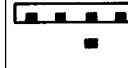
● SPA 4

3段階に調節できます。　( )内はV仕様　< >内はW仕様

レバーの位置	■レバー	■	■	■
3.3㎡当り株数	70株 (85株) 〈35株〉	60株 (70株) 〈45株〉	中立	50株 (60株) 〈40株〉
株間(cm)	16 (13) 〈30〉	18 (16) 〈24〉	—	21 (18) 〈27〉

P-2432

● SPA 5·6, SPA 6-C2

5段階に調節できます。　( )内はC2仕様

レバーの位置		■レバー	■	■	■
ギヤー組合せ					
(ギヤー図)	3.3㎡当り株数	80株 (70株)	60株 (55株)	中立	50株 (45株)
	株間(cm)	14	18	—	21
(ギヤー図) P-1501 出荷時	3.3㎡当り株数	90株 (80株)	70株 (60株)	中立	60株 (55株)
	株間(cm)	12	16	—	18

注 意

* **ギヤーの組合せ時は，必ずエンジンを停止して行ってください。**

● SPA 6-CY(CYP), SPA 5-W·6-W

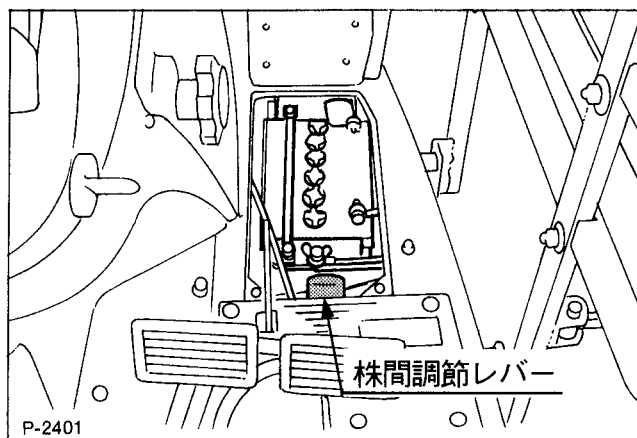
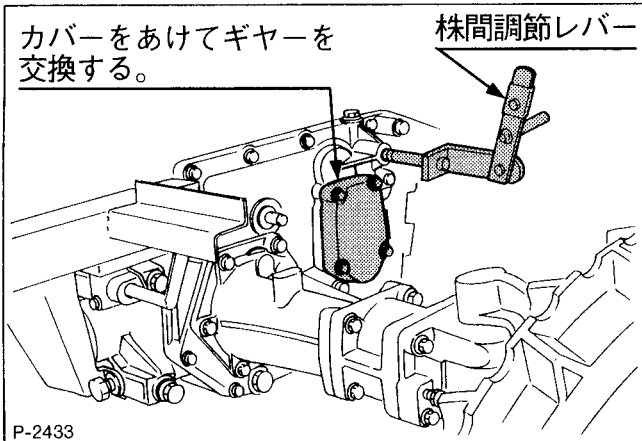
3段階に調節できます。　< >内はW仕様

レバーの位置	■レバー	■	■	■
3.3㎡当り株数	70株 〈35株〉	90株 〈45株〉	中立	80株 〈40株〉
株間(cm)	14 〈30〉	11 〈24〉	—	12 〈27〉

補 足

* CY(CYP)仕様は，ギヤーの交換による株数の変更はできません。

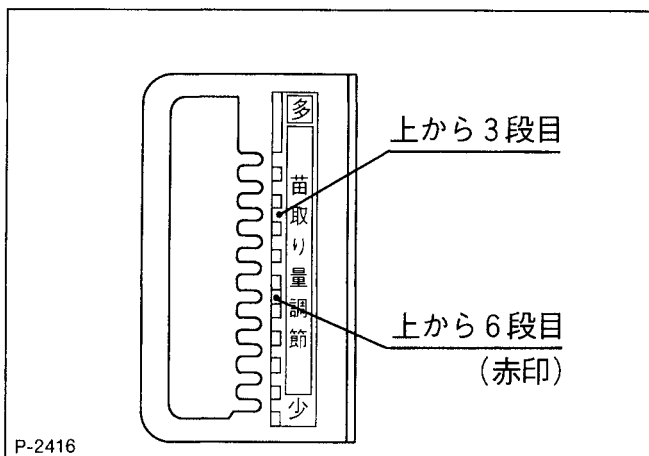
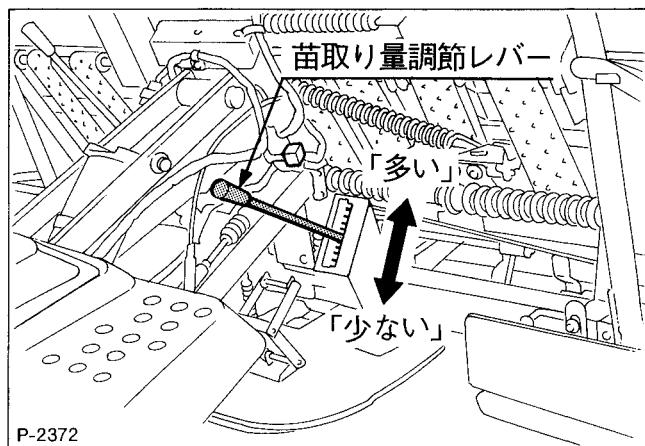
P-2401

P-2433

* カバーをあけギヤーの組合せを左図のように変えます。出荷は60,70,90株にセットしてあります。ギヤーの入替えが必要な場合には，販売店・JA農協へご用命ください。

■植付け株数と苗の使用量について

10アール当りの苗の使用量は，栽植密度と横送り量，苗取り量によって決まります。下記に示す表は，苗取り量調節レバーを所定の位置にセットしたときの目安です。

横送り量	苗の種類	苗取り量調節レバー位置	3.3m^2当り株数									
			35株	40株	45株	50株	55株	60株	70株	80株	85株	90株
16回	クボタシンクロポット成苗(CYP仕様)	上から3段目	−	−	−	−	−	−	40箱	46箱	48箱	50箱
	マット成苗	上から3段目	−	−	−	27箱	29箱	32箱	37箱	42箱	45箱	48箱
18回	マット成苗，中苗，(CY仕様)	上から3段目	−	−	−	−	−	−	33箱	38箱	−	42箱
20回	中苗	上から3段目	15箱	17箱	19箱	21箱	23箱	26箱	30箱	34箱	36箱	38箱
26回	稚苗	上から6段目(赤印)	9 箱	11箱	12箱	13箱	15箱	16箱	18箱	21箱	22箱	23箱
30回	乳苗(CY仕様以外)	上から6段目(赤印)	−	−	−	11箱	13箱	14箱	16箱	18箱	19箱	20箱

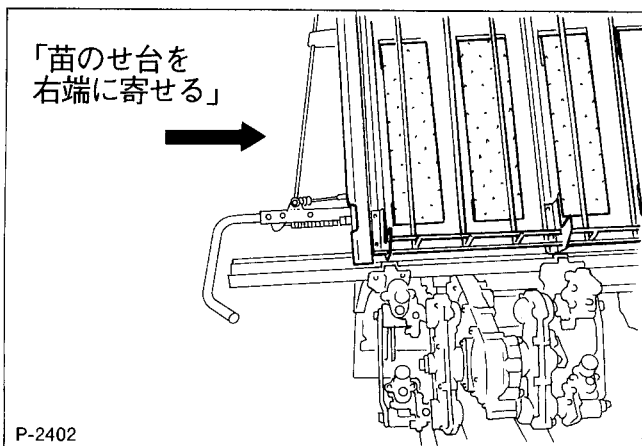
実際には，余裕を見て多い目に準備してください。
また，苗取り量をかえると所要箱数もかわってきます。
(レバー位置を１段変えると，箱数は，約６～８％増減します)

※ポット成苗を植付けるときは64ページを参照してください。

■横送り量の切換えの調節について

苗の種類(稚苗，中苗，成苗，乳苗)により，苗のせ台の横送り量を切換えます。

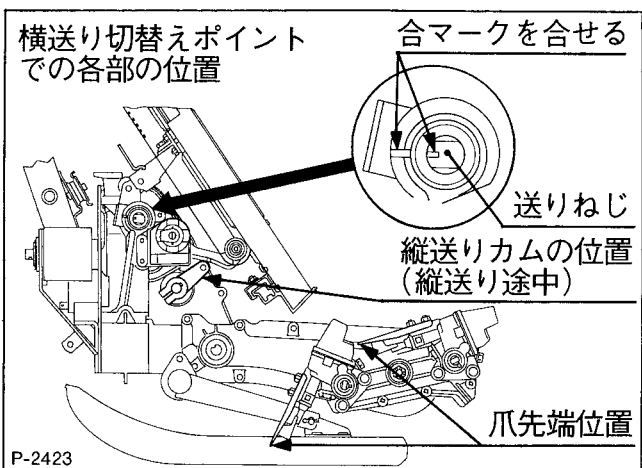
❶植付け部を作業しやすい高さまで上げて(地面に植付け爪が当らない高さで)，油圧昇降ロックをします。

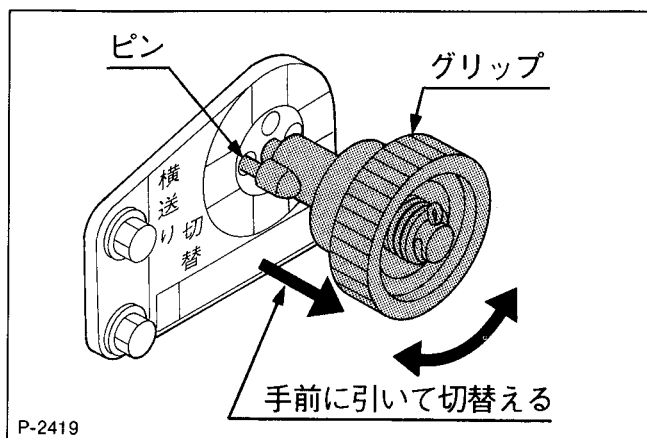
❷主変速レバーを **“N”** (中立)位置に入れ，植付けクラッチレバーを植付け **“入”** に入れて，苗のせ台を **“右端”** に移動させます。

P-2402

❸エンジンを低速にし，苗のせ台が一番右端にきた位置で，植付けクラッチレバーを **“入”** にした状態で主クラッチペダルを踏込み，エンジンを止めます。

❹株間調節レバーを **“中立”** にします。

❺送りねじ端部の合マークがブラケット側の合マークに合う位置まで，植付け回転ケースを手で回します。

P-2423

❻グリップを手前に引いてピンが穴から抜けた状態で，グリップを回して希望の回数に切換えます。このとき，ピンが確実に所定の穴に入ったことを確認してください。

P-2419

CY仕様以外	CY仕様

P-2417

❼切換わらないときは送りねじ端部にスパナをかけて，どちらかに少し動かしてからグリップを回せば切換えることができます。

重　要

＊合マークを合わせるときは，必ずエンジンを停止してください。

＊横送り切換えグリップのピンを中途半端な位置にしたまま植付け爪を回すと，故障することがありますので絶対に中途半端な位置にしないでください。確実にピンが穴に入っている状態にしてください。

＊次の組合せでは使用しないでください。

- 乳苗爪(オプション)以外で横送り回数を“30回”【CPY仕様のみ】
- ポット爪で横送り回数を“20回”“26回”
- 中苗爪で横送り回数を“26回”

苗のせ台が両端にきたとき，爪と苗のせ台が干渉し破損の原因になります。

植付け作業のしかた

注　意

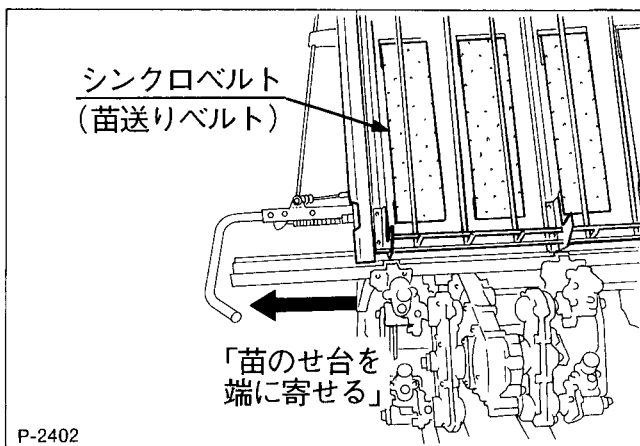
＊夜間作業は絶対にしないでください。

■植付け作業の順序と方法

❶ほ場に入り，主変速レバーを**“中立”**にします。

❷植付け部を上げ，油圧昇降ロックを右に回しロックします。

❸植付けクラッチレバーを**“入”**にして，苗のせ台を右端又は左端に寄せます。

P-2402

❹苗のせ台が端まできて，シンクロベルト(苗送りベルト)が作動する前に，植付けクラッチレバーを**“下降”**にして，植付け爪を停止させます。

❺油圧昇降ロックを左に回してロックを解除し，植付け部をゆっくり降ろし，苗を苗のせ台にていねいに載せます。(しゅう動板に当るまで押下げてください)

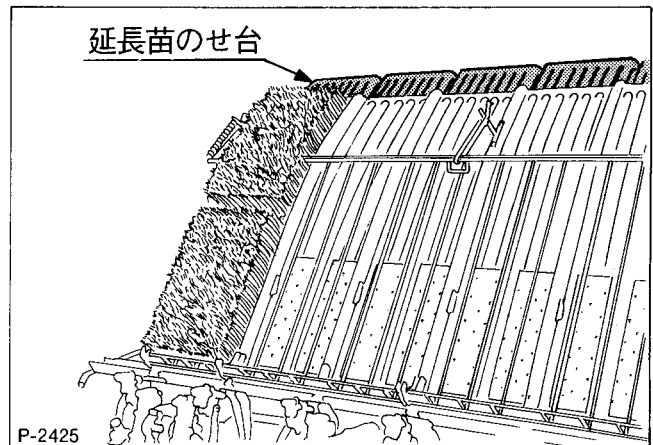
補　足

＊A仕様はチェック弁付バルブなのでエンジンをかけないと植付け部は下降しません。

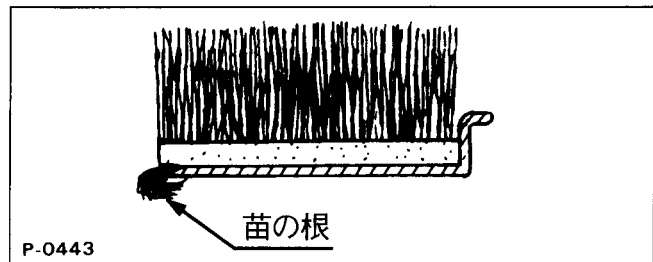
❻苗は,2枚搭載できます。

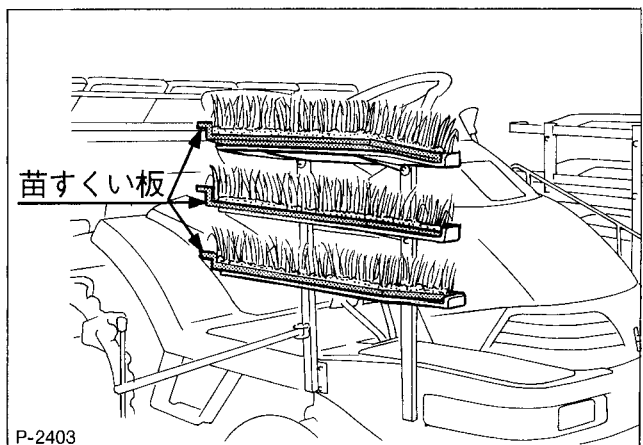
【SPA 5·6】

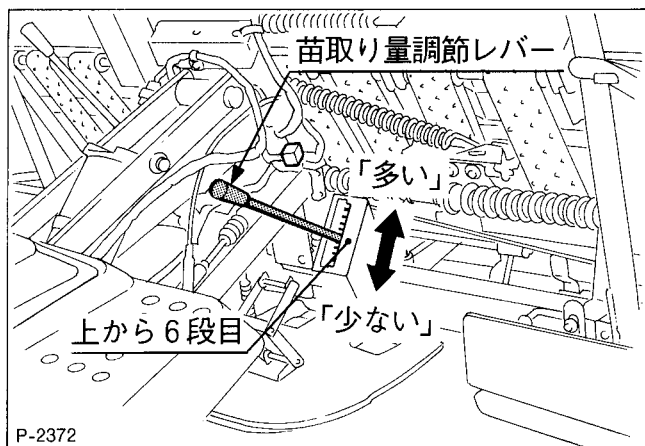
延長苗のせ台を装備していますので，必要なときは引出してご使用ください。

P-2425

補　足

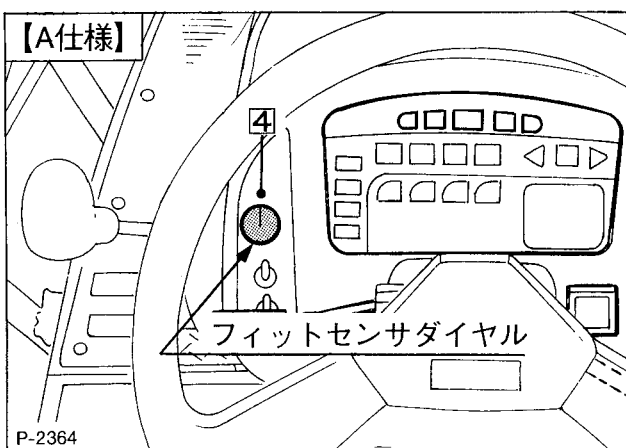
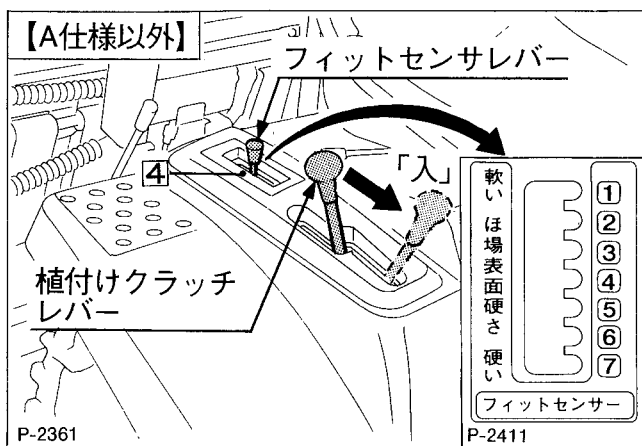
＊苗すくい板の先端に苗の根がからみついて，固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると，欠株の原因になります。

P-0443

❼予備苗のせ台へ苗すくい板に苗をのせたまま苗すくい板のニギリ部が機体の後方に向くようにのせます。

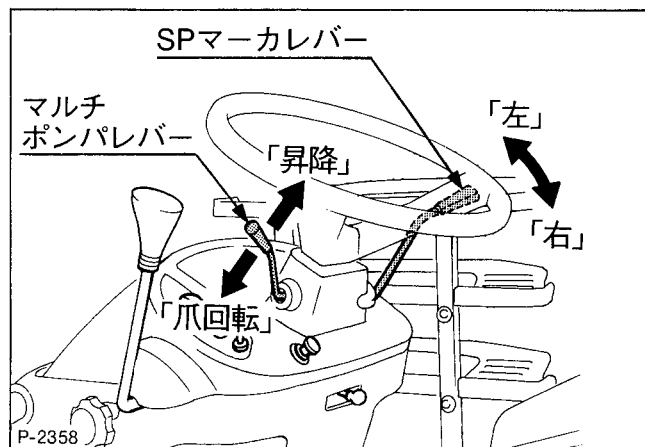
P-2403

❽ラインマーカのロックを解除します。
❾マスコット，隣接マーカをセットします。
❿植付け深さ調節レバーを上から3段目，苗取り量調節レバーを上から６段目(赤印)(成苗ポット苗を使用するときは上から３段目)にとりあえずセットします。

P-2372

⓫フィットセンサをとりあえず[4]の位置にセットします。

P-2361　P-2411

P-2364

⓬主クラッチペダルを踏んで，主変速レバーを**“植付”**にセットします。
⓭ブレーキペダルの**“連結金具”**を外します。

⓮植付けクラッチを**“入”**にして，SPマーカレバーを操作し，次の条に植える側のラインマーカをセットします。

P-2358

⓯クラッチペダルをゆっくり離し，エンジン回転を**“中速”**にして植付けを開始します。

■ポンパ・バックアップの使い方

【SPA 5･6 A仕様】

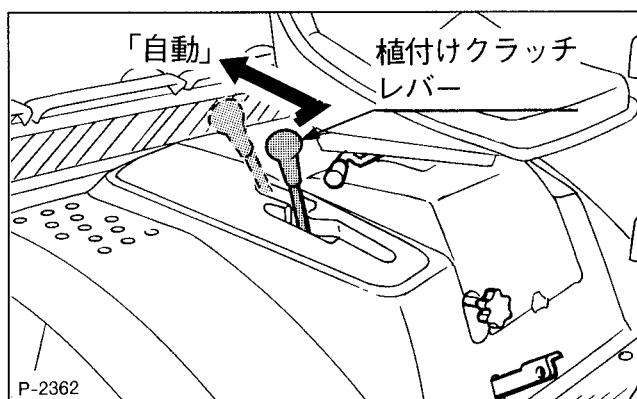
田植え作業の大半は，植付けクラッチレバーを**“自動”**にセットするだけで，ワンタッチでできます。

◆マルチポンパ

❶植付けクラッチレバーを**“自動”**にする。

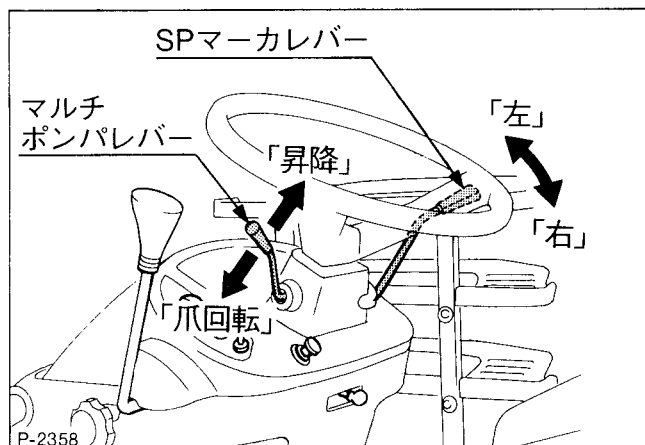
⬇

マルチポンパがセットされます。

P-2362

❷マルチポンパレバーを上方に動かします。

⬇

植付け部が下降又は上昇します。

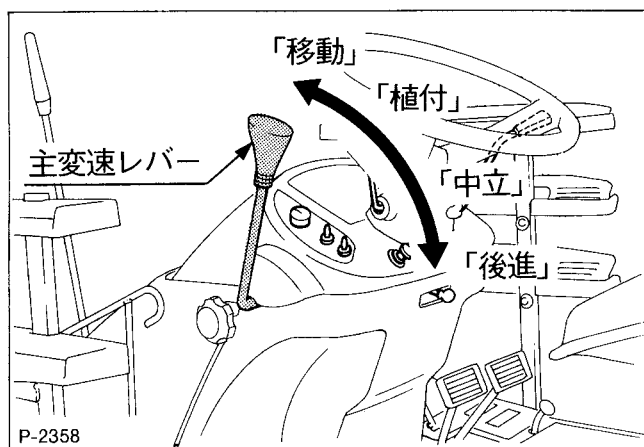
P-2358

❸植付け部を下降させて，SPマーカレバーでマーカを降ろします。

⬇

植付け爪は動く状態になり，パネルの植付けクラッチランプが消えます。
植付け爪の作動は，SPマーカレバーと連動しています。
ラインマーカを出さずに爪を回すときは，マルチポンパレバーを下に下げます。

❹主変速レバーを**“植付”**に入れて植付け作業を始めます。

⬇

機械は前進し植付けを始めます。

❺マルチポンパレバーを再度上方に動かします。

植付け爪は自動的に停止して植付け部が上昇します。

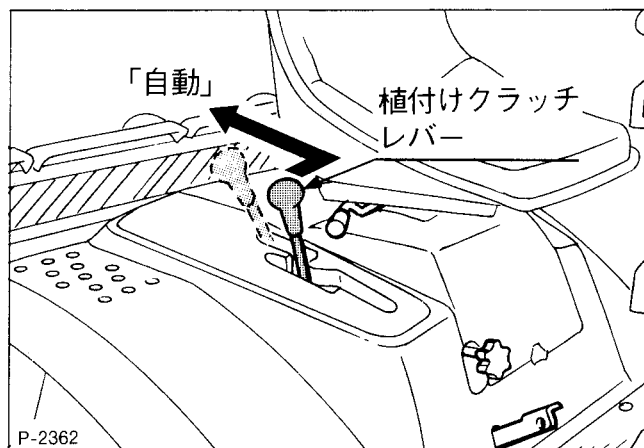
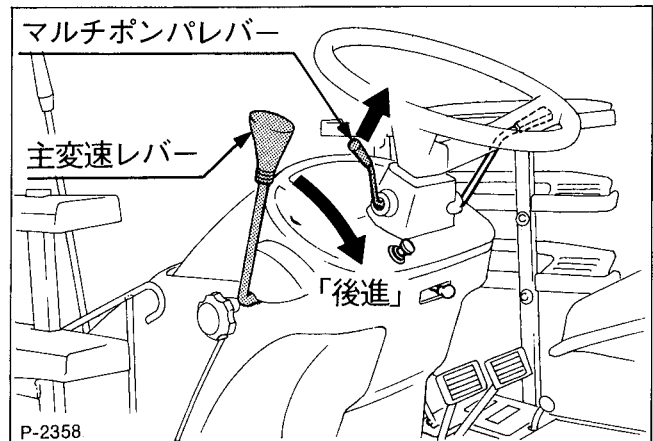
◆バックアップ

❶植付けクラッチレバーを**“自動”**にする。

⬇

バックアップがセットされます。

❷主変速レバーを**“後進”**にいれます。

⬇

植付け部が上昇します。

❸マルチポンパレバーを上方に操作します。

植付け部が下昇します。

■植付け作業中の調節

植付け作業を開始して，各調節が希望する状態になっているかどうかチェックをし，それに適した調節を行ってから，連続植付けを行ってください。

◆植付け深さの調節(15ページ参照)

◆植付け本数の調節(15ページ参照)

植付本数の調節は苗取り量調節レバーで行います。

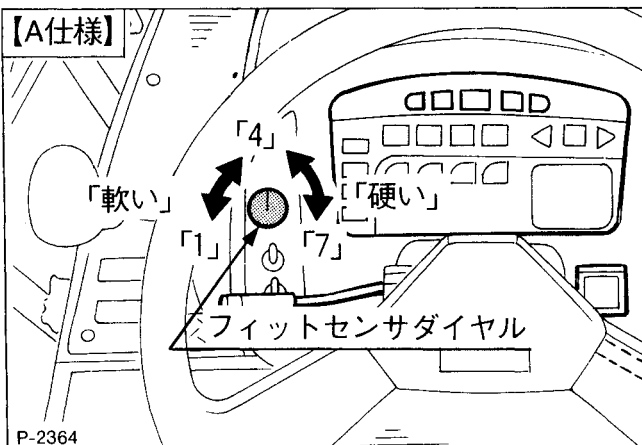
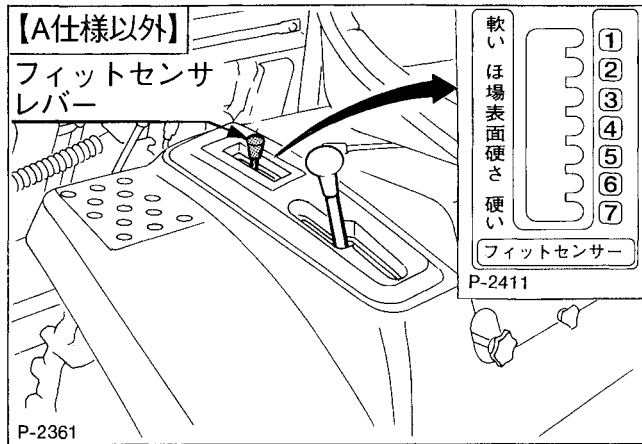
◆苗ステーの調節

苗ステーは苗くずれを防ぐ役目をしていますが，苗床土を押えすぎると，苗が下がらず欠株となりますので，苗床厚さに応じて調節してください。

◆フイットセンサの調節

フイットセンサは，ほ場条件によってその感度を調節する必要があります。まず最初は④の位置でセットして，フロートの整地具合を見て調節します。

P-2361

P-2364

(1)軟いほ場：フロートで泥を押す場合。
フィットセンサレバー又はダイヤルを，軟い方向へ移動させ，泥を押さなくなるまで調節します。**(レバー位置1～3)**

(2)硬いほ場：フロートで田面の凹凸を十分ならさない場合。
フィットセンサレバー又はダイヤルを，硬い方向へ移動させて調節します。**(レバー位置5～7)**

(3)フィットセンサレバー又はダイヤルの調節を行った場合は，植付け深さが変わることがありますので，確認して植付け深さの調節も合わせて行ってください。
"軟い" → **"硬い"** に変更すると植付け深さが深くなることがある。
"硬い" → **"軟い"** に変更すると植付け深さが浅くなることがある。

◆フィットセンサ切換えつまみ

【SPA 5·6 A仕様】

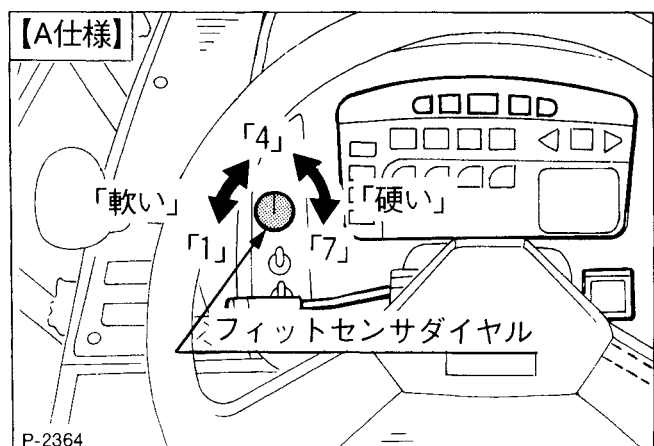
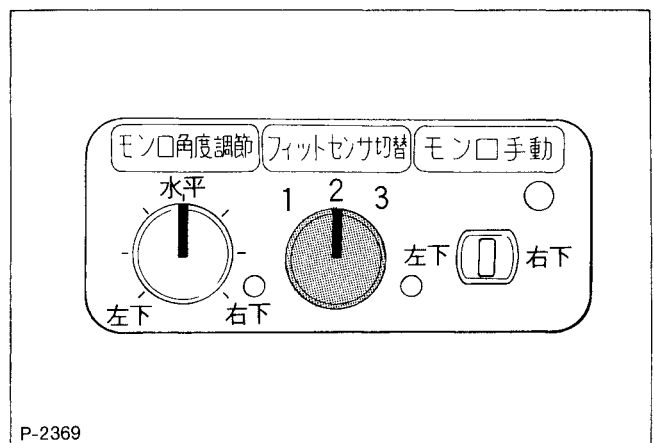
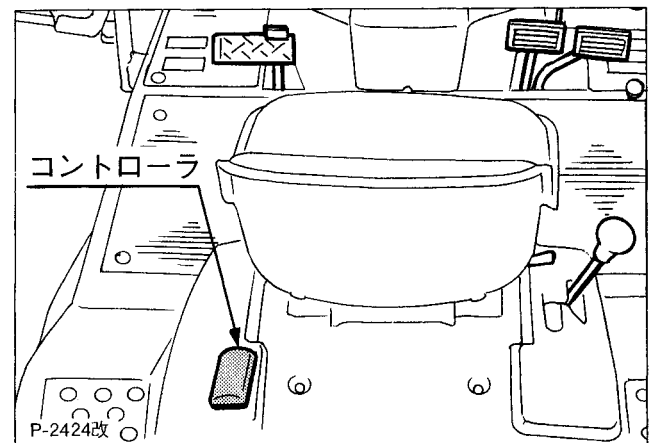
フィットセンサ切換えつまみ(コントローラに配置)は **"2"** の位置にセットします。

(1)フィットセンサを1(ほ場表面硬さ：軟い)にセットしても泥押しするときは，フィットセンサ切換えつまみを **"1"** にセットしなおして，さらにフィットセンサダイヤルで調節してください。

(2)フィットセンサを7(ほ場表面硬さ：硬い)にセットしても整地が不十分なときは，フィットセンサ切換えつまみを **"3"** にセットしなおし，さらにフィットセンサダイヤルで調節してください。

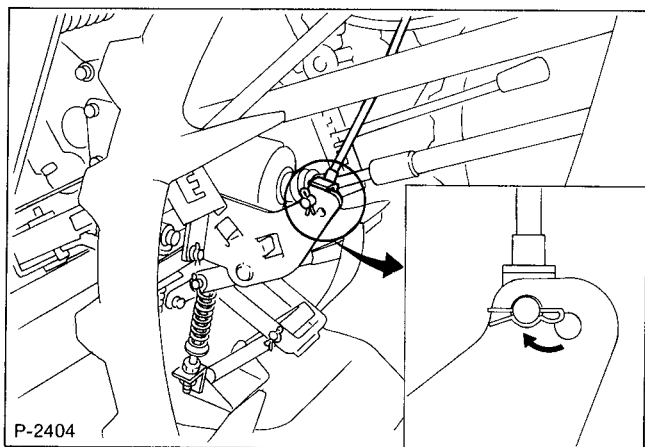
P-2424改

P-2369

P-2364

◆センサ金具の穴位置の調節【A仕様以外】

表面の軟いほ場で，フィットセンサのレバーを1にしてもフロートの沈下が大きい場合，１つ上の穴にセンサワイヤを移してください。

P-2404

補　足

＊センサワイヤを上の穴に移すと，感知が敏感になり，浮き苗が出たり植付け深さが浅くなったりする恐れがありますので，できるだけフィットセンサのレバーをこまめに調節して対応してください。

◆副変速の使い方

各部の調節が終わったら，ほ場条件に合わせて副変速を使用し，適当な植付け作業速度で連続植付けを行ってください。

- SPA 4
  高・低速レバー(高←→低)とSPシフトレバーで(高速2←→低速1)の変速で，４段階の速度が得られます。
- SPA 5･6(S仕様以外)
  SPスーパーシフトレバーで４段階の速度が得られます。
- SPA 5･6(S仕様)
  FCシフトレバーで無段で速度が得られます。

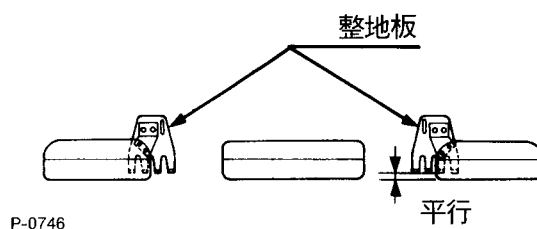
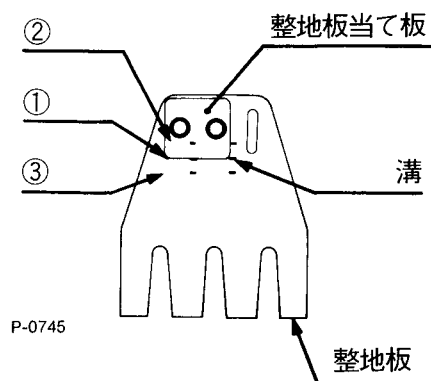
■整地板の調節【SPA 4】

整地板は下記の要領で調節してください。

- 整地板の高さ調節

①	標準位置	中央部にセット
②	車輪跡が残る (表土が硬いとき)	整地板を下げる。
③	泥を押す (表土が軟弱なとき)	整地板を上げる。

P-0745

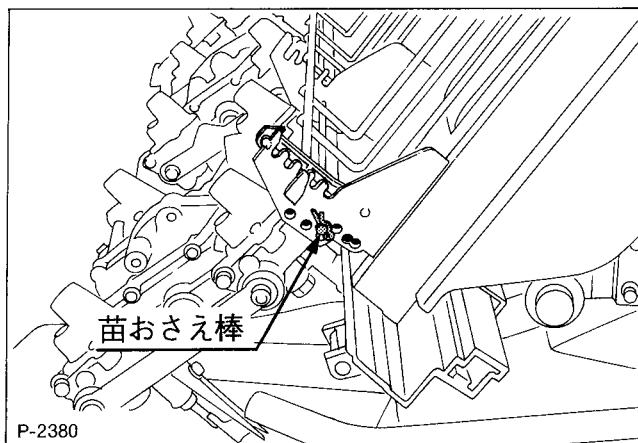
P-0746

補　足

＊整地板の高さを調節したときには，整地板当て板の下面と溝とを平行にしてください。

左右の取付けを間違えないように図のように取付けてください。

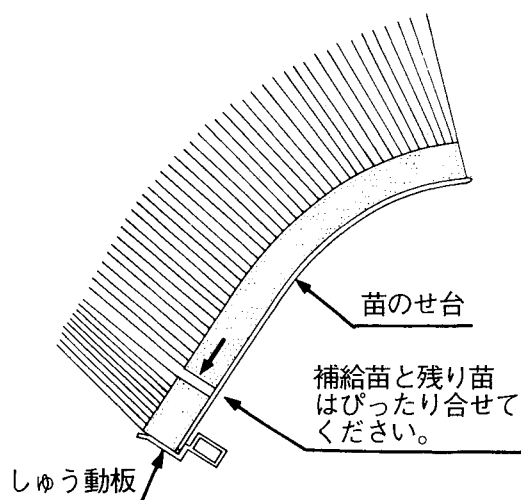
◆苗おさえ棒の調節

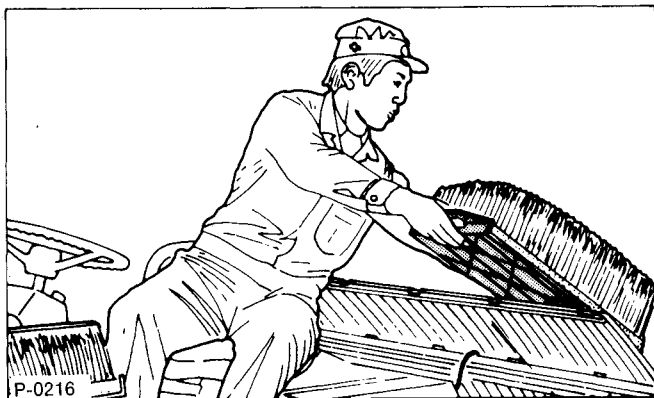
短い苗や植付け姿勢が乱れるときは，苗おさえ棒の位置を調節してください。(17ページ参照)

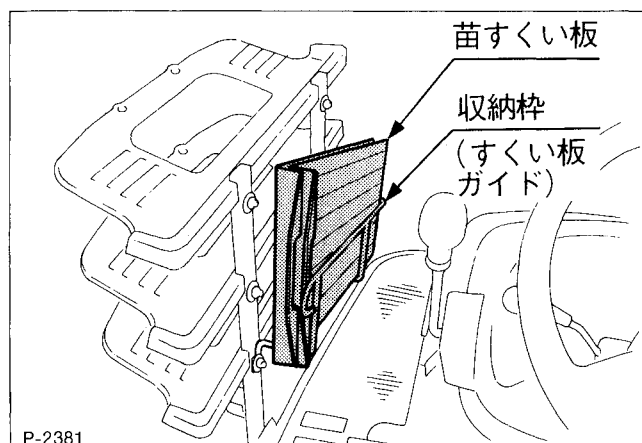
P-2380

■苗の補給

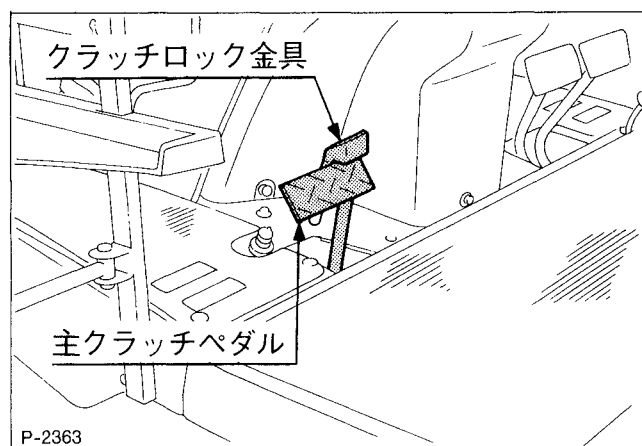
❶苗の残りが少なくなると，苗モニタ [苗モニタ表示] が点滅し，ブザーで知らせますので苗を補給してください。

❷補給するときは，主クラッチペダルを踏込んでクラッチをロックし，主変速レバーを **"中立"** にしてから補給してください。

❸補給苗はていねいに扱つて，残り苗との境目がぴったりと合うようにしてください。
必要に応じて延長苗のせ台を引出して使用してください。【SPA 5·6】

P-0171

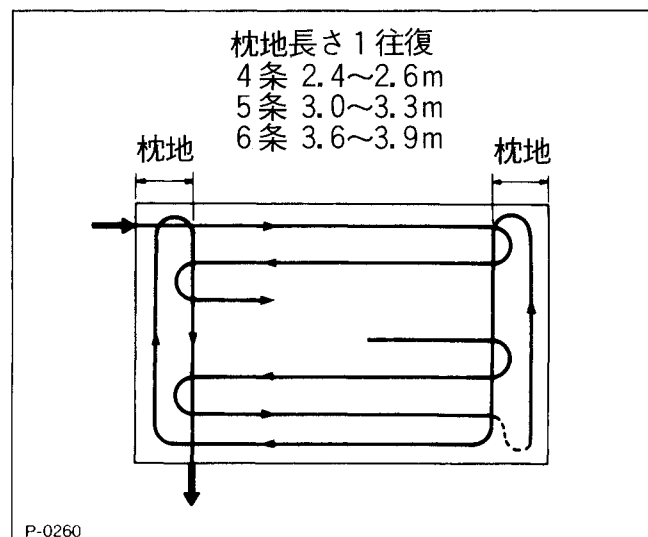
❹補給時座席を回転させると楽な姿勢で補給できます。(18ページ参照)

P-0216

❺補給が終わったら，苗すくい板は予備苗のせ台内側の所定の位置に立ててください。

P-2381

❻補給が終り再び植付けを開始するときは，主変速レバーを **"植付"** にしてクラッチロック金具を踏み，徐々に発進してください。

P-2363

■枕地のとりかた

❶枕地はあらかじめ1往復分残して植付けます。

❷植え初めは，ほ場の長辺方向のあぜにまっすぐな側から植付けます。

P-0260

■旋回のしかたとマーカの使いかた

❶【A仕様】

枕地に近づいたら，マルチポンパレバーで植付け部を上昇させます。

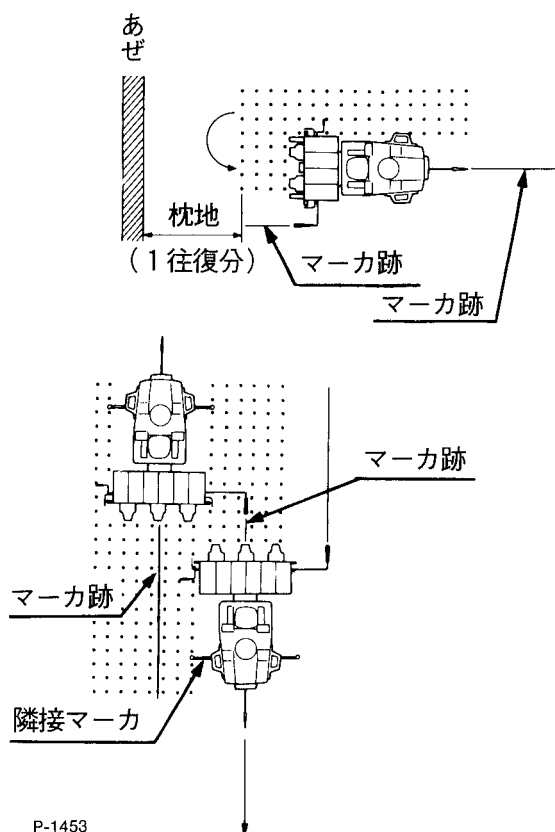
(マルチポンパレバーで自動的に植付け爪の回転が停止して，最低速まで減速します)

【A仕様以外】

枕地に近づいたら，シフトレバー(SPシフトレバー，SPスーパーシフトレバーなど)でスピードを落とし，植付けクラッチレバーを **“上昇”** にします。(FCシフトレバーの場合は植付けクラッチを切ると自動的に減速します)

(特に深いほ場ではアクセルレバーで減速せず，シフトレバーで減速してください)

❷旋回する側のブレーキペダルを踏んだ後に，ハンドルを回して旋回します。

❸マスコット・隣接マーカで隣接条間が合うようハンドルを合わせ機体をまっすぐにします。(マーカ跡に合わせる)

P-1453

❹【A仕様】

マルチポンパレバーで植付け部を下降させ，植付け部が接地したのを確認してから，SPマーカレバーを操作して，ラインマーカをセットします。

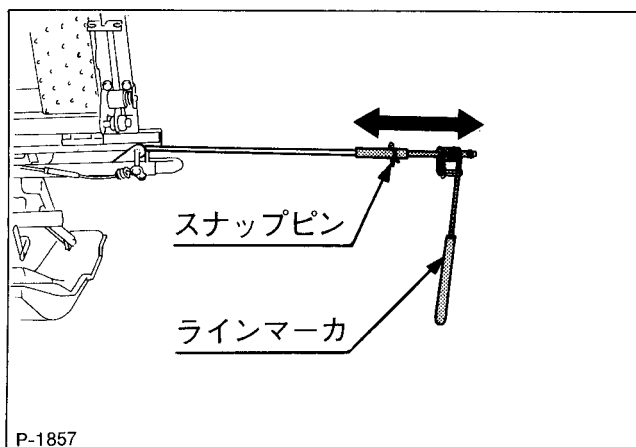
(SPマーカレバーで自動的に植付け爪が回転し，FCシフトレバー位置まで増速します)

【A仕様以外】

植付けクラッチレバーを **“下降”** にして植付け部をおろし，植付け部が接地したのを確認してから，植付けクラッチレバーを **“入”** にした後ラインマーカをセットします。

❺適当な作業速度までスピードを上げて植付けます。

補 足

＊ラインマーカは隣接幅が調節できるようになっています。フロートの泥で苗が倒れる場合や，補助車輪を使用する場合は，隣接幅を広げて使用すると安心して植付けできます。

P-1857

＊水が深すぎると直進のための線が見えにくくなりますので，1～2cmのヒタヒタ水程度にしてください。

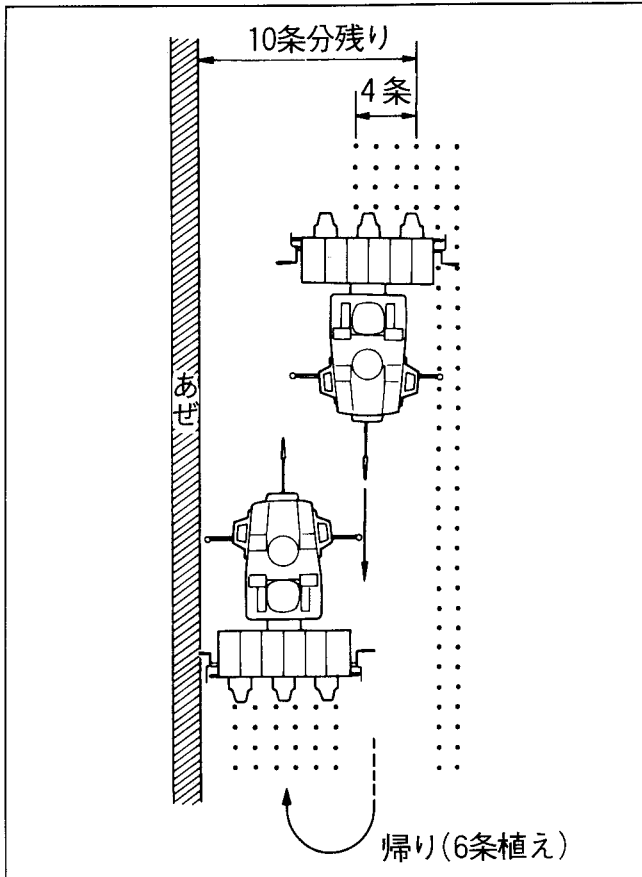
＊線が見えにくいときは，植え終った隣の苗に，隣接マーカを合わせて進みます。

＊あぜぎわ植付けのときは，ラインマーカをロックして植付けてください。(ラインマーカ保護)

＊マルチポンパレバーは植付けクラッチレバー“自動”位置でのみ使用できます。

＊自動減速機能は，自動減速スイッチ“ON”の状態でのみ使用できます。

■あぜぎわの植付け

あぜぎわでの植付けは，最終の植付け条数を使用機械の条数に合わせる必要があります。そのときは，あぜぎわクラッチ，及び苗ストッパを使って下図のような植付け方法を取ってください。(例６条植の場合)

＊あぜぎわクラッチの使い方(16ページ参照)
苗ストッパの使い方(16ページ参照)

■安全クラッチについて

(1)植付け作業中，植付け部が停止しガッガッと高い音がしたときは，安全クラッチが働いています。

＊安全クラッチが働いたなら，すみやかに主クラッチペダルを踏込み，エンジンを止めて障害物を取除いてください。(植付けクラッチは切らないでください)

(2)安全クラッチが作動して，ガッガッと音がする状態で作業を続けると，爪が破損したり安全クラッチが摩耗して作動しやすくなり，植付けミスが起こりやすくなります。

(3)障害物を取除いたあと，植付け爪が軽く回動するか，しゅう動板に当たらないか，爪が曲がったり破損していないかを確認し，植付けを再開してください。
爪が曲がったり，破損したときは交換してください。

■苗取り量調節について【CPY仕様以外】

苗の減り方が極端に違うときは，爪の高さが揃っていませんので，次の要領で各爪の高さを合わせてください。

※成苗ポット(CPY仕様)を植付けるときは64ページを参照してください。

重　要

＊苗取り量調節時は，エンジンを必ず止めてください。

❶【A仕様】

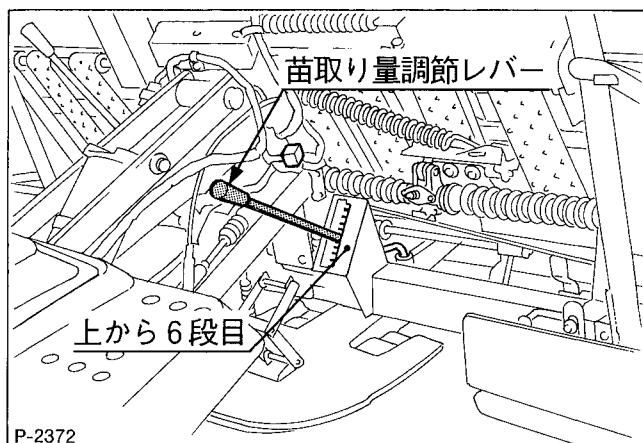
主クラッチペダルを **"切"** にし，メインスイッチを **"入"** にし，植付けクラッチレバーを **"中立"** から **"入"** にします。株間調節レバーを **"中立"** にします。(39ページ参照)(A仕様の場合はエンジン停止後に植付けクラッチレバーを **"入"** にしても，PTOモータはキーOFFのため作動しません。)

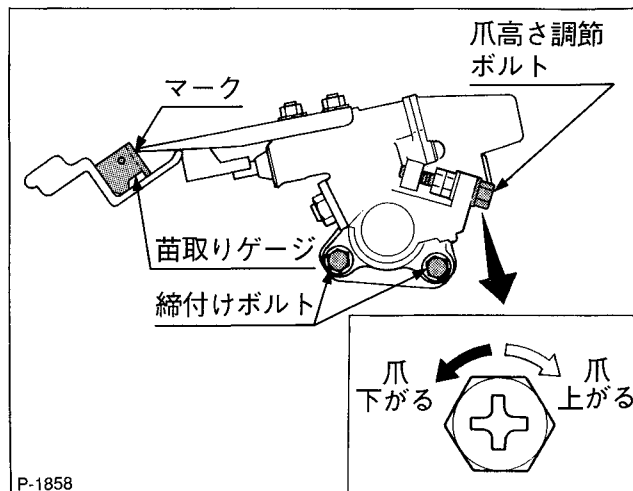
補　足

＊A仕様はチェック弁付バブルなのでエンジンをかけないと，植付け部は下降しません。

【A仕様以外】

主クラッチペダルを **"切"** にし，エンジンを停止します。(植付けクラッチレバーは **"入"** にしたまま)株間調節レバーを **"中立"** にします。(39ページ参照)

❷苗取り量調節レバーをいったん **"多い"** 方向に動かした後，上から６段目の位置にします。

❸しゅう動板の切欠き部に苗取りゲージを合わせ，爪をゲージに当るまで植付け回転ケースを手で回してください。

❹植付けアームの２本の締付けボルトを緩め，爪高さ調節ボルトを回して，爪の高さを苗取りゲージのマーク(上から２段目の溝)に合わせてください。調節時は爪の上方にガタを取りながら，ゲージに軽く当てて行ってください。

❺調節が終わったら，２本の締付けボルトを十分締付けてください。さらに，爪高さ調節ボルトを軽く締付けてください。

❻回転ケースを回し，もう１つの植付け爪も同様に調節してください。

❼株間調節レバーを元に戻してください。

メンテナンス

定期点検と処置

定期点検表に従って必ず定期点検を実施してください。

警 告

＊給排油・点検整備時は必ずエンジンを停止してください。
＊作業中は火気厳禁です。
＊機械は平たんな場所におき，植付け部の油圧ロックをし安全を確認してから行ってください。
＊植付け部を上げて点検・調整するときは，油圧昇降を必ずロックしてください。
＊取外したカバーは必ず元の通りに取付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。

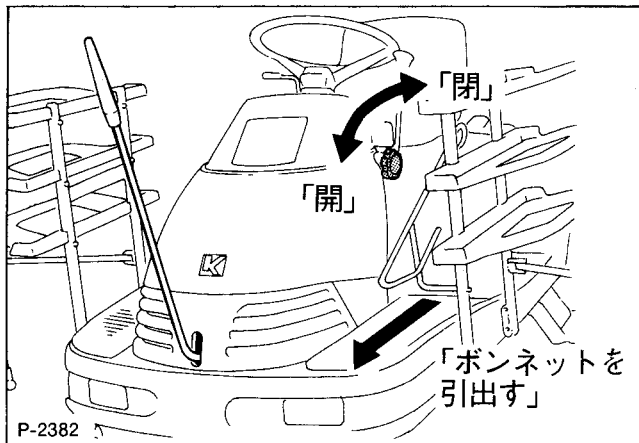
■点検・注油・調整一覧表

○：点検補給　△：交換

	項目	毎作業前	10時間	50時間	100時間	備考	参照ページ
エンジン部	燃料	○				レギュラーガソリン(無鉛ガソリン)	20,21
	エンジンオイルの点検	○	△	△	△	クボタ純オイルG10W30	55
	パイプ・ホース類の点検					2年毎交換	56
	エアークリーナエレメントの清掃			○	○		55
	スパークプラグの掃除					毎シーズン始め	52
走行部	ミッションオイルの点検	○		△	△	クボタ純オイルM80B	55,56
	後車軸ミッションオイルの点検【SPA 5・6】	○		△	△	又はNEW・UDTオイル	
	ステアリングギヤーケースのグリース補給	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース	販売店
	オイルフィルタの掃除					毎シーズン始め	55
	オイルフィルタカートリッジの交換【SPA 5・6-A仕様】			△	△		55
	前部車軸ケース左右のグリース補給	分解時にグリース補給				クボタスペアグリース	販売店
	後車軸ケース左右のグリース補給【SPA 4】	分解時にグリース補給				(リチューム系)	
	ミッション駆動ベルトの点検調整					亀裂又は帆布がはがれたら交換	84
	ブレーキの調整					毎シーズン始め	54
	クラッチの調整					毎シーズン始め	53
	バッテリの点検					毎シーズン始めには必ず点検	53
	油圧ポンプの連結部	分解時にグリース補給				モリサームグリース	販売店
	主変速割りプーリカム部のグリース補給			○	○	耐熱グリース	22
植付け部	フィードケースのグリース補給	分解時にグリース補給				クボタスペアグリー	販売店
	植付けケースのグリース補給	分解時にグリース補給				ス(リチューム系)	
	植付けアームのM80Bオイル，又はグリース補給					毎シーズン始め クボタ純オイルM80B 又は日石G574グリース	21
	植付け爪の交換調整	爪の曲り，破損時交換調整					57
	横送りネジ部のグリース補給	分解時及び50時間毎				クボタスペアグリース	22
その他	各ワイヤの点検調整					毎シーズン始め	—
	電気配線の損傷及び接続部のゆるみ					シーズン終了後	57

■ボンネットの開閉のしかた

ボンネットはワンタッチで着脱でき，エンジンの点検などに非常に便利です。
ボンネットの左右のノブを反時計回りの方向に回してゆるめ，ボンネットを**“前方へ引く”**とボンネットが外れます。
ノブを完全に外す必要はありません。

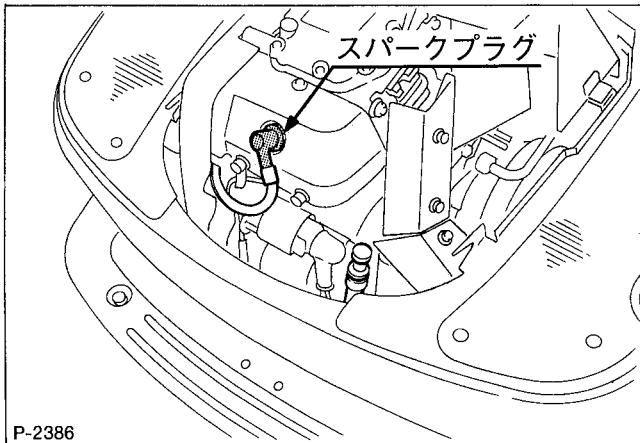
P-2382

重 要

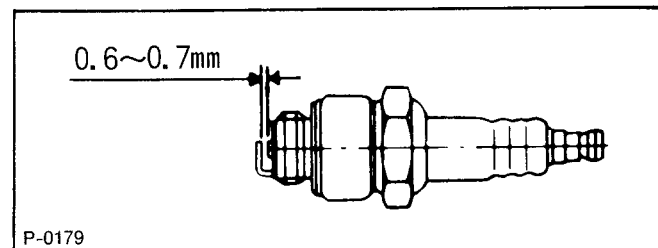
＊ボンネットの開閉は，必ずエンジンを停止して行ってください。もし怠ると，ベルトを破損する恐れがあります。
＊ボンネットを取付けたときは，必ず強く締めてください。締付けが不十分な場合は輸送中の脱落の危険があります。

作業シーズン前後のメンテナンス

■スパークプラグの清掃

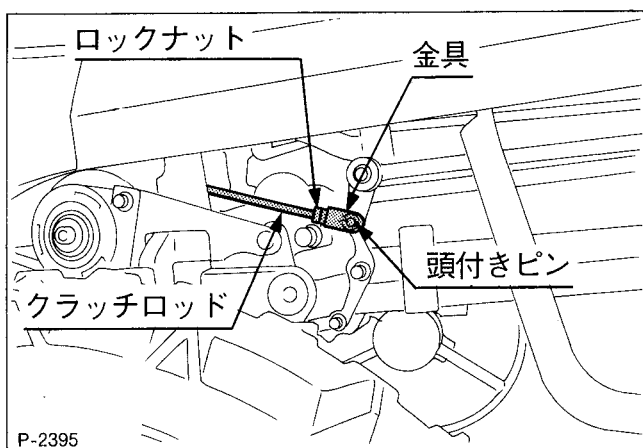
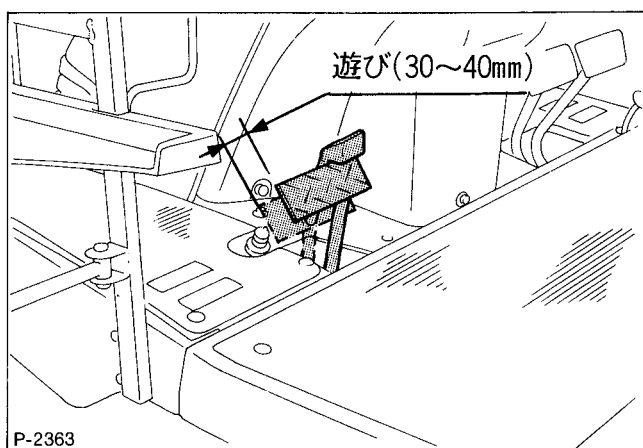
❶ボンネットを開けてスパークプラグキャップを外し，付属のボックススパナでスパークプラグを取外します。

P-2386

❷スパークプラグについているカーボンを取除き，電極のすき間が0.6～0.7mmになるように点検・調整してください。

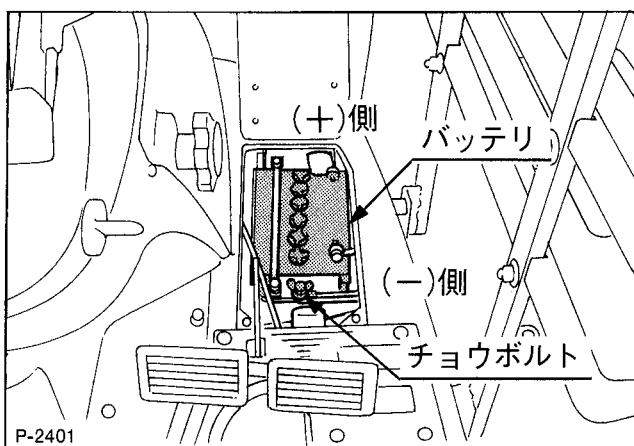
P-0179

機　種	品　番	備　考
SPA 4	13901-6771-2	BP6HS(NGK) W20FP-U(ND)
SPA 5 SPA 6	E6101-6771-1	BP6ES(NGK)

■クラッチペダルの調整【SPA 5･6】

クラッチロッドのロックナットを緩めて頭付きピンを外し，金具を回してペダルの遊びを調整します。調整後は，ロックナットを確実に締付けてください。
また，クラッチペダルの戻りが悪くなった場合(深田などでクラッチ部に泥水がかかつたときなど)は，分解洗浄の必要がありますので，最寄りの販売店へご相談ください。

■バッテリの点検保守

＊必ずエンジンを止めて行なってください。
＊バッテリ液が身体や服に付かないようにしてください。(ヤケドや服に穴があきます) 付着したらすぐに水で洗い流してください。

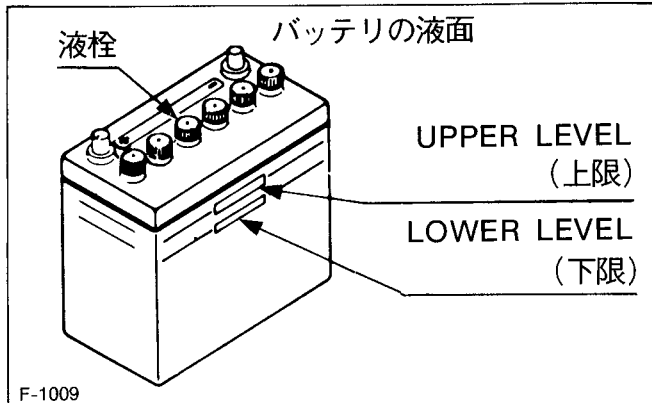
◆バッテリの取出し

工具を使わず簡単に行うことができます。

⊖端子のコードを外してから，⊕端子とチョウボルトを外して，後方にずらしながら上に持上げます。

◆バッテリの点検

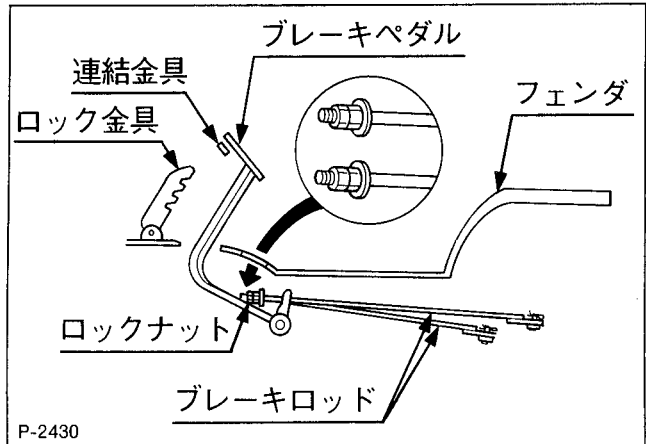
バッテリの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ってきます。
液面が **"UPPER LEVEL"** と **"LOWER LEVEL"** の間にあればよく，少ないときは，**"UPPER LEVEL"** まで蒸溜水の補給が必要です。

F-1009

重 要

＊バッテリに液が不足するとバッテリを傷め，多いと液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊急速充電は，できるだけ避けてください。バッテリ寿命を短くします。
＊バッテリにコードを接続するときは，⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違うとヒュージブルリンクが故障します。
＊バッテリからコードを外すときは⊖側，取付けるときは⊕側から行なってください。逆にすると，工具が当った場合にショートします。
＊充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行ってください。
＊バッテリの充電は必ず本体から取外して上部6個の液栓を外して行ってください。
＊バッテリの寿命がなくなり新品と交換する場合"26A19L"のものを使用してください。
＊バッテリを外し再度，取付けるときはバッテリの⊕⊖コードを元どおり配線し，⊕側のゴムブーツは必ず取りつけ，まわりに接触しないよう締付けてください。

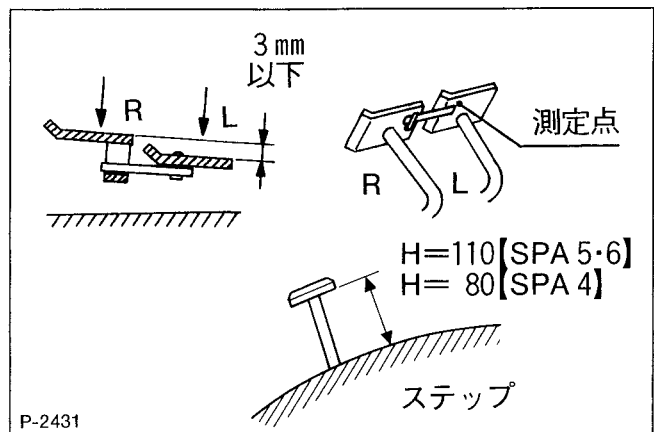
■ブレーキペダルの調整

ペダルを25kgで踏んで，ペダルの連結金具がロック金具の1段目又は2段目にかかるように，ブレーキロッドのロックナットを緩めて調整してください。調整後は，ロックナットを確実に締付けてください。

P-2430

 注 意

＊左右のブレーキペダルの遊び量が3mm以上異なるとブレーキの片ぎきとなり危険です。常に左右の遊び量が同じになるようにしてください。

ブレーキペダルのセット高さ

P-2431

毎日作業前の整備

次の項目は **"運転前の点検"** を参照してください。

◆燃料
◆エンジンオイル
◆ミッションオイル
◆各ワイヤ，レバー支点及びしゅう動部
◆エアークリーナエレメントの清掃
◆ブレーキペダルの調整
◆クラッチペダルの調整
◆パネル

10時間目の整備

■エンジンオイルの点検

50時間ごとの項を参照してください。

50時間ごとの整備

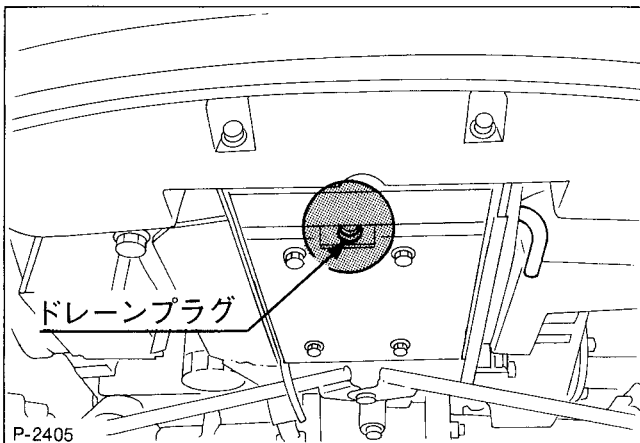
■エンジンオイルの交換

 注 意

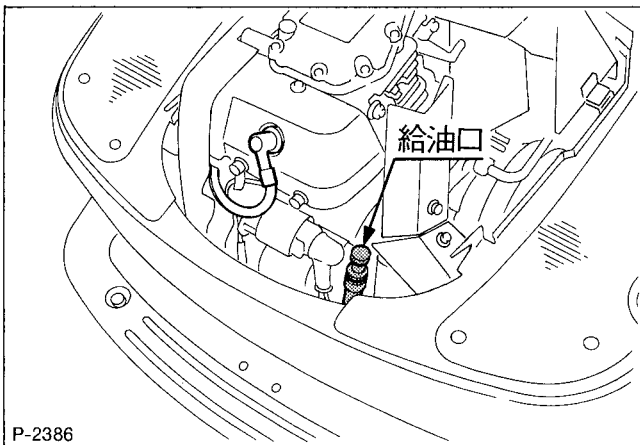
＊排出時はオイルが暖まっているので注意してください。

◆排油

暖機運転をしてから給油栓を外し，そのあとドレーンプラグを外してオイルを排出します。

P-2405

◆給油

ドレーンプラグを締付けて，給油口から適量給油し，給油栓をきちんと締付けてください。
(20,21ページ参照)

P-2386

重 要

＊伝導ベルトにオイルがかからないように注意してください。

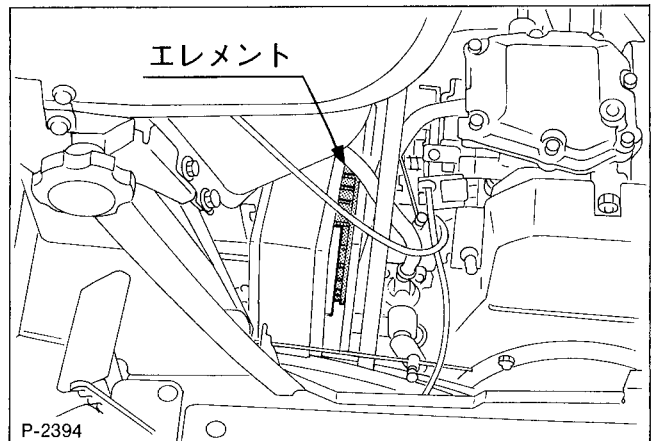
■エアークリーナエレメントの洗浄

【SPA 4】

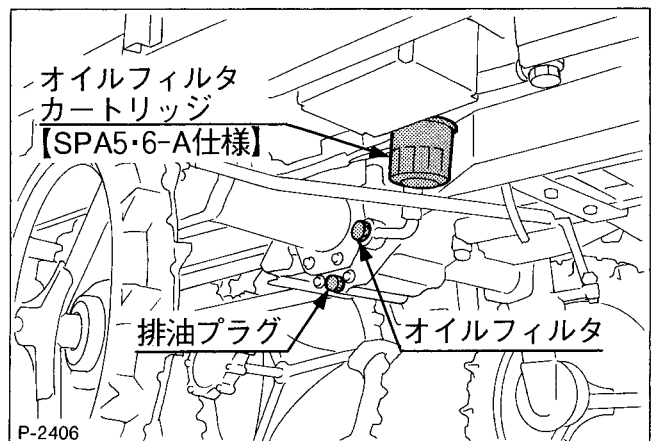
ボンネットを開けて，エアークリーナカバーを外して中のスポンジを取出し，灯油か軽油で洗った後，エンジンオイルに浸して固く絞ってから，取付けてください。

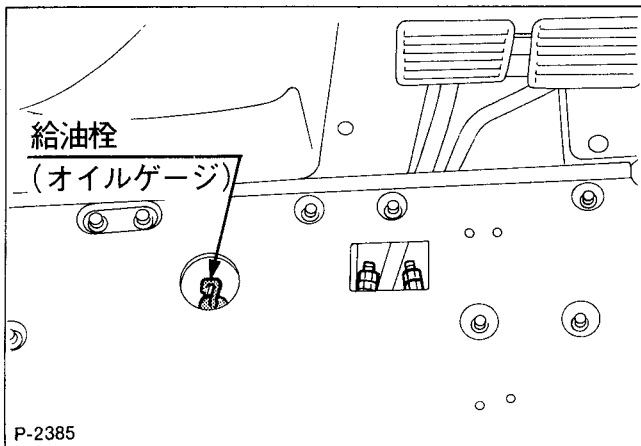
【SPA 5･6】

(1)エレメントが汚れたら，エアーブローして清掃してください。
(2)外側スポンジは，エンジンオイルに浸して固く絞ってから，取付けてください。

P-2394

■ミッションオイルの交換・オイルフィルタの清掃及びオイルフィルタカートリッジの交換 【SPA5・6-A仕様】

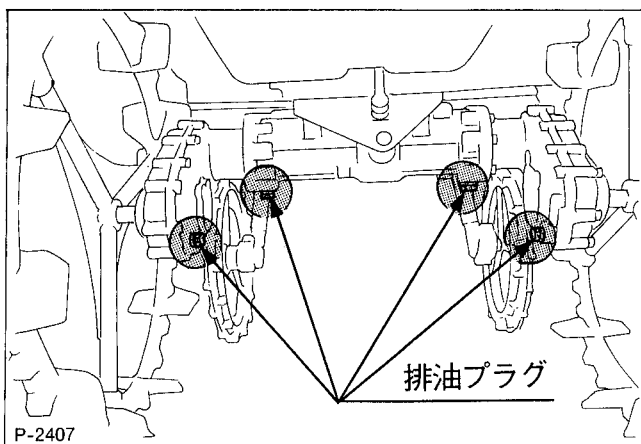
❶排油プラグを外してミッションオイルを排出します。
❷オイルフィルタを外して灯油で洗浄します。また【SPA5･6 -A仕様】は，オイルフィルタカートリッジを交換するときはフィルタレンチで外します。新しいカートリッジを組付けるときは，パッキンにオイルを薄く塗布してからフィルタレンチを使用せず手で確実に締め付けます。

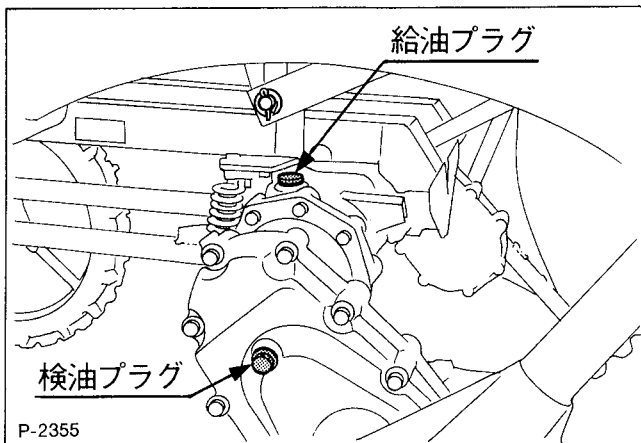
P-2406

❸排油プラグを締付けて，ステップゴムをはがして給油栓を抜き，ミッションオイルを規定量入れてください。
(20,21ページ参照)

P-2385

■後車軸ミッションオイルの交換

【SPA 5･6】

❶排油プラグを外してミッションオイルを排出します。

P-2407

❷排油プラグを締付けて，給油プラグを外し，ミッションオイルを規定量入れてください。

P-2355

■主変速割りプーリカム部のグリース補給

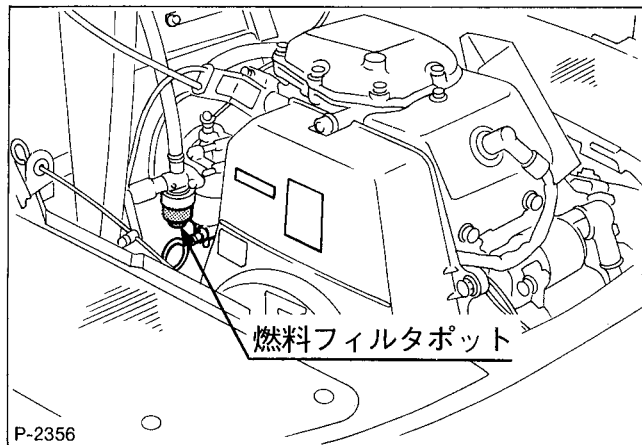
【SPA5・6】

"運転前の点検" を参照してください

100時間ごとの整備

■燃料フィルタポットの清掃

燃料コックレバーを **"閉"** にし，燃料フィルタポットを外して，ガソリンできれいに洗浄してください。

P-2356

2年ごとの整備

■燃料パイプの点検・交換

＊燃料パイプが破損していると燃料もれを起し，火災の原因となりますので，必ず点検しましょう。傷があれば交換してください。

燃料パイプなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に，２年ごと又は傷んだときに新品と交換してください。
パイプ類や締付けバンドが緩んだり，傷んでいないか，常に注意してください。

都度の整備

■分解時にグリース補給

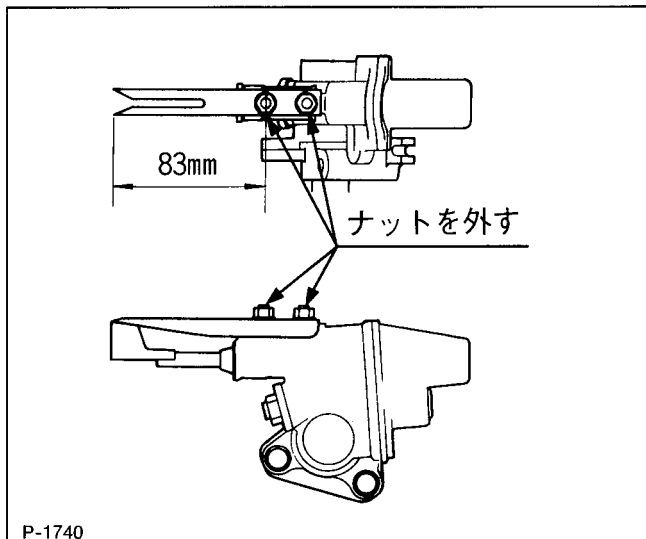
次の項目はクボタスペアグリース（リチューム系）を分解時，販売店に依頼して補給してください。

- ◆ステアリングギヤーケース
- ◆前部車軸ケース左右
- ◆後車軸ケース左右
- ◆フィードケース
- ◆植付けケース
- ◆油圧ポンプの連結部

■植付け爪の交換・調整

植付け爪が摩耗すると，植付け状態が悪くなるので，新しい爪と交換してください。

❶ナットを外し，爪を外す。

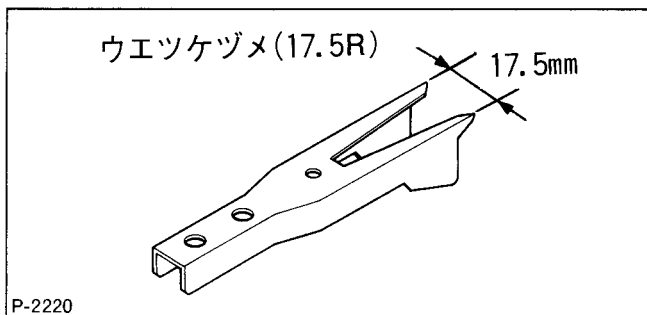
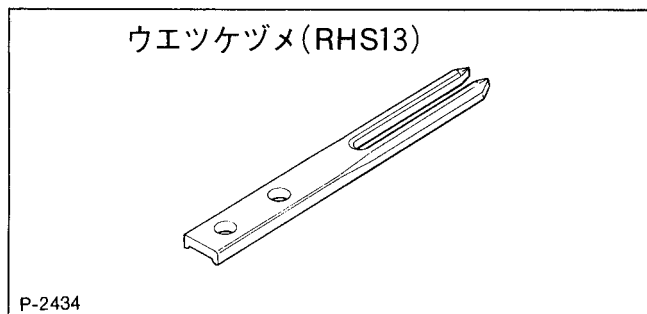
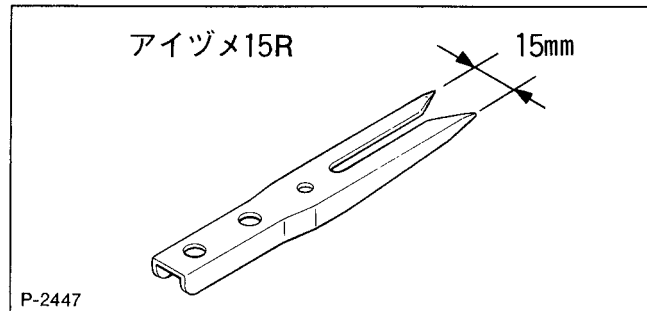
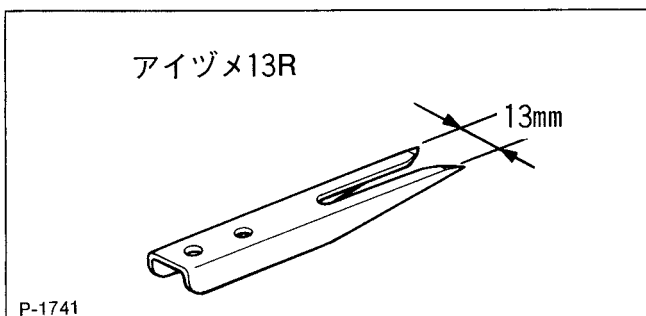
❷新しい爪を取付ける。

◆爪の摩耗による交換の目安

爪長さが80mmになったら新しい爪と交換してください。

※植付け爪は消耗品ですから，常に1台分予備を準備しておいてください。

品　名	品　番	適用形式	数量1台当り		
			4条	5条	6条
アイヅメ13R	45403-5171-2	一般仕様	8	10	12
ウエツケヅメ(RHS13)	PA401-5371-1	一般仕様	8	10	12
アイヅメ15R	45615-5171-1	CYP仕様	—	—	12
ウエツケヅメ(17.5R)	45671-5171-1	CYP仕様	—	—	12

補　足

＊CYP仕様で中苗を植える場合，アイヅメ15Rを使用してください。

■電気配線の点検

⚠ 注 意

配線のターミナル（端子部）のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能を損うだけでなく，ショート・漏電・火災などの事故になることがありますので，早めに交換修理してください。

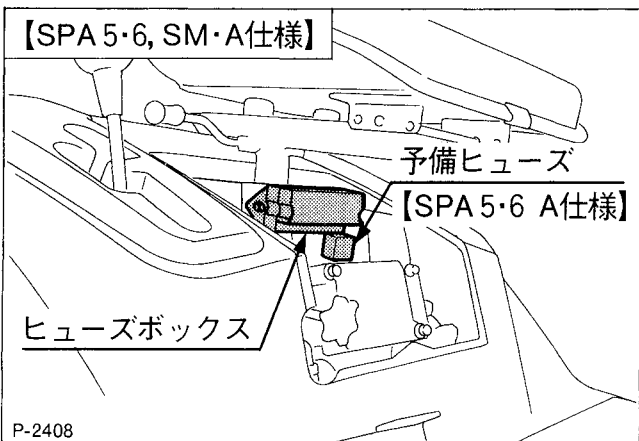
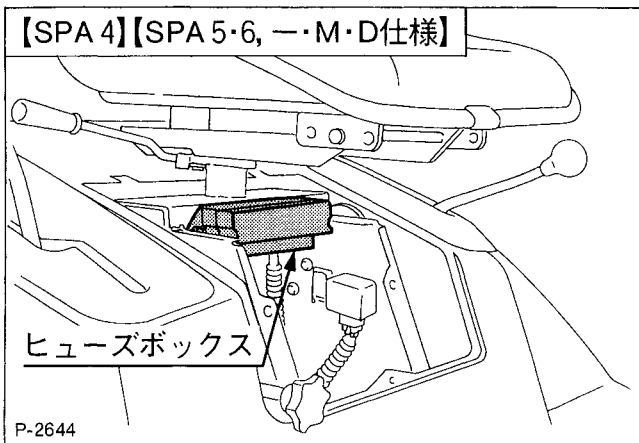
■ヒューズ・ランプの点検・交換

 注 意

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，販売店かＪＡ農協で点検修理してください。

◆ヒューズの交換

❶座席下のカバーを外す。
❷ヒューズボックスのふたは両手でつかみ手前に引きながら外す。
❸ヒューズを外す。
❹切れた同容量のスペアヒューズと交換する。

【SPA 4】【SPA 5･6, ー･M･D仕様】

【SPA 5･6, SM･A仕様】

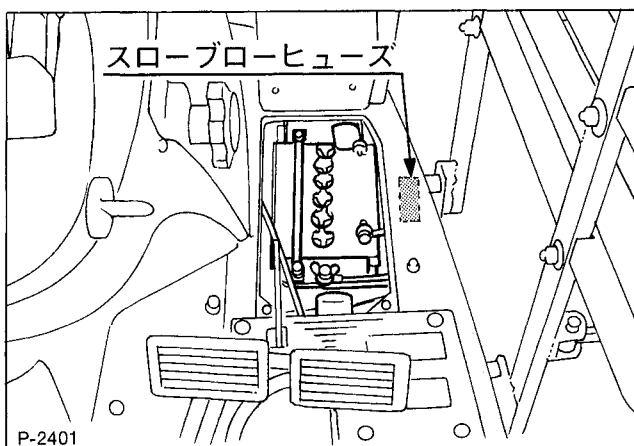
ヒューズ容量	受けもっている回路	ヒューズ容量	受けもっている回路
20A【SPA5･6 A仕様】	植付けクラッチモータ	1Ａ	マイコンユニット
2Ａ【SPA5･6 A仕様】	電磁弁（ソレノイド）	1Ａ	施肥ユニット
15A【SPA5･6, SM･A仕様】	電動シリンダ	5Ａ	パネル
1Ａ【SPA5･6, SM･A仕様】	マイコンユニット	5Ａ	前照灯
20A	モンロモータ	10A	レギュレータ

●予備ヒューズは，下記が入っております。

仕様	予備ヒューズ
SPA4 SPA5･6, ー･M･D仕様	20A, 10A, 5A, 1A
SPA5･6 SM仕様	20A, 15A, 10A, 5A, 1A
SPA5･6 A仕様	20A, 15A, 10A, 5A, 2A, 1A

品　番	品　名
69251-5382-1	ヒューズ(1A)
PA505-6853-1	ヒューズ(2A)
37410-5552-1	ヒューズ(5A)
36730-7555-1	ヒューズ(10A)
35820-7556-1	ヒューズ(15A)
36919-5665-1	ヒューズ(20A)

◆スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，ヒュージブルリンクと同じ機能をもつもので，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は原因を調べ，代用品を使用せず純正部品を使用してください。

品　番	品　名
34670-3453-1	スローブローヒューズ(40A)

◆ランプの交換

ランプが切れていないか点検し，切れている場合は交換してください。

●ヘッドランプ（12V　15W）
●モニターランプ（14V　1.4W）

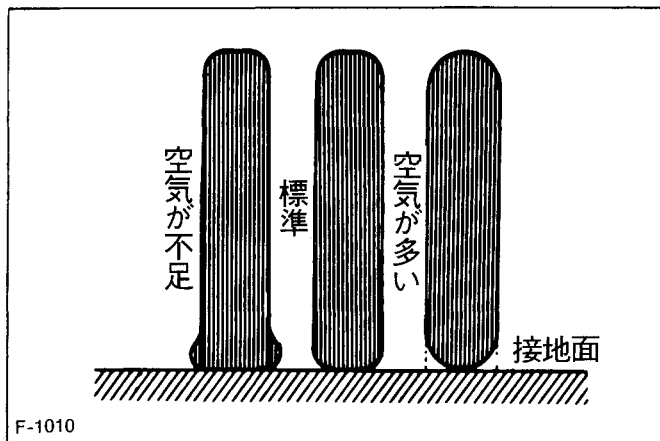
品　番	品　名	備　考
PA401-6849-1	デンキュウ	ヘッドランプ用
52300-4142-1	バルブ	モニタランプ用

■タイヤ空気圧の点検

前輪・後輪（T仕様）の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。

重 要

＊自動車と違い，タイヤチューブの容量が小さいので，空気圧は絶えず点検してください。
＊空気が不足するとパンクの原因になります。

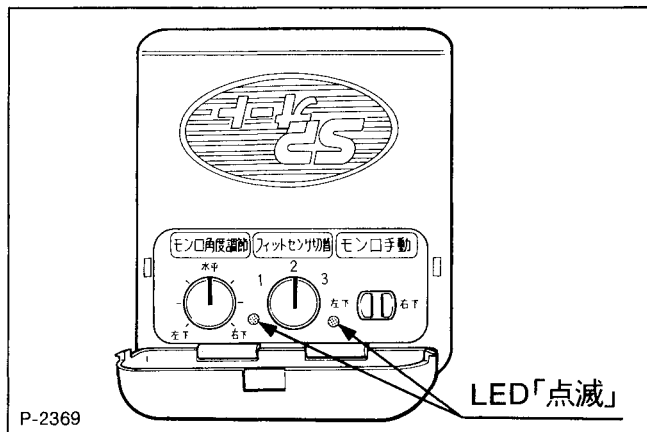
F-1010

◆標準空気圧

空　気　圧	3.0kgf/cm²

■コントローラの自己診断機能

(1)MAマイコン　SPオート〈SPA5·6A仕様〉
　Mマイコン　　SPモンロー〈SPA4·5·6M仕様〉

※作業中，モンローが動かない，油圧が働かない，また植付け爪が回転しないなどの不具合が発生した場合で，電装関係に起因する場合は，コントローラの赤，緑のランプ(LED)が点滅し，その回数により異常発生箇所が推定できます。次の表のNo②～④，⑪が表示されたときは部品交換が必要ですので，最寄りの販売店にご相談ください。

P-2369

No.	LEDの点滅回数	異常発生箇所	対応方法
①	赤1回	ローリングセンサ又は配線が不良です。	モンロ手動スイッチで植付け部を水平にし，植付け作業続行可能です。(62ページ参照)
②	赤2回	フロートセンサ又は配線が不良です。	フロートセンサを点検・交換してください。ロッド長はそのままで交換してください。
③	赤3回	植付けクラッチレバーセンサ又は配線が不良です。	植付けクラッチレバーセンサを点検・交換してください。
④	赤4回	5V供給用ハーネスが断線しています。	5V供給用ハーネスを点検・補修してください。
⑤	赤5回	爪クラッチONスイッチ，爪クラッチOFFスイッチのどちらかが不良又は配線が不良です。	付属部品の連結板と植付けクラッチレバー部に組付けてください。(62ページ参照)植付け作業続行可能です。
⑥	赤6回	リンクセンサスイッチが不良です。(接点溶着：ON状態)	リンクセンサスイッチのコネクタをはずしてください。上昇させるとリリーフがききますが植付け作業続行可能です。
⑦	赤7回	ポンパスイッチが不良です。(接点溶着：ON状態)	植付けクラッチレバーの手動操作により，植付け作業続行可能です。(62ページ参照)
⑧	緑1回	エンジン回転数信号が入力されていません。	アクセルレバーを最高回転にセットして植付け作業してください。
⑨	緑2回	フィットセンサ切替つまみが不良です。	植付け作業続行可能です。(フィットセンサ切替つまみ位置が2に固定となります。)
⑩	緑3回	車速レンジ信号が入力されていません。	車速を中速(0.8m/s)以下にして植付け作業してください。
⑪	緑4回	5V供給用ハーネスがショートしています。	5V供給用ハーネスを点検・補修してください。
⑫	緑5回	爪クラッチONスイッチ，爪クラッチOFFスイッチのどちらかが不良又は配線が不良です。	付属部品の連結板とバネを植付けクラッチレバー部に組付けてください。(62ページ参照)植付け作業続行可能です。
⑬	緑7回	ポンパレバーあるいはマーカレバー内蔵の爪クラッチスイッチが不良です。(接点溶着：ON状態)	植付けクラッチレバーの手動操作により，植付け作業続行可能です。
⑭	赤1回	植付けクラッチモータ又は配線が不良です。	付属部品の連結板とバネを植付けクラッチレバー部に組付けてください。(62ページ参照)植付け作業続行可能です。
⑮	赤2回	モータの過負荷防止機能が作動しています。(正常動作)	植付け作業続行可能です。
⑯	緑2回	モータの過負荷防止機能が作動しています。(正常動作)	植付け作業続行可能です。

No.①～⑬は入力信号のチェックです。LED点灯時間：0.25秒

No.⑭～⑯は出力信号のチェックです。LED点灯時間：0.5秒　M仕様(SPモンロ)はNo.①⑮⑯のみ表示します。

重　要

＊異常箇所が同時に2つ以上発生した場合は，順番に繰り返し，LED表示を行います。

＊異常箇所修復後は，植付けクラッチレバーを“中立”にし，エンジンを始動すると，LEDが消灯します。

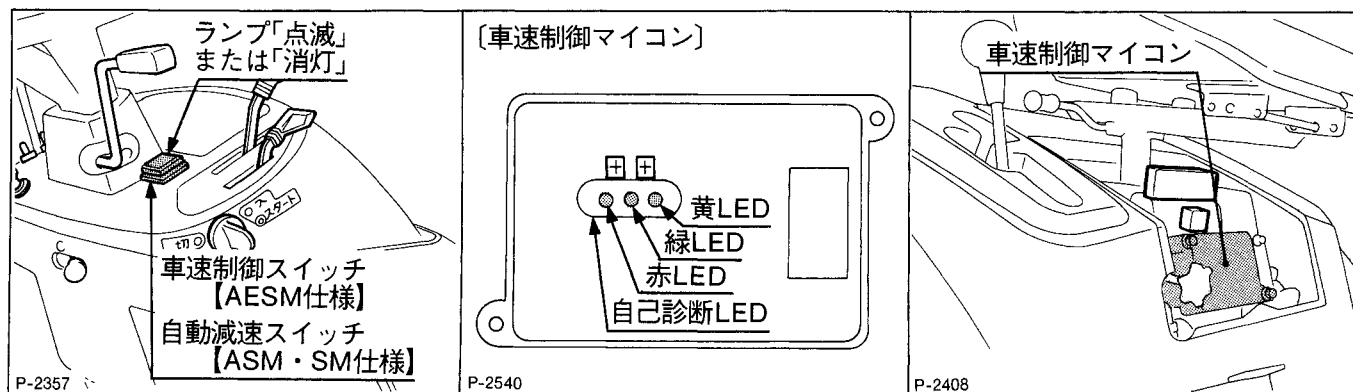
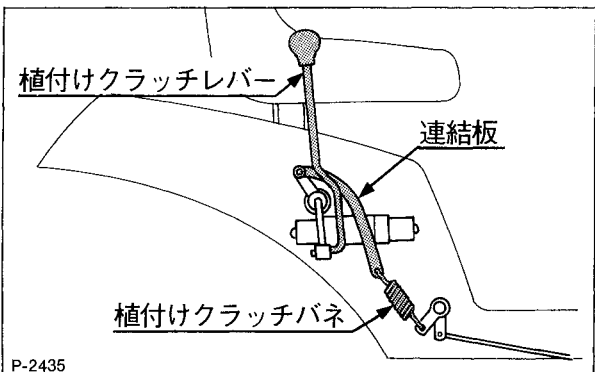
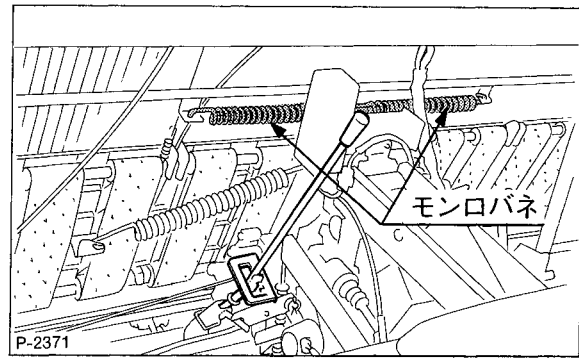
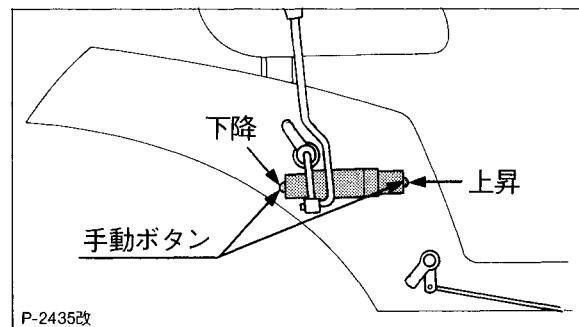
＊また，メインスイッチ“入”(エンジンが回転していない状態)時は，緑のLEDが1回点滅し続けます。(A仕様のみ)

＊この機能は，コントローラの入出力に関するチェック機能です。これ以外の原因で作動不良になることもあります。

(2)FCシフト，車速制御機能に異常が発生したときは，パネルの自動減速スイッチ(SM·ASM仕様)又は，車速制御スイッチ(AESM仕様)の**ランプが点滅または消灯します**ので，以下の点検を行ってください。

❶ランプが点滅するときは，エンジンを止め，電動シリンダ用のヒューズ(15A)が切れていないか確認し，スペアヒューズ(15A)と交換してください。(58ページのヒューズ交換の方法を参照)

❷次の場合は，最寄りの販売店にご連絡ください。

- ランプが点滅するのにヒューズが切れていない場合。
- ヒューズを交換してもすぐにきれる場合。
- エンジン始動後，自動減速スイッチ又は車速制御スイッチを **"入"** にしてもランプが消灯している場合。

No.	LEDの表示			パネルのランプ	異常発生箇所	対応方法
	黄	緑	赤			
0	―	―	―	―	1Aのヒューズが切れています。 バッテリコードが接続されていません。	• 1Aのヒューズを点検・交換してください。 • バッテリコードが接続されているか点検してください。
1	―	―	○	―	エンジン回転検出が不良です。	• 配線コネクタを点検してください。 • 電磁ピックアップを交換してください。
2	―	○	―	点滅	電動シリンダが逆方向に作動します。	• 配線・コネクタを点検してください。 • 電動シリンダを点検してください。
3	―	○	○	点滅	電動シリンダが作動しません。	• 15Aのヒューズを点検・交換してください。 • 配線・コネクタを点検してください。 • 電動シリンダを交換してください。 • リレーを交換してください。
4	○	―	―	点滅	主クラッチスイッチが不良です。	• 主クラッチスイッチを交換してください。
5	○	―	○	点滅	アクセルスイッチが不良です。	• アクセルスイッチが正しく取付けられているか確認してください。 • アクセルスイッチを交換してください。 • 車速制御を「切」にして作業してください。
6	○	○	―	○	電動シリンダ位置用角度センサの信号が規定値を超えています。	• 電動シリンダ位置用角度センサを交換してください。 • そのままでも作業は可能です。
7	○	○	○	○	FCレバー位置用角度センサの信号が規定値を超えています。	• FCレバー位置用角度センサを交換してください。 • そのままでも作業は可能です。
8	―	○	点滅	○	正常動作(高速側に変速している)を示しています。	――
9	○	―	点滅	○	正常動作(低速側に変速している)を示しています。	――
10	―	―	点滅	○	正常動作(変速を停止)を示しています。	――

- 上表で○：点灯　－：消灯です。
- No.8·9·10の赤LEDが点滅のときは，正常動作を示します。
- 車速制御マイコンの赤，緑又は黄色のランプ(LED)の表示により異常原因を知らせます。

■電装関係のトラブル緊急処置

まず60ページの自己診断表でチェックして，配線の断線，コネクタの接合不良を点検してください。

現　　象	電装品による原因	緊急処置
植付け爪が回らなくなった。	植付けクラッチモータが動かない。	付属品の中にあるレンケツイタとバネを図のように取付け，植付けクラッチレバーを動かしてください。
モンロが動かなくなり植付け部が傾斜して浮苗になる。	モンロモータが動かない。	①メインスイッチを「入」にして，コントローラの手動スイッチでモータを動かしてバネを中央に持ってくる。 ②メインスイッチを「入」にして，手動スイッチでもモータが動かないとき，モンロバネを外してモンロなしで植付けをする。
植付け部が上下しない。	電磁弁が動かない。	エンジンを始動させて，電磁弁のボタンを手で押して上下させる。
ポンパがきかない。	ポンパスイッチが故障して電磁弁，植付けモータが動かない。	手動レバー(植付けクラッチレバー)で植付ける。

使用後の手入れと長期格納

 注 意

＊清掃する場合は，必ずエンジンを停止させてから行ってください。

＊エンジンが過熱している間はシートをかけないでください。火災の原因になります。

＊燃料抜取り時は火気厳禁。

■作業後の手入れ

❶水洗い後，ゴミ・水滴を十分ふき取り，油をしみこませた布で清掃してください。

❷各グリース塗布個所にはグリース，注油個所には注油を行ってください。

❸塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着したら，必ずふき取ってください。

❹植付け爪の先端など，錆やすい所にはグリースを塗ってください。

❺各部のゆるみを調べ，増締めを行ってください。

重 要

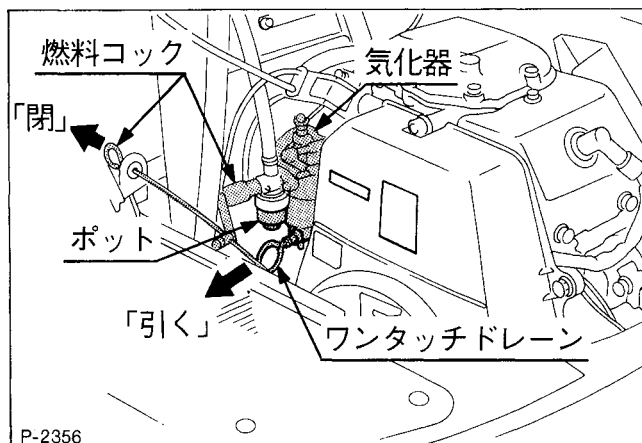
＊電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。

■長期格納時

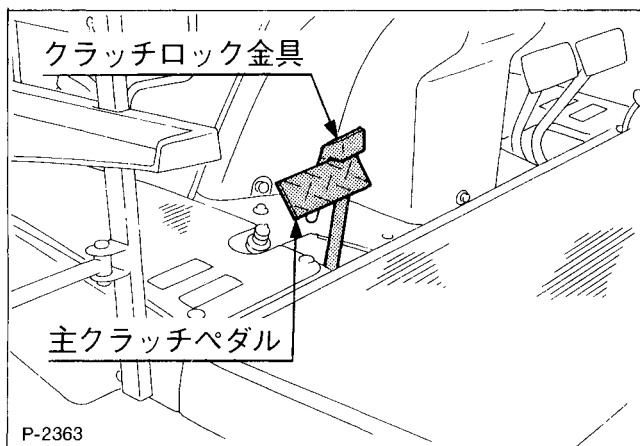
❶格納は，直射日光や雨の当たらない風通しの良い場所を選んでください。

❷燃料タンク及び燃料コックのポット内のガソリンを抜取ってください。

❸燃料コックを **"閉"** にして，気化器内のガソリンをワンタッチドレーンを引いて完全に抜取ってください。

P-2356

❹植付け部は降ろした状態にしてください。

❺主クラッチペダルは踏込んで，ロック金具をかけてください。格納中にクラッチ板がさびついて急発進する危険があります。

P-2363

❻バッテリはコードの⊖側を外すか，取外して暗い乾燥した場所に保管してください。

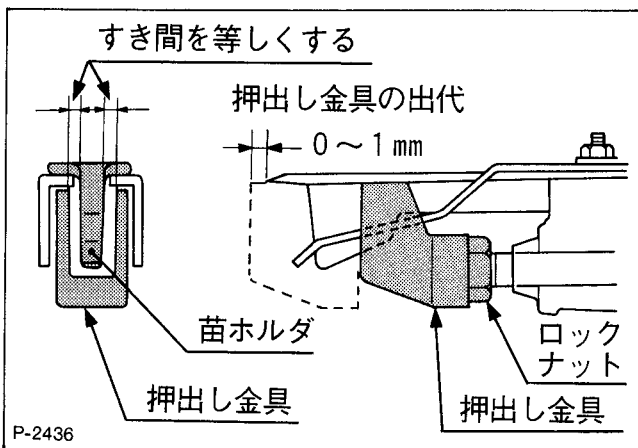
❼メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管してください。

CYP仕様の取扱い

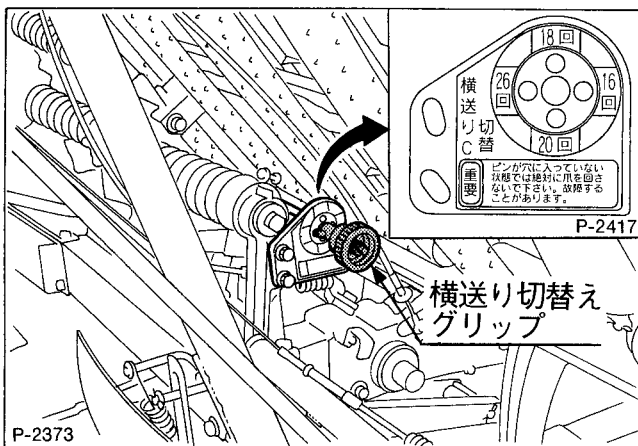
成苗ポット(CYP仕様)の植付け要領

■爪と押出し金具の交換

CYP仕様の出荷状態では，爪と押出し金具は中苗用がセットされています。成苗ポットを植付ける場合には，成苗ポット用の爪と押出し金具と苗ホルダ(標準付属品)に交換してください。

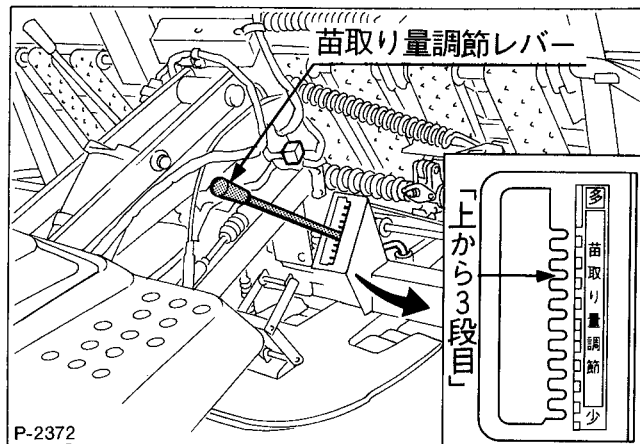
P-2436

■横送り切換えグリップを“16回”にする

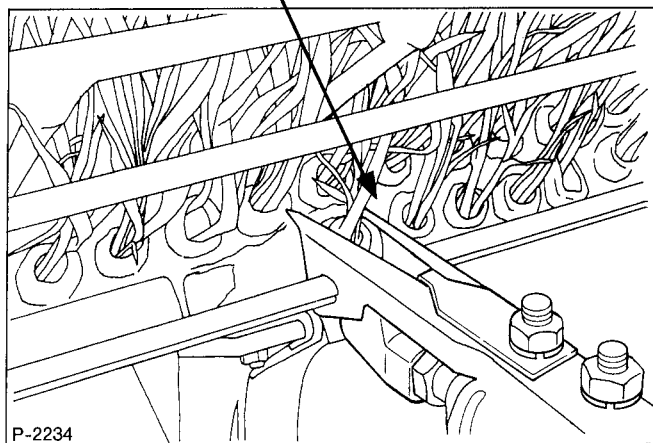
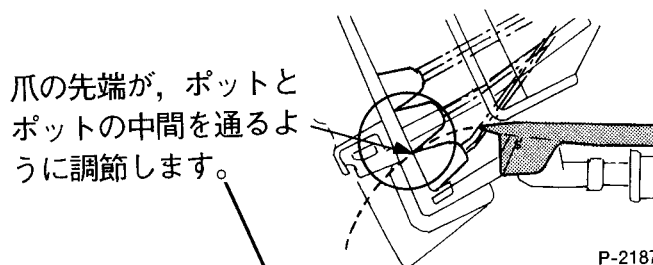
横送り切換えの調節方法は，41ページを参照してください。

P-2417
P-2373

■苗取り量調節レバーを“上から3段目”にする

❶苗取り量調節レバーを“上から3段目”の位置にします。

❷ポット苗の状態に合せて，適宜レバー位置を調節してください。

P-2372

❸目安としては，ポット苗と爪の関係が下図になることです。

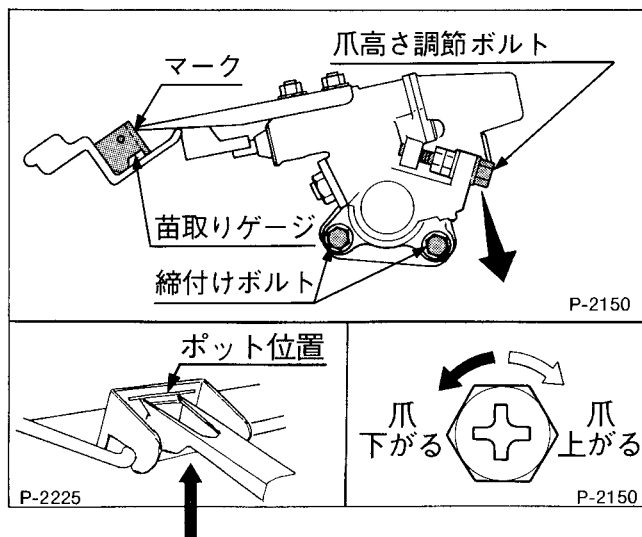
P-2187
P-2234

重 要

＊多すぎる…２個取る
＊少なすぎる…ポットが破れる
の不具合が発生します。
＊路上で試し取りを行い，ポット苗が正確に(各条均一に)分離されているのを確認してから，ほ場に植付けをしてください。

■爪の高さ調節

苗の減り方が極端に違うとき，また，ある条だけポットが破れたり，２個取ったりするときは，爪の高さが揃っていませんので，次の要領で各爪の高さを合わせてください。

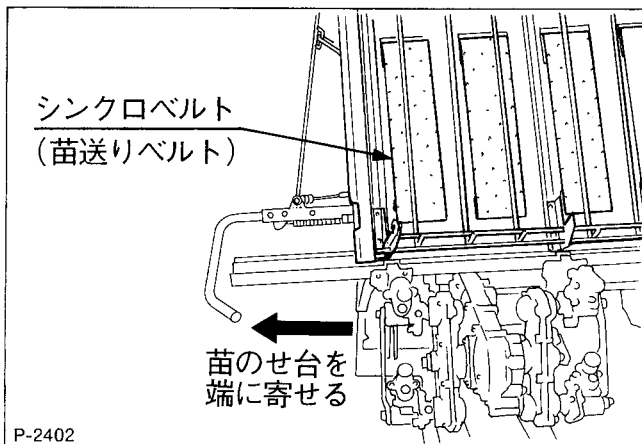
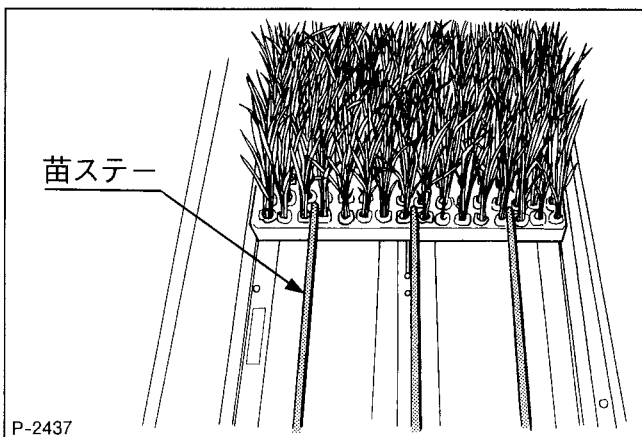
重　要

＊苗取り量調節時は，エンジンを必ず止めてください。

苗取り量調節レバーを“上から３段目”に合わせた状態で，爪の先端をゲージの印(ポット位置)に合わせる。

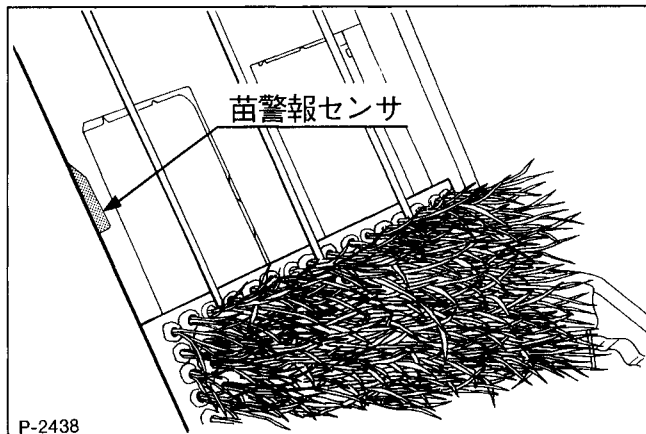
❶主クラッチを**“切”**にしてエンジンを停止します。(植付けクラッチレバーは**“入”**にしたまま)株間調節レバーを**“中立”**にします。
❷苗取り量調節レバーをいったん**“多い”**方向に動かした後**“上から３段目”**の位置にします。
❸しゅう動板の切欠き部に苗取りゲージを合わせ，爪をゲージの上の線(ポット位置)に当るまで，植付け回転ケースを手で回します。
❹植付けアームの２本の締付けボルトを緩め，爪高さ調節ボルトを回して，爪の高さを苗取りゲージのマークに合わせます。
❺調節時は爪の上方にガタをとりながら，ゲージに軽く当てて行ってください。
❻調節が終ったら２本の締付けボルトを十分締付けたあと，さらに爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
❼回転ケースを回し，もう１つの植付け爪も同様に調節します。
❽株間調節レバーを元に戻します。

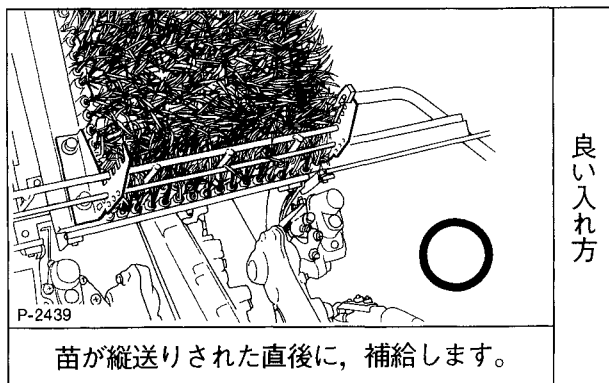
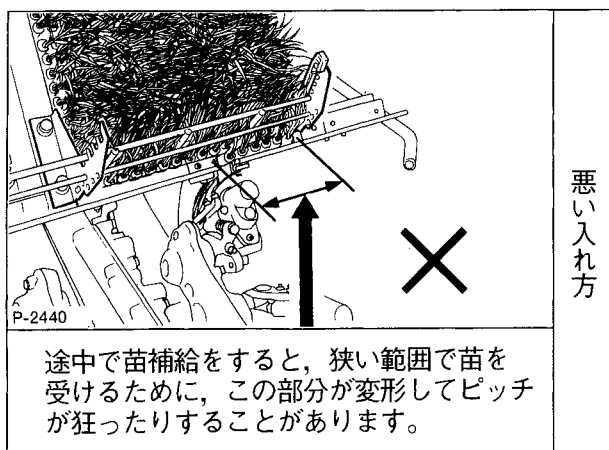
■苗の入れ方

◆最初に苗を入れるとき

❶主変速レバーを**“中立”**にします。
❷植付け部を30cm位の高さにし，油圧昇降ロックを右に回してロックします。
❸植付けクラッチレバーを**“入”**にして，苗のせ台を右端，又は左端に寄せ，シンクロベルト(苗送りベルト)が作動する直前に植付けクラッチレバーを**“中立”**にして，植付け爪を停止させます。

❹苗ステーの先端に苗を合せ，苗を入れます。

❺最初に苗を入れるときは，苗がしゅう動板まで下がっているか確認してください。

◆苗補給のしかた

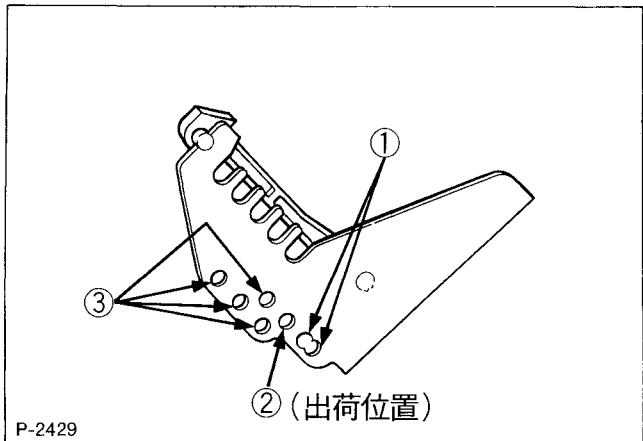
❶苗モニタが点滅し，ブザーが鳴ったら，直ぐに補給します。

苗の残りが少なくなってから補給すると，苗のピッチズレが発生しやすくなります。

❷苗の縦送り直後で補給します。

苗が縦送りされた直後に，補給します。

途中で苗補給をすると，狭い範囲で苗を受けるために，この部分が変形してピッチが狂ったりすることがあります。

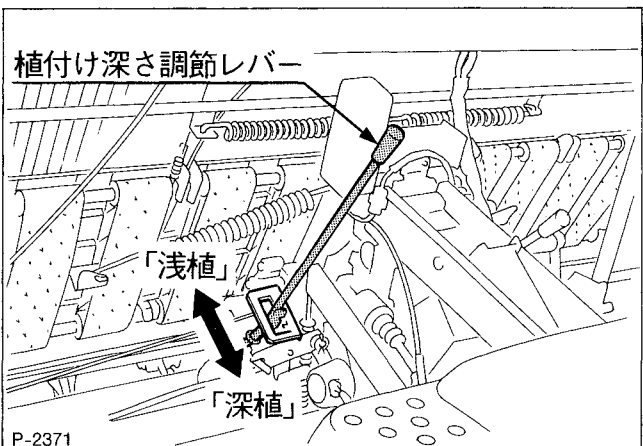
■苗おさえ棒の調節

苗の長さに応じて，また植付け姿勢が悪いときなどに調節します。

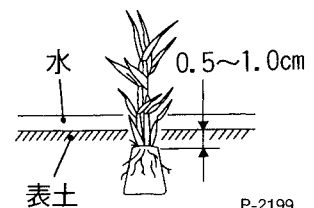
(1)苗が短い場合，苗が後倒れになる場合 ……①の穴

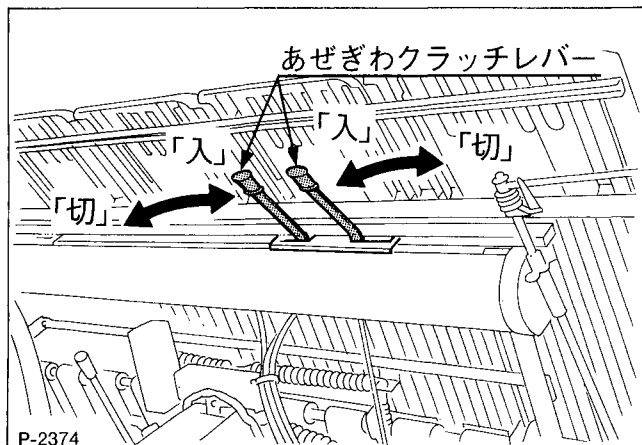
(2)苗が長い場合，苗が前倒れになる場合 ……③の穴

■植付け深さの調節

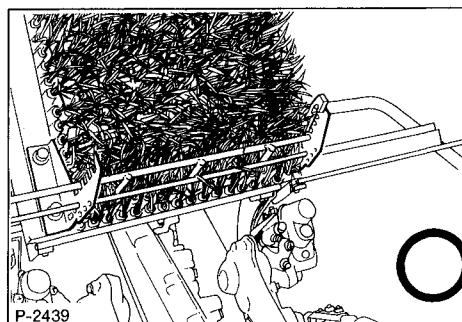
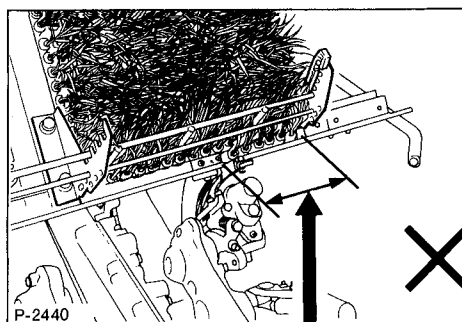
補 足

＊調節するときは植付け部を上げて行ってください。

＊ほ場の状態により植付け深さ調節レバーで適宜調節します。

＊ポットの上面が表土から0.5～1.0cmの深さになる程度が最適です。

＊第1葉の葉身が地上に出るように植付けます。

＊フィットセンサにより，感度調節を行うと植付け深さが変わる場合がありますので，再確認してください。

■あぜぎわクラッチレバーの使い方

ポット苗の植付けであぜぎわクラッチレバーを使用するときは，特に次の点に注意してください。

※あぜぎわクラッチを“切”のときも，“入”のときも，最初に苗をのせるときと同様，苗のせ台の両端で行ってください。

苗のせ台が両端で苗の縦送りが作動してからすぐ「切」又は「入」にします。

ポット苗の場合，途中から爪を動かすと欠株が増え，次の列の苗も崩れるために，欠株，ポットの破れ，苗の減り方の不揃いなどの不具合が発生しやすくなります。

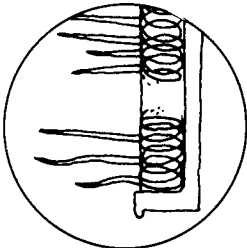
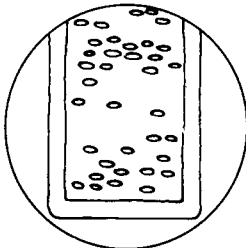
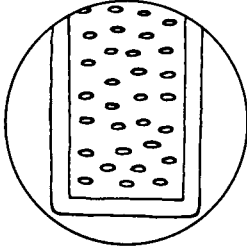
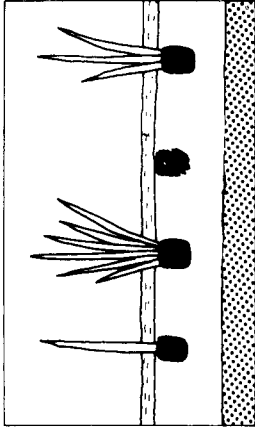
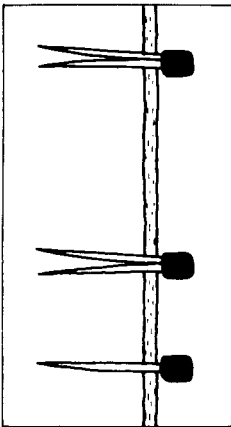
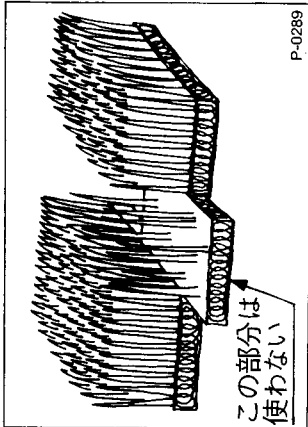
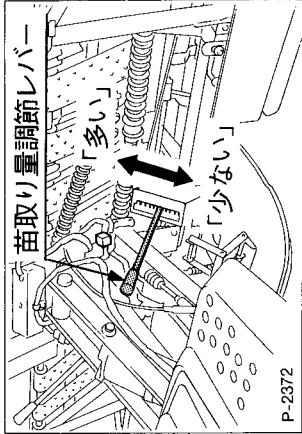
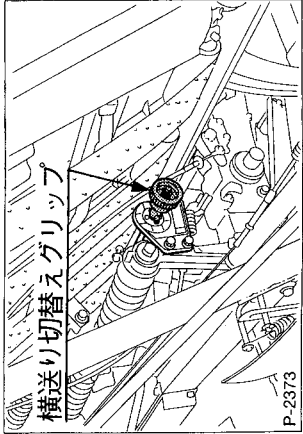
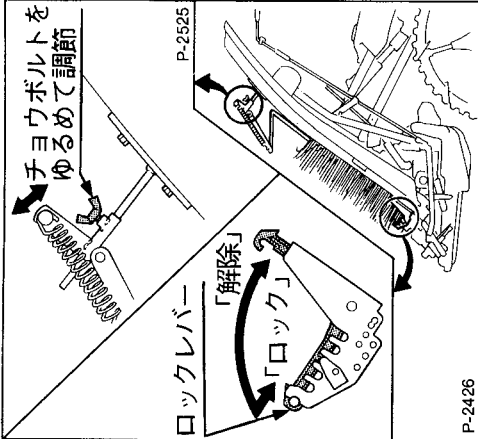
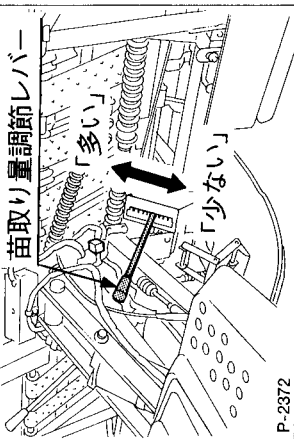
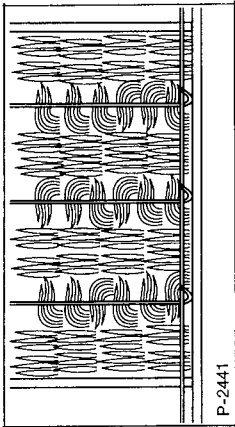
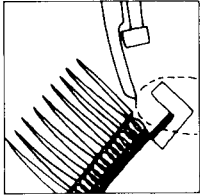
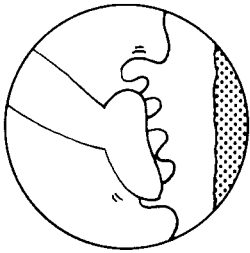
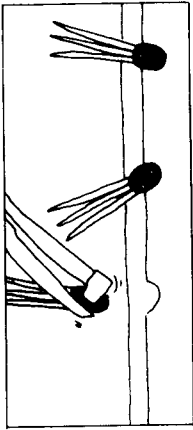
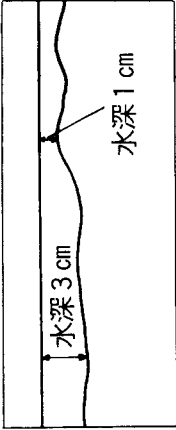
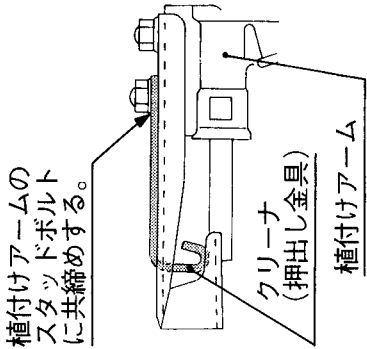
■その他の注意事項

項　　目	実　施　内　容	発生しやすい不具合状況
ほ場の水加減	●0.5～2.0cm程度の浅水にする。	●水が無いと，苗を離さず，持上げて欠株になることがある。 ●水が多すぎると，植付け時に苗が浮いたり，流されたりする。
苗の水分加減	●植付け前日に水をかける。(当日は，かん水を避ける。)	●苗の条件を一定にしていないと，各条均一に減らない。
ほ場の硬さ	●手植え程度(指であいた跡がゆっくりとじる。)	●植付け深さが不安定になる。
苗取り量	●爪を交換した場合は，必ず苗の取り量調節をしてください。	●各条の苗取り量が狂う。
苗補給	●苗モニタが点滅するまでに早め早めに苗補給をする。	●苗と苗の間にすき間ができたりして，欠株ができやすい。
植付け速度	●ほ場・苗状況を見ながらスピードを上げる。	●浮苗，姿勢の乱れが発生する。 ●ポットの床土，苗が弱いとき，ポットのかき取りにズレが発生しやすい。

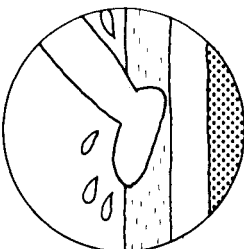
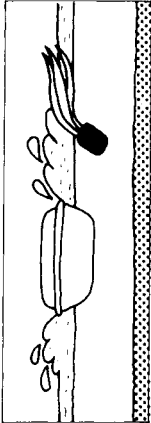
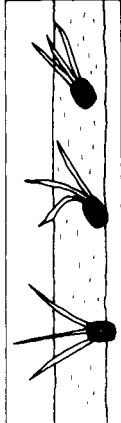
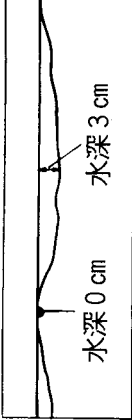
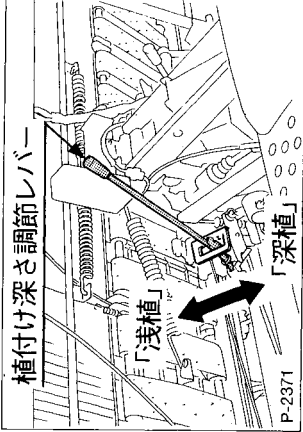
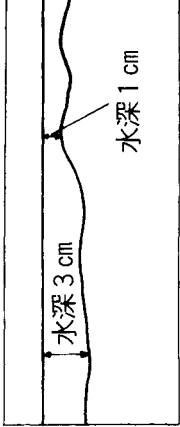
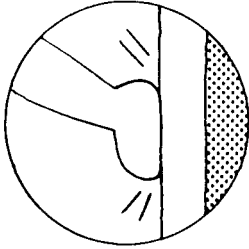
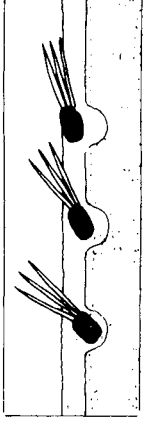
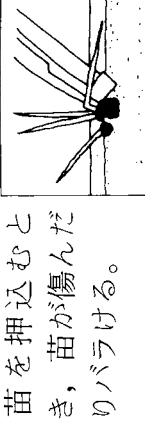
乗用田植機の不調と処置

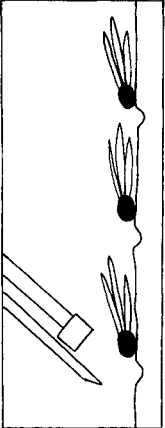
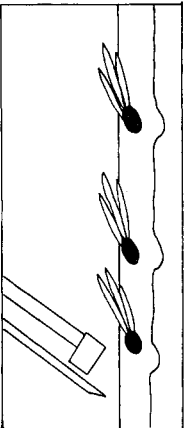
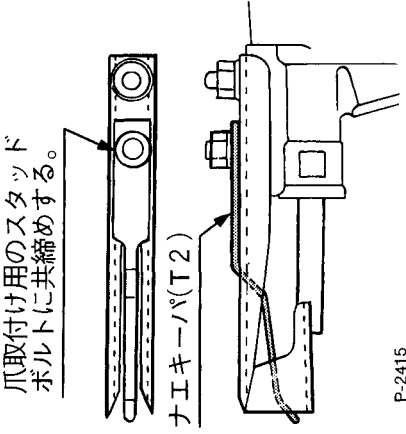
次のようなトラブルが起こったら！

ページ

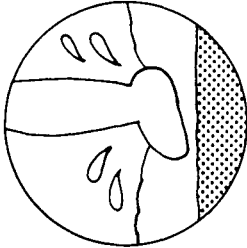
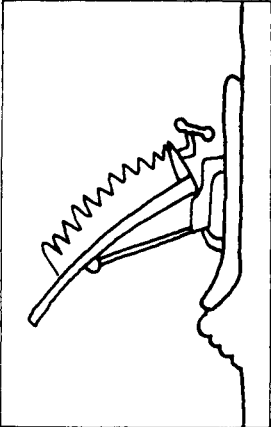
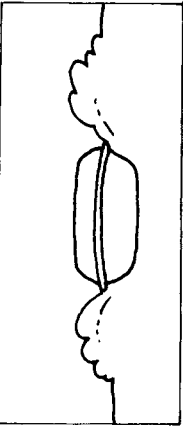
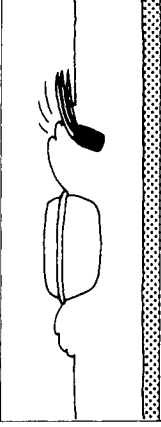
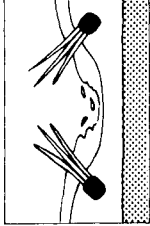
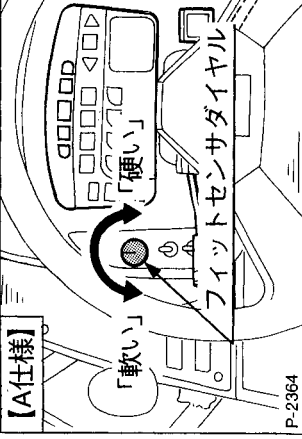
欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 **注意** このような苗は使用しない。	• 植付け本数がバラついたり欠株が出る	**苗の処置** ①生育の悪い部分やハゲたところを切取って植付ける。 ②悪い苗は，使用しない(補植に使用する)。	この部分は使わない P-0289
苗の播種ムラがひどい苗		**機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。(横送り量を多くする。) (41ページ参照)	苗取り量調節レバー 「多い」 「少ない」 P-2372
播種量が少ない苗	• 植付け本数が少なくなり欠株が出る。	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取り量は多く，横送り回数は少なくする。(横送り量を多くする。) (41ページ参照)	横送り切替えグリップ P-2373

P-0302　　P-0321　P-0324改

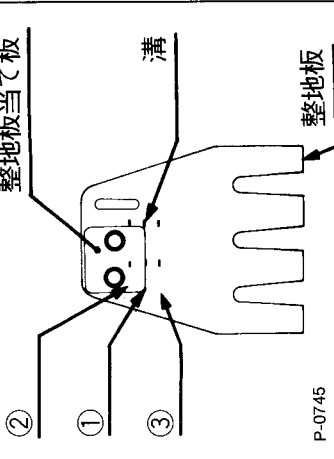
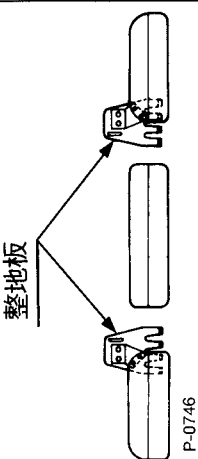
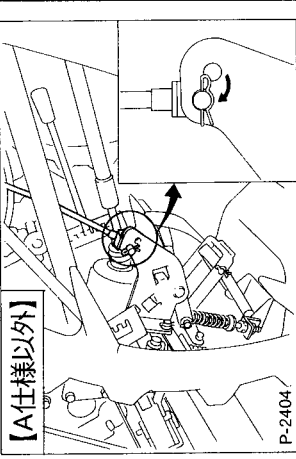
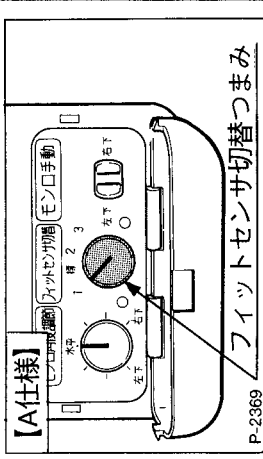
欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
苗床がうすく又根張りが悪い苗 苗床が軟らかすぎる苗	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。	**機械の処置** • 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち，くずれを防止する。(16ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚が2㎝以上の苗を使用する。 ②苗床を乾かして硬めにする。	チョウボルトをゆるめて調節 P-2525 ロックレバー 「解除」 「ロック」 P-2426
苗床が厚い苗 **注意** 苗床厚(マット厚)が4㎝以上の場合，植付け爪が苗を取ることができない(植付け困難)。	①苗がうまく取れないため，苗取量が少なくなったり欠株が出る。 ②爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。 ③苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株が出る。	**機械の処置** ①苗取り量を多少多くして苗を取るようにする。(41ページ参照) ②苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。(16ページ参照) **苗の処置** ①苗床厚(マット厚)が2.5～3㎝になるよう切落す。切落せない場合はその苗は使用しない。 ②植付け前にかん水してすべりを良くする。	苗取り量調節レバー 「多い」 「少ない」 P-2372 P-0285 2.5～3㎝に切落とす

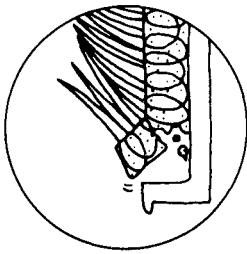
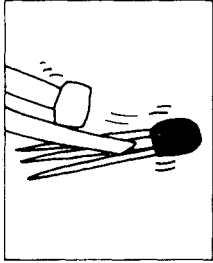
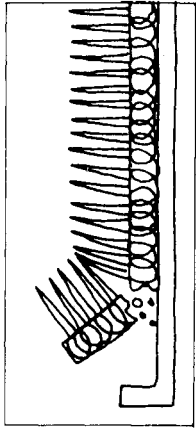
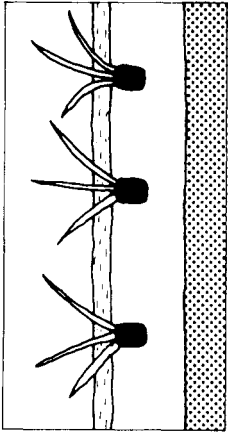
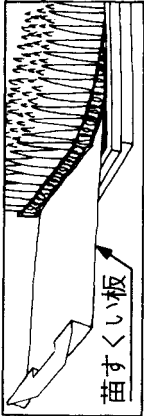
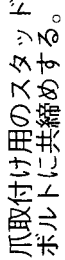
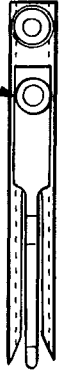
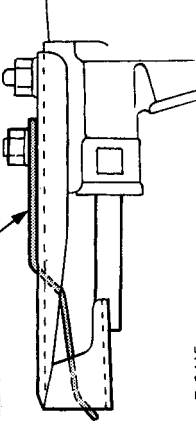
P-0302　　P-0302　P-0316　P-0467　P-0317

欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
苗の入り方が悪い。 P-2441	苗が苗ステーに引っかかって落ちない。	**苗の処置** 引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。
床土が粘土質で粘りが強い苗。 粘土質のほ場でしかも水が少ない。	植付け時，苗が植付け爪より離れず欠株が発生する。	**苗の処置** 苗床を乾き気味にする。又は水につけ十分水分をもたせる。 **ほ場の処置** ほ場に水を1～3㎝程張り苗が爪より離れやすくする。 水深3㎝ 水深1㎝ **機械の処置** クリーナ(押出し金具)を取付ける。(87ページ参照) 植付けアームのスタッドボルトに共締めする。 クリーナ(押出し金具) 植付けアーム P-2412

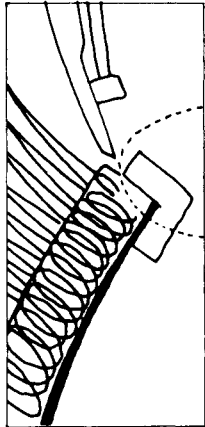
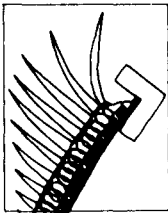
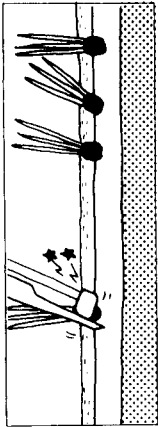
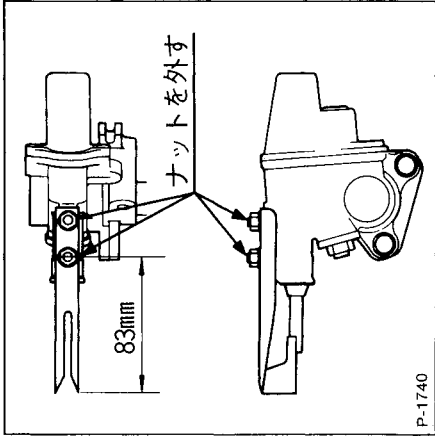
P-0302 P-0314 P-0283

浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
水深が3cm以上あるほ場。 注意 水深が3cm以上のほ場では，植付けが乱れやすい。	①フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗又は，隣接苗が倒れる。 ②植付姿勢が悪い又浮苗が発生する。	**ほ場の処置** 水を落す。水深0～3cmにする。 **機械の処置** ①植付け速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 ②植付け深さを許せる範囲で深めにする。	水深0cm　水深3cm 植付け深さ調節レバー 「浅植」 「深植」 P-2371
ほ場が硬い。	①爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。 ②苗を押込むとき，苗が傷んだりバラける。	**ほ場の処置** ①再度代かきして植えやすい硬さにする。 ②水を1～3cm入れ軟らかくして植える。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	水深3cm 水深1cm

P-0302　P-0310　P-0283　P-0282

浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
根張りが悪く，床土が砂質の苗で，しかも苗が爪から離れやすく，水につかると床土が溶ける苗。	①苗がころぶ。 P-2413 ②水がある場合，浮苗が出る。 P-2414	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** ①根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 ②床土は水に溶けにくい土質のものにする。 ③植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** ナエキーパ(Ｔ２)を爪に付ける。 (87ページ参照) 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。 ナエキーパ(Ｔ２) P-2415

浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)	
表面がトロトロで軟らかいほ場。	①フロートが沈み，泥を押す。 ②泥を押して，隣接苗を倒す。 ③フロート通過跡の溝が大きくなり，そこに土が流れ込むとき，植えた苗が内側に倒れる。	**ほ場の処置** • 水を落として表面を硬くする又は表面を落着かせる。(植付けを延期する)。 **機械の処置** ①フィットセンサレバー又はダイヤルを軟らかい方へ移動させ泥を押さないようにする。 ②植付け速度を遅くする。	【A仕様】「軟い」「硬い」フィットセンサダイヤル P-2364 【A仕様以外】フィットセンサレバー「硬い」「軟い」 P-2361 P-2411

P-0302 P-0308

浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
		③整地板を上げる。 (③の位置まで上げる。) ④フィットセンサレバー(A仕様はフィットセンサダイヤル)を1にしてもフロートの沈下が大きい場合1つ上の穴にセンサワイヤを移してください。A仕様はフィットセンサ切替つまみを「1」にセットしなおしてください。

浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
根張りの悪い苗 床土に粘りがなくくずれやすい苗 P-0302	①苗が植付ける前に植付け爪から落ち浮苗となる。 ②苗を取り出すとき苗がくずれる。 ③植付けた苗がバラける。 P-0313	**苗の処置** ①苗床に少し水気をもたせる。 ②苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** • 植付け速度を遅くする。 • ナエキーパ(Ｔ２)を使用する。(87ページ参照) 苗すくい板 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。 ナエキーパ(T2) P-2415 P-0284

植付けが乱れる・欠株が出る

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
植付け爪の異常 ・爪の摩耗 ・爪の変形 ・押出金具の変形 ・押出金具が十分押し出さない。	①苗を取らずに欠株となる。 ②苗取り後残りの苗がバラケル。 ③押出金具が押しきらず植付けが乱れる。	**機械の処置** ①植付け爪と押出金具の点検。 ・爪の曲がりを直す。 ・押出金具の曲がりを直す。 ②爪，押出金具等の部品を新品と交換する。

83mm
ナットを外す
P-1740

P-0316　P-0317　P-0306

その他の不具合

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
株間が狭くなる 深いほ場 強粘土質のほ場	①走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。 ②機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** ①補助車輪をとりつけてスリップを少なくする。 ②株間一段広くして坪当り株数を確保する。
苗の草丈が長すぎる 草丈が20cm以上ある苗の植付け。	①植付けた苗が爪に押されて傾く。 ②植付けた苗がアーチ状になる。	**苗の処置** 葉先を20cm以下に切りそろえる。 **機械の処置** ①植付け深さを深めにする。 ②植付け速度を遅くする。 ③苗おさえ棒の位置を一番上に上げる。

P-2448　P-2449　P-0304　P-0319

その他の不具合

このような状態で(原因)	このようになる	どうする(処置方法)
夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株，ワラ，雑草などが多量に露出しているほ場。 	①夾雑物の上では，苗が植わらなかったり，植付け姿勢が悪くなったりする。 ②夾雑物がフロート又は整地板で押されてたまる。 	**ほ場の処置** ①代かき時，夾雑物をすき込む。 ②耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。 **機械** ①植付け深さをやや深くする。 ②植付け速度を遅くする。 ③整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。 植付け深さ調節レバー 「浅植」 「深植」 P-2371

P-0312

付表

主要諸元

型式	SPA4			SPA5							SPA6						
区分	—	M〈W〉	L	—	M	D	DM	SM〈W〉	ASM	AESM	—	M	D	DM	SM	ASM〈W〉	AESM
形式	自走式																
駆動方式	4輪駆動																
機体寸法 全長(作業時)(mm)	2680(2770)			2960(3330)							2960(3330)〔G仕様：3135(3505)〕						
機体寸法 全幅(作業時)(mm)	1600(2020)			1910(2475)							2210(2925)〔C仕様：2390(3195)〕						
機体寸法 全高(mm)	1370			1470							1470〔G仕様：1495〕						
機体寸法 最低地上高(mm)	370			405(G仕様：430)													
重量(kg)	400	405		480	485	495	500				505		520(G仕様：540)			525(G仕様：545)	
エンジン 名称	GH250-P			GH340-PS		GH340-PW					GH340-PS		GH340-PW				
エンジン 形式	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン																
エンジン 総排気量(cc)	247			340													
エンジン 出力/回転速度(PS/rpm)	6/1800(最大8.5)			8.5/1800(最大11.3)													
エンジン 使用燃料	自動車用レギュラーガソリン(無鉛)																
エンジン タンク容量(ℓ)	8																
エンジン 始動方式	セルモータ式																
走行部 かじ取り方式	アッカーマン方式(S・D仕様：インテグラルパワーステアリング方式)																
走行部 車輪 種類個数 前輪	空気入りゴムタイヤ2個																
走行部 車輪 種類個数 後輪	ゴム片ラグ車輪2個		ゴム両ラグ車輪2個														
走行部 車輪 外径(mm) 前輪	600(G仕様：650)																
走行部 車輪 外径(mm) 後輪	800			850(G仕様：900)													
走行部 変速段数(段)	F8(植付4)・R4							F2・R1(無段変速)			F8(植付4)・R4				F2・R1(無段変速)		
植付部 植付部の位置	後植え																
植付部 植付部の昇降方式	油圧式																
植付部 植付部の装着方式	平行4点リンク																
植付部 植付方式	ロータリ式																
植付部 植付条数(条)	4			5							6						
植付部 植付条間(cm)	30(C仕様：33)																
植付部 植付株間(cm)	21, 18, 16 (V仕様：18, 16, 13) 〈W仕様：27, 24, 30〉			21, 18, 16, 14, 12(C仕様：14, 12, 11)〈W仕様：30, 27, 24〉 (C2仕様：21, 18, 16, 14, 12)													
植付部 植付株数(株/3.3m²)	50, 60, 70 (V仕様：60, 70, 85) 〈W仕様：35, 40, 45〉			50, 60, 70, 80, 90(C仕様：70, 80, 90)〈W仕様：35, 40, 45〉 (C2仕様：45, 55, 60, 70, 80)													
植付部 植付深さ(cm)	1～4(5段階)																
植付部 一株本数調節方法	苗横送り量4段：16回, 20回, 26回, 30回(C仕様：16回, 18回, 20回, 26回)縦掻取量：8～18mm																
植付速度(m/秒)	1.20			1.35													
作業能率(分/10a)	18～			13～							11～(C仕様：10～)						
苗の条件 苗の種類	マット苗																
苗の条件 草丈(cm)	8～25																
苗の条件 葉令(葉)	2～4.5																
予備苗とう載数(箱)	4(オプション4)			6(オプション4)							6(オプション6)						

機能装備一覧

装備＼区分		SPA4			SPA5							
		—	M	MW	—	M	D	DM	SM	SMW	ASM	AESM
セルモータ式		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フートアクセル		—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪	空気入りゴムタイヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪	ゴムラグ車輪	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪ローリング		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪デフロック		—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪デフロック		○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
副変速	SPシフト	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	SPスーパーシフト	—	—	—	○	○	○	○	—	—	—	—
	FCシフト	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
副変速付(2段)		○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコン車速制御	マイコンソフトクルーズ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	マイコンソフトスタート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	ワンショット減速	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
3段株間		○	○	○	—	—	—	—	—	○	—	—
5段株間		—	—	—	○	○	○	○	○	—	○	○
SPマーカ(フィンガータッチレバー)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロータリチェア		—	○	○	—	—	—	—	○	○	○	○
パワーステアリング		—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○
延長苗のせ台		—	—	—	○	○	○	○	○	○	○	○
SPモンロ(マイコン式)		—	○	○	—	○	—	○	○	○	○	○
縦送り超ロングベルト		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横送り4段切替え		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
感度調節	速度連動フロート感知方式 メカ式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
	速度連動フロート感知方式 マイコン式(SPオート)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
	フィットセンサダイヤル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
マルチポンパ・バックアップ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
モニタ	エンジン負荷表示	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	アワーメータ	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
	変速表示	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
	燃料計 残	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—
	燃料計 3段	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
	苗・植付けクラッチ他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

装備＼区分	SPA6											
	―	M	D	DM	SM	ASM	ASMW	AESM	DMCY	SMCY	ASMCY	AESMCY
セルモータ式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フートアクセル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪 空気入りゴムタイヤ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪 ゴムラグ車輪	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪ローリング	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
後輪デフロック	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
前輪デフロック	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
副変速 SPシフト	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
副変速 SPスーパーシフト	○	○	○	○	―	―	―	―	○	―	―	―
副変速 FCシフト	―	―	―	―	○	○	○	○	―	○	○	○
副変速付(2段)	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
マイコン車速制御 マイコンソフトクルーズ	―	―	―	―	―	―	―	○	―	―	―	○
マイコン車速制御 マイコンソフトスタート	―	―	―	―	―	―	―	○	―	―	―	○
マイコン車速制御 ワンショット減速	―	―	―	―	○	○	○	○	―	○	○	○
3段株間	―	―	―	―	―	―	○	―	○	○	○	○
5段株間	○	○	○	○	○	○	―	○	―	―	―	―
SPマーカ(フィンガータッチレバー)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ロータリチェア	―	―	―	―	○	○	○	○	―	○	○	○
パワーステアリング	―	―	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
延長苗のせ台	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SPモンロ(マイコン式)	―	○	―	○	○	○	○	○	○	○	○	○
縦送り超ロングベルト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横送り4段切替え	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
感度調節 速度連動フロート感知方式 メカ式	○	○	○	○	○	―	―	―	○	○	―	―
感度調節 速度連動フロート感知方式 マイコン式(SPオート)	―	―	―	―	―	○	○	○	―	―	○	○
感度調節 フィットセンサダイヤル	―	―	―	―	―	○	○	○	―	―	○	○
マルチポンパ・バックアップ	―	―	―	―	―	○	○	○	―	―	○	○
モニタ エンジン負荷表示	―	―	―	―	―	―	―	○	―	―	―	○
モニタ アワーメータ	―	―	―	―	○	○	○	○	―	○	○	○
モニタ 変速表示	―	―	―	―	―	○	○	○	―	―	○	○
モニタ 燃料計 残	○	○	○	○	―	―	―	―	○	―	―	―
モニタ 燃料計 3段	―	―	―	―	○	○	○	○	―	○	○	○
モニタ 苗・植付けクラッチ他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- 保証書　1
- 取扱説明書　1
- 苗ストッパ　1
- ゲージ　1
- 油差し　1
- 本機カバー　1
- スローブローヒューズ　1
- 連結板　1
- じょうご　1
- スタータキー　1
- 苗すくい板　条数分
  【CY仕様：1枚】

- ボルト(M8×35)　4条…………2
- ゴム付座金(M8)　5条，6条…3
  (植付ケースのチェーンテンション張り用交換部品です。)
- ウエツケヅメアッシ(17.5R)【CYP仕様のみ】　1
- ガイド(トリダシグチ，18.5)【CYP仕様のみ】　6
  (中苗用爪と押出し金具で植付けたときに，極端に植付け本数がばらつくとき，本機にセットされているガイド(トリダシグチ21.5)と交換するための部品です。但し，ポット爪【ウエツケヅメアッシ(17.5R)】を使用するときは使用できません。)

- 工具
  - 10—12スパナ　1
  - 14—17スパナ　1
  - 19—22スパナ　1
  - 21—26スパナ　1
  - ⊕ドライバ　1
  - ⊖ドライバ　1
  - プライヤ　1
  - プラグボックス　1
  - 工具袋　1
- 連結板【A仕様】　1
- スプリング【A仕様】1
  (A仕様で植付けモータトラブル時に使用します。(62ページ参照))

主な消耗部品

消耗部品を下記に示しますので，常に機械を点検して部品の交換をよく心がけてください。これが田植機を長持ちさせる秘訣です。

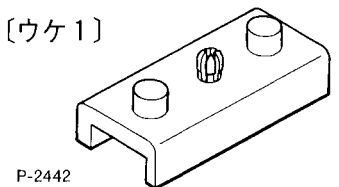
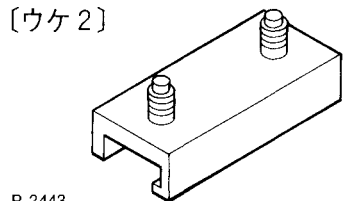
品　　名	品　　番	対　象　機　種	備　　考
ベルト(35.6IN)	PA401-8132-2	SPA4	駆動ベルト 亀裂破損時交換
ベルト(36.6IN)	PA401-8133-2		
Vベルト(945mm)	PA501-8123-2	SPA5·6	
ウケ(1)	45654-4614-1	全機種	SPA4：2個 SPA5：2個 SPA6：1個
ウケ(2)	45654-4615-3		SPA4：2個 SPA5：2個 SPA6：3個

〔ウケ1〕

P-2442

〔ウケ2〕

P-2443

- 植付け爪　57ページ参照
- ヒューズ　58ページ参照
- 電球　58ページ参照

特別付属部品（別売）

■補助車輪

品　名	品　番	仕様	対象機種	条件
キット（補助車輪,4）	PA401-9820-1	鉄ラグ φ730	SPA4	b
キット（補助車輪, 5,外狭）	PA501-9860-1	鉄ラグ(狭) φ800	SPA5 SPA6	b
キット（補助車輪, 6,内）	PA601-9810-1	鉄ラグ φ800	SPA6	b
キット（補助車輪, 6C,内）	PA606-9810-1	鉄ラグ φ800	SPA6-C	b
キット（補助車輪, 5T,外）	PA501-9820-1	タイヤ φ810	SPA5 SPA6	a
キット（補助車輪, 5,外,ゴムラグ）	PA501-9890-1	ゴムラグ φ800	SPA5 SPA6	a
キット（補助車輪, 6T,内）	PA601-9820-1	タイヤ φ810	SPA6	a
キット（補助車輪, 6G,外狭）	PA615-9890-1	鉄ラグ(狭) φ850	SPA6-G	b
キット（補助車輪, 6G,内）	PA615-9820-1	鉄ラグ φ850	SPA6-G	b
キット（補助車輪, 6GT,外）	PA615-9830-1	タイヤ φ860	SPA6-G	a
キット（補助車輪, 6GT,内）	PA615-9840-1	タイヤ φ860	SPA6-G	a

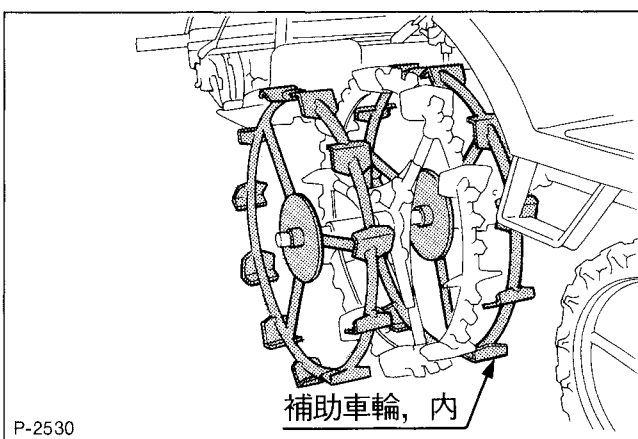
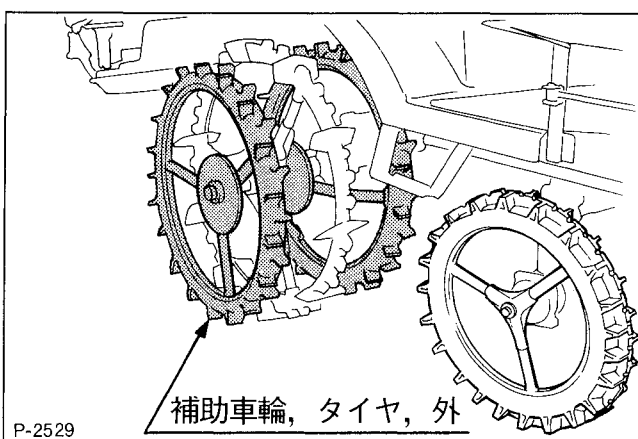
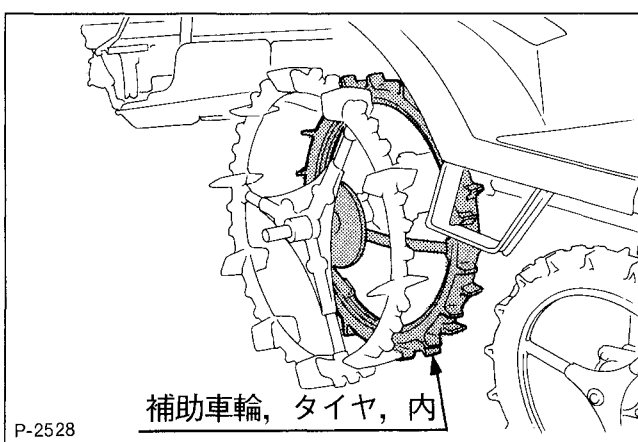
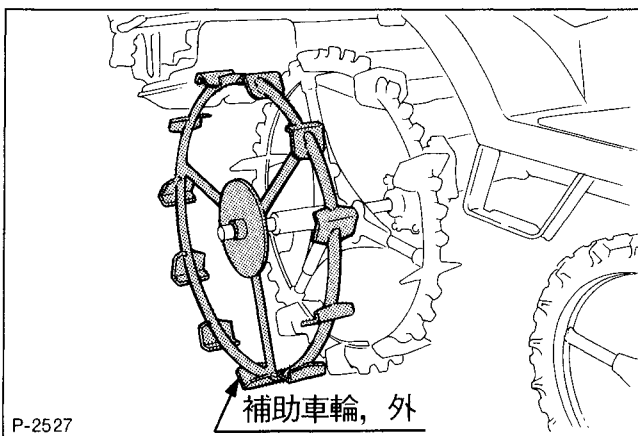
ほ場条件		
	a	泥炭地のような耕盤の，特に軟弱な所
	b	ほ場に暗渠又は1部だけ深いところ

※６条植えにのみ内，外の両側に補助車輪を装着できます。ほ場が深く軟弱なところでは有利です。

P-2527

P-2528

P-2529

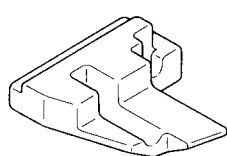
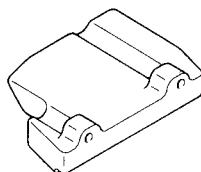
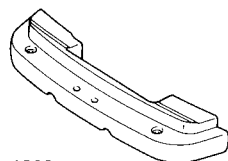
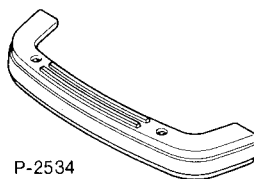
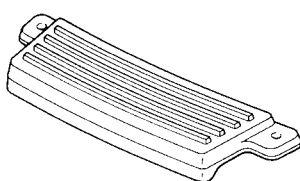
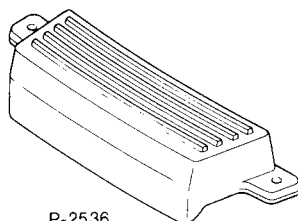
P-2530

■前部ウエイト

深いほ場で前輪が浮上がるのを防止し，直進性，走行性が良くなります。

品　名	品　番	仕様	対象機種
キット (ウエイト,LH)	PA401-9870-1	13kg エンジン フレーム左側	SPA5(Fナシ) SPA6(Fナシ)
キット (ウエイト,RH)	PA401-9880-1	13kg エンジン フレーム右側	SPA4(全機種) SPA5(全機種) SPA6(Fナシ)
キット (ウエイト,25)	PA401-9890-1	25kg エンジン フレーム前	SPA4(Fナシ) SPA5(Fナシ) SPA6(Fナシ)
キット (ウエイト,30)	PA401-9895-1	キット(ウエイト25)の上にのせる	SPA4(Fナシ) SPA5(Fナシ) SPA6(Fナシ)
ウエイト12 アッシ	44368-9380-1	キット(ウエイト30)の上にのせる	全機種
ウエイト25 アッシ	44566-9380-1	キット(ウエイト30)の上にのせる	全機種

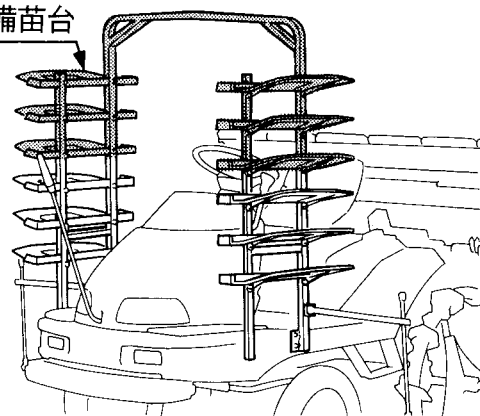
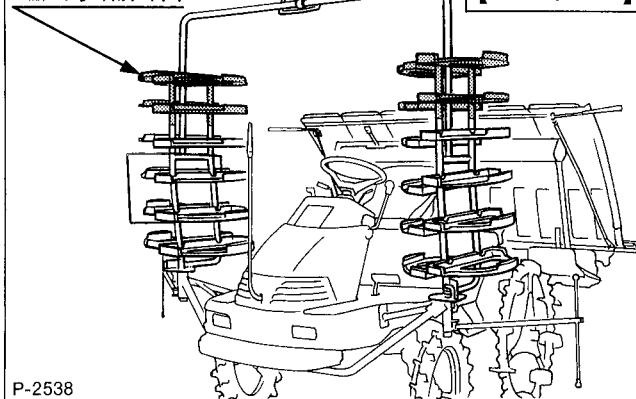
キット(ウェイト、LH)　キット(ウェイト、RH)

P-2531　P-2532

キット(ウェイト、25)　キット(ウェイト、30)

P-2533　P-2534

ウェイト12アッシ　ウェイト25アッシ

P-2535　P-2536

■延長予備苗台

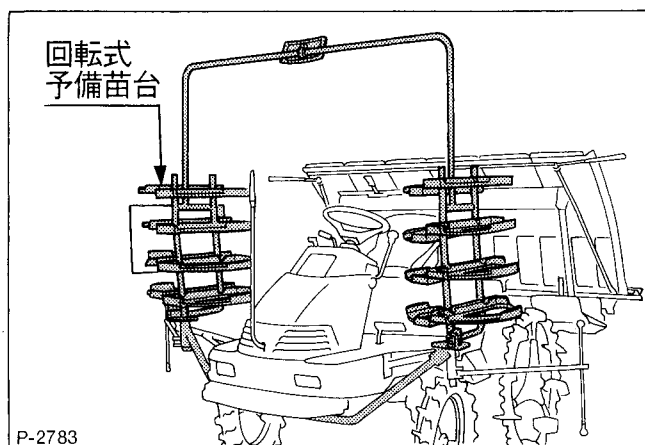
延長予備苗台を追加，取付けると，倍の予備苗を載せることができ，大きなほ場などでは便利であり，能率的です。

品　名	品　番	仕様	対象機種
キット (延長予備苗台,4)	PA401-9840-1	4枚追加	SPA4
キット (延長予備苗台,5)	PA501-9840-1	4枚追加 アーチ付	SPA5
キット (延長予備苗台,6)	PA601-9840-1	6枚追加 アーチ付	SPA6
キット (延長予備苗台,6CY)	PA606-9850-1	8枚追加	SPA6-CY

P-2537

P-2538

■回転式予備苗台

予備苗を箱のまま16枚載せることができ，レバーにより予備苗台が360°回転するために，能率的な作業ができます。※CY仕様は標準装着

品　名	品　番	仕様	対象機種
キット (予備苗台,回転)	PA501-9848-2	16枚 ミラー付	SPA5 SPA6

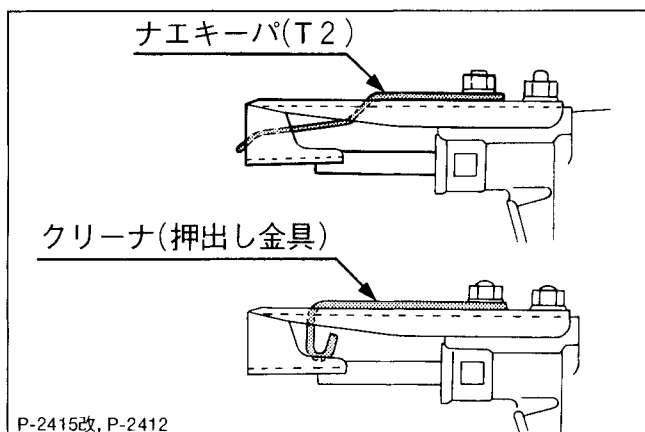
P-2783

■苗キーパ・クリーナ

苗こぼれによるバラケ，浮苗を防止します。

品　　　名	品　　　番	備　　考
ナエキーパ(T２)	PA401-5372-1	SPA4：８個 SPA5：10個 SPA6：12個

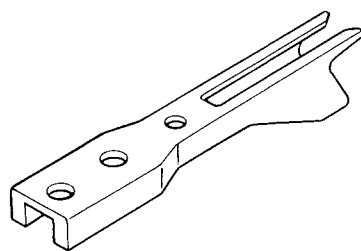
爪の間に苗が詰まり，植付けが乱れたときなどに有効です。苗を詰まらなくする効果があります。

品　　　名	品　　　番	対象機種
クリーナ，アッシ (押出し金具4)	45403-9390-1	SPA4
クリーナ，アッシ (押出し金具5)	45503-9390-1	SPA5
クリーナ，アッシ (押出し金具6)	45603-9390-1	SPA6

P-2415改，P-2412

■乳苗爪

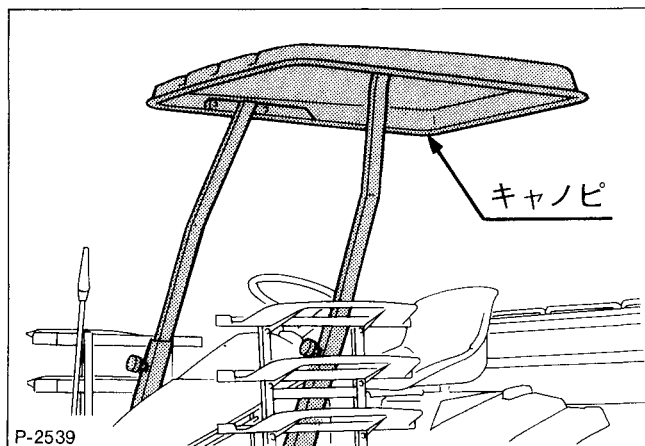
専用床材(チビッコパワー)を用いた乳苗を植付ける際に使用します。

品　　　名	品　　　番	備　　考
ツメ(ニュウビョウ)	45403-9951-1	SPA4：８個 SPA5：10個 SPA6：12個

P-2627

※横送り回数を **“30回”** にして使用してください。

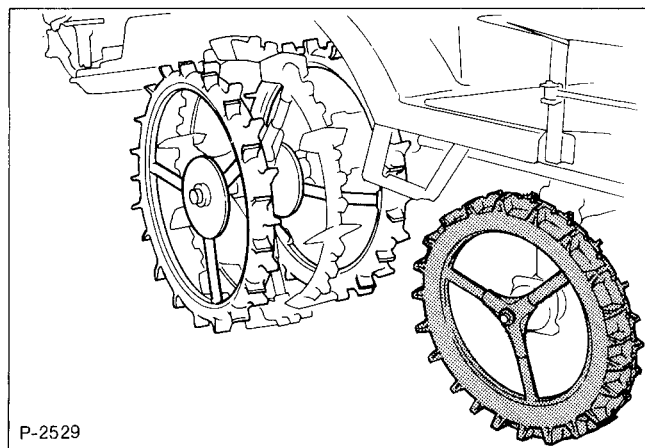
■キャノピ

品　名	品　番	仕様	対象機種
キャノピアッシ	PA401-9850-1	日よけ	全機種 (SPA6-CYを除く)

P-2539

■広幅前輪タイヤ

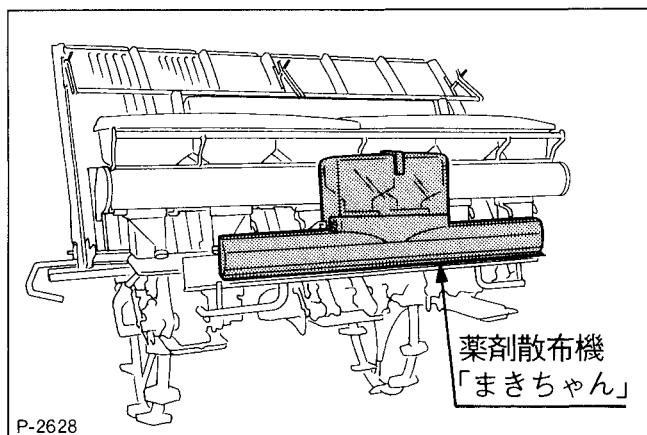
ほ場の耕盤が軟弱で，後進時に前輪が沈下する条件で沈下を少なくできます。

品　名	品　番	仕様	対象機種
前輪タイヤ 95アッシ	44816-2300-1	幅95 径 ϕ620 空気入りタイヤ	SPA5 SPA6
車輪キット (F, 620)	45824-2300-1	幅120 径 ϕ620 空気入りタイヤ	SPA6

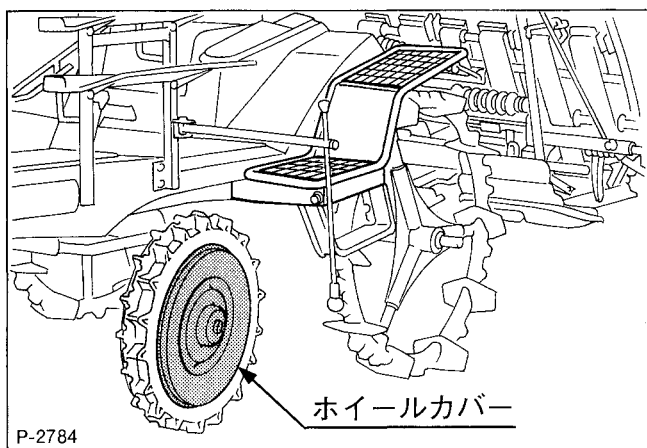
P-2529

■薬剤散布機「まきちゃん」

田植えと同時に除草剤の散布ができます。
同時作業で省力化がはかられ，また除草剤が体につかず安心，快適作業ができます。

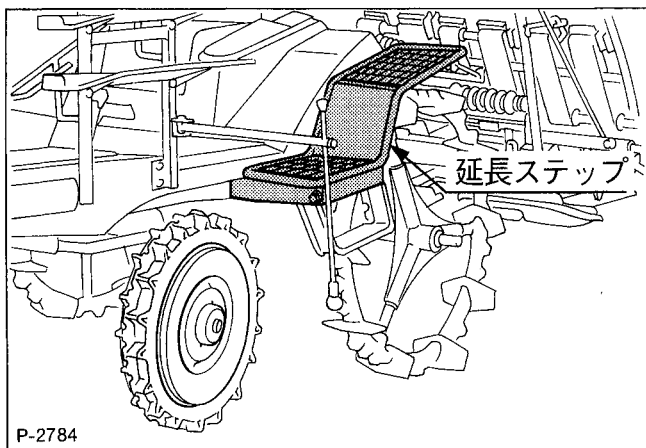
品　名	品　番	対象機種
CS45(J)	4C411-9002-1	SPA4(施肥機なし仕様)
CS45F(J)	4C412-9002-1	SPA4F(施肥機付仕様)
CS55(J)	4C511-9002-1	SPA5(施肥機なし仕様)
CS55F(J)	4C512-9002-1	SPA5F(施肥機付仕様)
CS65(J)	4C611-9002-1	SPA6(施肥機なし仕様)
CS65F(J)	4C612-9002-1	SPA6F(施肥機付仕様)

条間33cmのC仕様には取付きません。

■ホイールカバー

田旋回時の泥の持上げを減らし，直進性が良くなります。

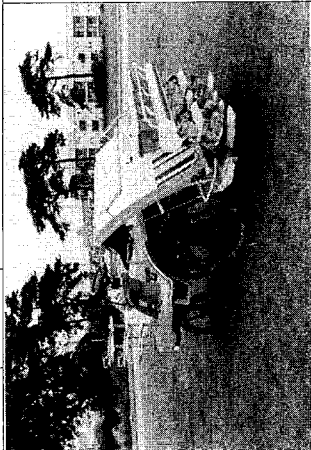
品　名	品　番	対象機種
キット (ホイールカバー)	PA401-9817-1	全機種 (C仕様以外)

■延長ステップ

苗補給に便利で作業性が良くなります。

品　名	品　番	対象機種
キット (エンチョウステップ)	PA501-9882-1	SPA5 SPA6
キット (エンチョウステップG)	PA614-9882-1	SPA6-G

田植機（土付き苗用）検査成績表

合格番号	型式名	クボタ　SPA6
93006	依頼者名	株式会社　クボタ
	住　所	大阪府大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

生物系特定産業技術研究推進機構

- ■形　　式：乗用型6条植
- ■機　　関：6 3 kW {8 5 PS}
- ■苗の種類：マット苗
- ■植付方式：回転式強制植付
- ■施肥装置付き（粒状肥料）
- ■植付部水平自動制御装置付き
- ■パワーステアリング付き

I　主要諸元・構造

1．機体の大きさ（格納時）

- ■全　長：300 cm
- ■全　幅：221 cm
- ■全　高：147 cm
- ■質　量：630 kg

2．機　関

- ■型 式 名：クボタ GH340-PW
- ■種　　類：空冷4サイクルガソリン
- ■出　　力：6.3 kW {8.5 PS}/1800 rpm
- ■始動方式：セルモータ式

3．走行部

- ■速 度 段：主変速　前進2段，後進1段（植付1段）
  副変速　無段
- ■駆動方式：4輪駆動
- ■車　　輪：前輪　空気入りゴム車輪
  後輪　ゴムラグ車輪

4．植付部

- ■苗の種類：マット苗
- ■植付部位置：後部
- ■フロート：3個
- ■植付部高さ制御方式：自動，油圧式
- ■植付方式：回転式強制植付
- ■植　付　爪：板爪（押出し爪付き）
- ■条　　間：30 cm
- ■条　　数：6条
- ■株　　間：12，14，16，18，21 cm
- ■植付深さ：1.0～4.0 cm（5段）
- ■苗横送り量：9，11，14，18 mm/株
- ■縦かき取り量：8～18 mm（10段）

5．施肥装置

- ■肥料の種類：粒状肥料
- ■肥料のホッパ：23.5 ℓ×2個
- ■繰出方式：溝付ロール式
- ■作溝位置：苗の側方4.5 cm，深さ5 cm

II　検　査　成　績

1．試験条件

■ほ場条件

項目	値
ほ場区画	52×27 m
土　性	シルト質埴土
水　深	1 cm
耕盤までの深さ	17 cm
さげふり貫入深さ（注1）	10 cm

（注1）底面直径3 6cm，高さ4 4cm，質量115gの円錐を1 mの高さから落とした時の貫入深さ。

■供試苗

項目	値
品　種	朝の光
播種量	175 g/箱（催芽籾）
葉　令	2.6 葉
草　丈	11.6 cm

■供試肥料

性状＼種類		高度化成	配合 A	配合 B	配合 C
みかけの密度(g/㎤)		0 95	0 97	1.03	1 04
粒度分布(%)	2 mm以下	3 7	0 3	11 8	7 7
	2～2 83	23.1	40 8	37 0	41 3
	2.83～4	71.7	58 7	50 4	50 9
	4 mm以上	1.5	0.1	0 8	0.0

■運転条件

項目	条件
作業人員	2名
速度段	植付
設定株間	16 cm
植付深さ調節	浅い方から3段目
苗横送り調節	26回取り（11 mm）
縦かき取り量調節	多い方から7段目（11 mm）
設定施肥位置	苗の側方4.5 cm，深さ5 cm
設定繰出量（注2）	40 kg/10 a

（注2）車輪のすべり率10%の時の繰出量

2．作業能率・精度（供試肥料：高度化成）

植付面積(注3)	作業速度	車輪のすべり率	作業時間(注4)	ほ場作業量	苗使用量
1221 ㎡	0.79 m/s	4.9 %	24.4 min	30.0 a/h	18.1 箱/10 a

施肥量	条間×株間	植付深さ	1株本数	全欠株率	連続欠株率
39.8 kg/10 a	29.9×16.6 cm	2.7 cm	5.1 本	0.3 %	0 %

（注3）枕地は含まない。　（注4）苗及び肥料のほ場への配置時間は含まない。

3．繰出性能

■開度と繰出量

単位：kg/10 a

開度＼種類	高度化成	配合 A	配合 B	配合 C
1.0	8.8	9.8	10.4	10.8
2.0	22.2	23.3	24.3	25.4
3.5	40.3	41.9	44.6	45.6
5.0	58 3	60.0	63.7	65 8
6.5	76.3	79.6	82.9	87.4

ただし，車輪のすべり率10%の時の繰出量

4．その他

■　植付部水平自動制御装置は，傾斜センサーにより植付部の左右方向の傾きを感知し，植付部を水平にする装置である。

■　安全装備：可動部・高温部の防護カバー，その他の装置

III　付　記

1．本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成2年3月20日農林水産大臣公表）に定められた田植機の第II類に属するものである。

田植機（土付き苗用）検査成績表

合格番号	型式名	クボタ SPA5
93005	依頼者名	株式会社 クボタ
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

平成5年8月 日
生物系特定産業技術研究推進機構

■形　　式：乗用型５条植
■機　　関：６３kW｛８５PS｝
■苗の種類：マット苗
■植付方式：回転式強制植付
■施肥装置付き（粒状肥料）
■植付部水平自動制御装置付き
■パワーステアリング付き

Ⅰ 主要諸元・構造

1．機体の大きさ（格納時）
■全　長：297 cm
■全　幅：191 cm
■全　高：146 cm
■質　量：590 kg

2．機　関
■型式名：クボタ GH340-PW
■種　類：空冷４サイクルガソリン
■出　力：6.3 kW｛8.5 PS｝/1800 rpm
■始動方式：セルモータ式

3．走行部
■速度段：主変速　前進２段，後進１段
（植付１段）
副変速　無段
■駆動方式：４輪駆動
■車　輪：前輪　空気入りゴム車輪
後輪　ゴムラグ車輪

4．植付部
■苗の種類：マット苗
■植付部位置：後部
■フロート：３個
■植付部高さ制御方式：自動，油圧式
■植付方式：回転式強制植付
■植付爪：板爪（押出し爪付き）
■条　間：30 cm
■条　数：５条
■株　間：12，14，16，18，21 cm
■植付深さ：1.0〜4 0 cm（５段）
■苗横送り量：９，11，14，18 mm/株
■縦かき取り量：８〜18 mm（10段）

5．施肥装置
■肥料の種類：粒状肥料
■肥料のホッパ：15 5 ℓ×１個，23.5 ℓ×１個
■繰出方式：溝付ロール式
■作溝位置：苗の側方4.5 cm，深さ５ cm

Ⅱ 検査成績

1．試験条件

■ほ場条件

ほ場区画	50×23 m
土性	シルト質埴土
水深	0 cm
耕盤までの深さ	15 cm
さげふり貫入深さ（注１）	11 cm

（注１）底面直径3 6cm，高さ4 4cm，質量115ｇの円錐を１ｍの高さから落とした時の貫入深さ。

■供試苗

品種	朝の光
播種量	175 ｇ/箱（催芽籾）
葉令	2.6 葉
草丈	11.6 cm

■供試肥料

性状 ＼ 種類		高度化成	配合 A	配合 B	配合 C
みかけの密度(g/㎤)		0 95	0.97	1 03	1 04
粒度分布(%)	2 mm以下	3.7	0 3	11 8	7 7
	2〜2 83	23 1	40 8	37 0	41.3
	2 83〜4	71 7	58 7	50 4	50 9
	4 mm以上	1.5	0 1	0 8	0 0

■運転条件

作業人員	２名
速度段	植付
設定株間	16 cm
植付深さ調節	浅い方から３段目
苗横送り調節	26回取り（11 mm）
縦かき取り量調節	多い方から７段目（11 mm）
設定施肥位置	苗の側方4.5 cm，深さ５ cm
設定繰出量（注２）	40 kg/10ａ

（注２）車輪のすべり率10％の時の繰出量

2．作業能率・精度（供試肥料：高度化成）

植付面積（注３）	作業速度	車輪のすべり率	作業時間（注４）	ほ場作業量	苗使用量
1007 ㎡	0.95 m/s	4.7 ％	20.5 min	29.5 a/h	17.5 箱/10ａ

施肥量	条間×株間	植付深さ	１株本数	全欠株率	連続欠株率
38.8 kg/10ａ	29.5×16.9 cm	2.7 cm	4.6 本	0.5 ％	0.0 ％

（注３）枕地は含まない。　（注４）苗及び肥料のほ場への配置時間は含まない。

3．繰出性能

■開度と繰出量

単位：kg/10ａ

開度 ＼ 種類	高度化成	配合 A	配合 B	配合 C
1.0	8.8	9.8	10.4	10.8
2.0	22.2	23.3	24.3	25.4
3.5	40.3	41.9	44.6	45.6
5.0	58.3	60.0	63.7	65.8
6.5	76.3	79.6	82.9	87.4

ただし，車輪のすべり率10％の時の繰出量

4．その他

■　植付部水平自動制御装置は，傾斜センサーにより植付部の左右方向の傾きを感知し，植付部を水平にする装置である。

■　安全装備：可動部・高温部の防護カバー，その他の装置

Ⅲ 付　記

1．本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成２年３月20日農林水産大臣公表）に定められた田植機の第Ⅰ類に属するものである。

オイルはクボタ純オイルをお使いください

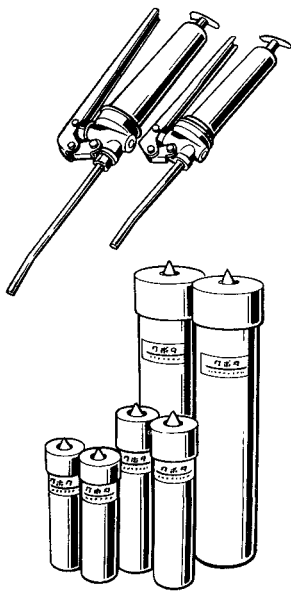
●オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

●エンジンには

クボタ純オイル

G10W30

ガソリン・灯油エンジン用

Z-1022

●田植機本体には

クボタ純オイル

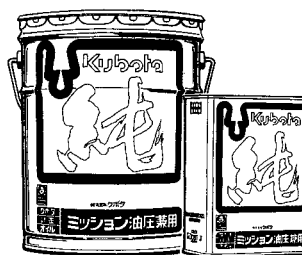
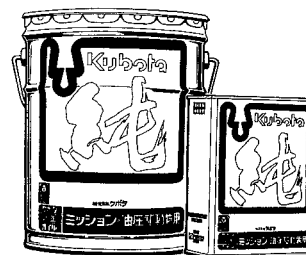
ミッション用

M80B　　NEW・UDT

Z-1024　　Z-1021

●グリースアップには

クボタスペアグリース

Z-1026

いずれもクボタが品質保証する最も
適したオイルです。
お買い求めは販売店またはJA農協へ
ご用命ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

SPA4, 5, 6
AA．△．19−19．20．AK

株式会社クボタ

本　　　　　　　社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東　　京　　本　　社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北　海　道　支　社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東　　北　　支　　社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中　　部　　支　　社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九　　州　　支　　社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札　　幌　　支　　店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙　　台　　支　　店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東　　京　　支　　店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大　　阪　　支　　店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡　　山　　支　　店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福　　岡　　支　　店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺　　製　　造　　所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇　都　宮　工　場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑　　波　　工　　場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚　方　製　造　所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋　田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙　台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東　京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新　潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金　沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大　阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米　子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡　山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高　松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福　岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊　本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　PA401－9751－6